地獄の泥水で惡魔をどやさうと云ふ態だからね。（退場）

エーゲーウス海の石の入江。
月が天心にいざようてゐる。

ジレーネ等

（岩の上に散在して，笛を吹いて歌ふ）

夜半の凄さに，テッサーリエンの
魔女等，君をば，おほけなくも，
引降ろしたることあれど，
今は靜かに，御惠の
光ただよふ敷波を，
夜の蒼穹より眺めまし，
波路に浮ぶこの群を，
照らさせたまへ，さやかにも。
あらゆる卒仕盡らじ，
惠ませたまへ，ルーナよ。

ネーロイス族とトリートン等（海の妖怪）

海原ひろくとよもし渡る，
するどき音を高く調べて，
海の底なる民呼び出せ。
猛き嵐の膠かしこみ，
海の靜けき底に逃ぐれば，
あえかなる歌，我等を招く。
見よかし，我等歡びに滿ち，
こがねの鎖，身にはまとひて，
玉ちりばめし冠にそへ，
帶さへ，腕の環さへ飾れり。
君がめぐみにあらぬものなし。

くだくる船と共に沈みし，
寶を，君等，入江の神は，
歌もて我等に引寄せ給ふ。

ジレーネ等

漂ひの世に憂なく，
涼しき海に安らけく，
魚の暮すを我等知る。
されど，祭に打ちつどふ
いましら，魚に優れりと，
今日こそ我等知りたけれ。

ネーロイス族とトリートン等

我等此處にと來つる前より，
しかせんものと考へゐたり，
はらから達よ，いざ疾く進め。
我等魚より優りたりてふ，
つよき證明を立てん爲には，
今日僅かなる旅にて足れば。

（遠ざかる）

ジレーネ等

またたく内に皆去りぬ。
ザーモトラーケの方さして，
追風のままに皆散りぬ。
綾にかしこきカビール[1]の，
國にて何をせんとかや。
くしき神なり。たぐひなし，
とはに自ら生れ出て，

1 カビール神はヴルカーンの子であつて，ザーモトラーケで特に崇拜せられる。此神の靈驗及びその神祕的な祭儀は燈な海上論議の對象であつた。

何物ぞとも知らぬめり。

憂みも深く，やさしくも，
御空にゐませ，ルーナよ。
長長し夜の明けやらで，
日の神，我等追はぬため。

ターレス（岸でホムンクルスに對ひ）

お前をネーロイス老人の所へ連れて行くのはたやすい。
あれの住んでゐる洞穴も遠くない，
併し，あれは意固地な老爺で，
酷の莫蘭のと云ふ，厭なひねくれ者だ。
全人類のする事なす事，
あの不機嫌者の氣に入らぬのだ。
それでも，未來の事があれに分つてゐるので，
だれもかれも敬意を表して，
あれのゐる場所で崇めてやつて置くのだ。
あれも人の爲に盡したことはあるにはある。

ホムンクルス

私達も試しに訪なうて見ませうよ。
まさか，すぐに硝子や火が臺無しになりはしますまい。

海神ネーロイス

人間の聲が耳に聞えて來るやうだな。
もう胸の底から齎に觸つて來る。
神神と肩を比べようと努力はするが，其癖
いつも，元の木阿彌でゐなければならない代物だ。
私は昔から，神樣らしく休めるのだが，
惱い者に仁慈をかけたい一念で動いて來た。
所で，此頃人間の仕遂げた事業を見ると，

宛然この私が助言をしたものとは思はれないて。

ターレス

それでも御老人，世間はあなたを信用してゐます。
あなたは賢者です，我我を逐拂はないで下さい。
此火を御覽なさい，人間らしいでせう，
それでゐて，全然あなたの御意見に從ふのです。

ネーロイス

意見だつて。昔から意見が人間に行はれた事があるか。
眞角要領を得た言葉は，頑固な耳には這入らない。
何遍しくじつて，自分ながら愛憎がつきても，
懲り性もなく，人間は我を張り通すものだ。
あのパーリスにだつて，外國の女があれの
好色心を絲でからまぬ內に，父親らしく意見をしたのだ。
ギリシアの岸邊にあれは大膽に立つてゐたが，
私は靈の眼で見た事を，あれにかう云つて聞かせたのだ，
空は烟り立ち，紅い色が漂り渡つて，
棟は燃え上がり，下では虐殺が亂に行はれる，
トローイアの審判の日だ，歌に綴つて
幾千年の後にも傳へられる恐ろしさだ。
所が老人の言葉を，あの向不見奴，笑談と思つた，
色情に引きづられて，到頭イーリオスの都は落ちた——
長い苦しみの揚句に，硬直つた巨大の死骸だ，
ピンドゥスの神山に棲む鷲の喜ぶ餌食となつた。
ウリ．スにだつてさうだ，魔女ツィルツェの手管も，
ツ．クローブの恐ろしさも，私が云はない事ではない。
あれの遍巡も，あれの家來共の難率も，
なんでも云つて聞かせた。それが役にでも立つ事か。
さんさん揺られた揚句，ずつと後になつて，

波の惠みで人を歡待す岸へ着くには着いたが。

タ一レス

賢人にとつては，そんな行り方は苦痛の種でせう，
だが，善人はもう一度やつてみるものです。
極微の謝恩も，ひどく善人を喜ばせて，　8130
千斤の忘恩を塡め合はせるに十分でせう。
わたし達は容易ならぬ事をお願ひするのです，
あの坊やが，怜悧にも，發生したいと望んでゐます。

ネーロイス

私の久振りの好い氣分を害ねてくれるな。
今日はそんな事とは全然違つた用事がある，　8135
私の娘達は海の女神のドーリス族だが，
みんな此處へ呼寄せたのだ。
オリュムプの神山にも，お前達の世界にも，
あんなに起居振舞の美しい女はない。
此上もない愛嬌のある物腰で，龍の背中から　8140
ひらりとネプトゥーヌスの馬に飛乘つて，
波の泡の上にだつて乘れさうに見える程，
水とはしつくり柔かに合體してゐる。
一番美しいガラテーは，女神エーヌスの
色も彩な貝殼の車に乘つて來る，　8145
あれはキプリスが私達に背いてから，
パーフォスで女神として祀られてゐるのだ。
それであの優しい女は，エーヌスの後嗣として，
祠堂のある町と，玉座の車を疾うから持つてゐる。

あつちへ行つてくれ。父としての歡びの日に，　8150

1 パーフォスはチユーベルン島の市で，アフロデイーテとガラテーが崇拜せらるる處。

胸には憎み，口には小言など相應しくない。
プロートイスの所へ行け。あの化物に問ふが好い，
どうしたら發生したり，化けられたりするかと。

（海の方へ遠ざかる）

タ一レス

あんなやり方では，何の得る所が無かつた，
プロートイスに逢つた所で，あいつはすぐ消えてしまふ。　8155
あいつが相手になつてくれても，あいつの云ふ事は
つまり，人をびつくりさせたり，當惑させる事丈だ。
お前はどうあつてもああ云ふ助言が要るのだから，
この道を歩いて行つて見るとしよう。

（兩人遠ざかる）

ジレーネ等（上の方の岩で）

遠の方より，波の上，　8160
すべり來るは何物ぞ。
風の掟に從ひて，
寄り來る白帆さながらに，
いとほがらかに見ゆるかな，
淨きみづはの少女らよ。　8165
いざ諸共に降り行かな，
いましら聲は聞きつらん。

ネーロイス族とトリートン等

我等かひなに運びまつるは，
すべて君等を喜ばすべし。
大龜ケロネの年經し甲は，　8170
うつし出せり，きびしき姿。
運びまつるは神神にこそ。
君等は歌へ，長き歌を。

ジレーネ等

姿は小さく，
力は強し，　8175
擢くる舟を救ひます，
古く祀られたまふ神神。

ネーロイス族とトリートン等

安けき御世の祭をせんと，
我等運べり，カビールの神。
カビールの神，聖にゐませば，　8180
ネプトゥーンも安く治しめ給ふ。

ジレーネ等

我等御身に及ばざるよ。
舟の擢けて沈む時，
手向ひがたき力もて，
御身，水夫らを護ります。　8185

ネーロイス族とトリートン等

三柱の神を我等ゐて來ぬ，
四柱めの神，欲りし給はず，
その神宣ふ，「我はすべてに
代りて思ふ，正しき神ぞ。」

ジレーネ等

ひとりの神は他の神を，　8190
侮りおとし給ふめり。
神の惠みをうやまひて，
まがつみすべて恐れゐよ。

ネーロイス族とトリートン等

神は，まことは，七柱あり。

ジレーネ等

三柱の神いづれにや。

ネーロイス族とトリートン等

我等答へんすべを知らず，
オリュムプの山に問ふこそよけれ。
いかなる人も，思ひかけざる，
八柱目の神かしこにゐまさん。
我等にめぐみ垂れますらんも，　8200
いまだすべては成り出でまさず。

嘗へん物なきその神神は，
限りも知らに成り出でんとす，
得がたき物を得まく欲りして，
あこがれ渡る海の神等は。　8205

ジレーネ等

照る日のうちに月のうちに，
いづこに神はゐますとも，
我等祈りの誓願あり，
祈りの甲斐はありと知る。

ネーロイス族とトリートン等

この祭する我等のほまれ，　8210
雲井にこそは高く輝け。

ジレーネ等

いづこに，如何に輝くも，
古への世のますらをは，
祭のほまれ得べしやは，
黄金の皮はとりつれど，　8215
いましら，カビールを迎ふなり。

（一同，合唱して繰返す）

黄金の皮はとりつれど，
我等，いましら，カビールを迎ふなり。
（ネーロイス族とトリートン等過ぎ去る）

ホムンクルス

あの異形（いぎやう）の紳様達を見ると，
下品な土器の壺のやうですね，
それに賢人達がぶつつかつて，
固い頭をぶち破るのです。

タールス

かう云ふのこそ人の望むものだよ，
錆がついてから貨幣も値打が出る。

變身の神プロートイス（見えない所で）

年が寄つて，昔話をする私には氣に入るね。
形が奇妙なだけ，いよいよありがたいや。

タールス

プロートイスさん，どこにゐるね。

プロートイス

（腹話術で或は近く，或は遠く）
此處だ，いや此處だ。

タールス

お前の古い洒落は咎めないにしても，
友達にはつまらない事を云ふなよ。
ゐもしない場所でしやべつてゐるのだな。

プロートイス（遠くからのやうに）

さやうなら。

タールス（低い聲でホムンクルスに對ひ）

すぐ近くにゐるのだ。一つ光らせておくれ，
あいつは魚のやうに物好きだからね。

どこに姿をやつして動かないでゐても，
火にはおびき寄せられるにきまつてゐる。

ホムンクルス

すぐに光を澤山出してみませう，
硝子がこはれないやうに氣をつけて。

プロートイス

（大龜の形となつて）
何がそんなに床しく，美しく光るのだい。

タールス（ホムンクルスを陰蔵して）

よろしい。見たければ，近くへ來て見るが好い。
だが，ほんの少しの手數を厭がらないで，
人間らしく兩足を揃へた姿を見せてくれ。
私達の隱してゐるものを見ようと思ふ者は，
私達の好意，私達の意思のお蔭で見られるのだ。

プロートイス（上品な姿になつて）

處世上の惡計（わるだくみ）はまだ忘れないのだな。

タールス

形を變へて化けるのが，今でも道樂なのだな。
（ホムンクルスを露はして見せる）

プロートイス（驚いて）

光つてゐる一寸法師か。まだ一度も見た事がない。

タールス

助言をして貰つて，發生したいと云ふのだ。
本人から聞いた話だが，妙な因緣で，
まだ半分しか世に現はれてゐないのだ。
精神上のいろいろな能力には缺ける所はないが，
どうもしつかりした擬へ所が無さすぎる。
今日までの所，重さと云つたら硝子だけなのだ，

それで先づ，是非體を具へて見たいと云ふのだ。

プロートイス

お前は本當に處女の息子と云ふやつだ，
出來る道理がないのに，もう出來たからな。

ターレス（聲低く）

別な方面から觀ても文句がありさうだ，
私の考だが，こいつ半陰陽らしいて。

プロートイス

それなら却て成功するに違ひない，
手あたり放題やらかせると云ふものだ。
だが，此處ではそんなに思案をする必要がない，
廣い海へ行つてやり出すが好い。
初手は小さい所から手を着けて，
極極小さいものを鵜呑みにして悦しがる，
だんだん大きく成つて行くと，
大事を仕遂げるやうに大成するのだ。

ホムンクルス

此處は軟かい風が吹いてゐますね，
青葉の匂だな，氣持の好い匂だ。

プロートイス

さうだとも，可愛い坊つちやん。
もつと先へ行くと，もつと氣持が好い，
そこの，岸の舌とでも云ふか，狹い岬の上では，
鹽の匂と來たら，もつともつと云ひやうがない。
そして前の方へ出ると，今丁度
浮んで來る行列が，此上もなく近く見える。
一所にあつちへおいで。

ターレス

私も一所に行かう。

ホムンクルス

やあ，三人連れのへんな化物ですね。

ロードゥス島のテルヒーネス等，馬體魚尾のヒポカムペンと海龍に乘り，ネプトゥーンの持物なる三叉の矛を持つて登場。

合　唱

荒れ騷ぐ波やはらぐる三叉矛を，
ネプトゥーンの爲に，我等は鍛ひたるなり。
いかづちの空みつ雲をのべ廣ぐれば，
物凄くはためく音にネプトゥーン答ふ。
いなづまの尖れる光，上より射れば，
八重波の，波の潮騷，下よりぞ飛ぶ。
かかる折，驚き憂へたたかふ者は，
波のむた，ゆられて深く皆沈めらる，
されば今日，かの神，劒を我等に賜びぬ，
いざ浮ばん，華華しくも輕く安けく。

ジレーネ等

身をヘーリオスに捧げたまひて，
晴れし日にこそ稱へられけん
御身等來ませ，ルーナを
篤くうやまひまつれる折に。

金屬エテルヒーネス等

久方の穹窿にまします優しき女神。
喜びて聞こしめせ，おん同胞ほむるを。
ロードゥスの幸ある島に耳かし給へ，
かしこより，とはのほぎ歌，聲立ちのぼる。
日の歩み，創め給ひて，業遂げ給ひ，
火の如く，燃ゆる眼に我等を見給ふ。

山山も，都も，岸も，寄る波さへも，
晴れやかに，めでたく，かの神嘉します。
我等をば霧立ちこめず立ちこむるとも，
日の光，風のそよぎに島は清めらる。
高き神，百(もも)のすがたに寫され給ふ，
若人(わかびと)に巨人(おほびと)，荒ら人，またやさ人に。
かしこきや，神のみいづを我等始めて，
尊かる人の姿に寫し出でたり。

プロートイス

勝手に歌はせて，勝手に自慢をさせて置け。
日の神聖な生きた光にとつては，
死んだ細工物なんか，茶番も同樣だ。
よくも厭きずに，鎔(よう)したり，造つたりしてゐる。
そして物の形を金屬(かね)で鑄ると，
一かどの物を造つた氣でゐる。
あんな高慢な奴共が，結局如何したと云ふのか。
神神の像は偉さうに立つてはゐたが——
地震が一ゆれすると皆こはれてしまつた。
もう疾(と)くにそれも鎔かされてゐるのだ。

浮世のわざくれは，どんなにしたつて，
つまる所，相も變らずくたびれ儲けだ。
生きてゆくには波の方がずつと役に立つ。
永遠な水の世界へ，お前を乘せて行くのは，
プロートイスの海豚(いるか)だ。

（形を變へる）

それ，もう化けた。
かうなるとお前，うまくやつて見せる，

わしがお前を背中に乘せて行つて，
大海と契りを結ばせよう。

ターレス

感心な望みだ，望みに任かせるが好からう，
天地開闢を新規にやり直すと云ふのだからね。
さつさと働く用意をするが好い。
永遠な規範に從つて身を動して，
數千の形態を通過することだらう，
人間となる迄には隨分時がある。

（ホムンクルス，プロートイスの海豚に乘る）

プロートイス

心を落付けて，濕つた遠い國へ一所に來い，
さうすれば縱横(たてよこ)自在の生活が出來て，
思ふ存分，身を動かすことも出來よう。
だが，あまり上の方の仲間にならうとあせるな，
お前だつて，人間になつてしまつたら，
すつかりお仕舞になるのだからな。

ターレス

其時が來てからの事だ。其時代の
快男兒になるのも結構だからね。

プロートイス（ターレスに對ひ）

ははあ，君のやうな性質(たち)の人間の事だな。
そんなのは，これでもまだ嘗くは持つ。
色の青ざめた幽靈共の仲間に，君をもう
何百年このかた，見てゐるからな。

ジレーネ等（岩の上で）

月をめぐりて，厚き暈(かさ)，
ゐがける雲の環(わ)は何ぞ。

鳩なり，戀に燃ゆる鳩，
白羽，光をあざむきつ。
戀する鳥のこの群を，
パーフォスの市，送りけり。
今をさかりの祭かな，
晴れの快樂は明く滿つ。

ネーロイス（ターレスに近寄りて）

夜更けの道を歩く人間なら，あの月の暈を
空氣の現象とでも云ふだらうが，
我我靈達の仲間は，全く違つた，
しかも唯一の正しい解釋をしてゐる。
あれは鳩なのだ，大昔から仕込まれた，
一種特別な，不思議な飛び樣をしながら，
私の娘が貝殼の車に乘つて來る，
その道案内をする鳩なのだ。

ターレス

靜かな暖い巢の中に，
神聖なものが生を保つてゐるのは，
善良な人間の氣に入ることだが，
私もそれは一番結構な事と思ふね。

プシュレンとマルゼン[1]

（海の牡牛，海の犢，海の牡羊に乘つて）

ツューペルンの島，荒き岩窟に，
海の神にも，穴ふさがれず，
地震の神にも，打ちやぶられず，
とはのそよ風，吹くにまかせて，

1 プシュレンとマルゼンはリービエンとイタリアから來た種族であつて，蛇を封ずる者として有名である。

遠くへだつる時世のままに，
默しながらも，樂しみを知り，
ツュプリエンの車，我等貯ふ，
夜のささやき，ほのかに聞え，
めぐしき波の織りたたむ時，
新たに生れし種族に隱れ，
うるはし姫をひきゐてぞ來る。
我等靜かにいそしむ者は，
翼ある獅子も，鷲も怖れず，
十字架さへも，月も怖れず，
よしや上にて國を打建て，
統し治むる人の替りて，
互ひに逐ひつ，打殺しつつ，
畑も都もうばひ去るとも。
我等今こそ，
うるはし姫をひきゐてぞ來ん。

ジレーネ等

輕く動きてよき程急ぎ，
車のまはり，圈に圈をゑがき，
蛇かとまがふうねりをなして，
列と列とを入りみだしつつ，
近付き來たるつよき女の，
可愛ゆく暴るるネーロイス族は，
やさしきドーリス族をゐて來ぬ，
母の似姿ガラテー姫も。
姫のけだかさ，神神のごと，
不滅の姿，いとも尊し，
されど，やさしき世の女めき，

人をまどはす嬋娟さなり。 8390

ドーリス族

（合唱の群となつてネーロイス族の傍を過ぎ行く。皆海豚に乘つてゐる）

光と影をかしませ，ルーナ，
若き群をば，さやに照らしませ。
願ぎつつ我等，父のみまへに，
はしき夫らをひきゐ來つれば。

（ネーロイスに對ひ）

波の怒れる牙の中より， 8395
我等が救へる若者にこそ，
葦と苔との上にいねしめ，
光の中にあたためやりぬ，
そを今，熱きくちづけをもて，
いとまめやかに我等に報ゆ。 8400
やさしき者等，めぐませ給へ。

ネーロイス

一擧兩得と云ふものだ，尊重するとしよう，
人を憐んで，自分も樂しむのだからな。

ドーリス族

父よ，われ等の業をよみして，
われ等の快樂ゆるし給はば， 8405
若やぐとはの胸に，夫らを，
死ぬる事なく，寄らしめ給へ。

ネーロイス

お前達は結構な獲物を喜んで，其若者を
夫として敎へ育てるが好からう。
併し，ツォイスの神でなくては，許し得ない事を， 8410

このわしが授けてやるわけには行くまい。
お前達を搖りもし，玩弄びもする波は，
戀だつて永遠につづくやうにはしてくれない，
醉つた戀なら醒めもするだらう，
そしたら，あいつらを穩かに陸へ遣るが好い。 8415

ドーリス族

優しき子等よ，惜しと思へど，
悲しきわかれ，せんすべもなし。
とはの契りをわれら望めど，
神神よしとおぼしたまはず。

少年等

我等，すぐなる船人の子を， 8420
行末かけておほしたててよ。
かかる幸には會ひしことなし，
これにまされる願ひなき身ぞ。

ガラテー，貝の車に乘つて近付く。

ネーロイス

ああ，お前だな，これ。

ガラテー

まあお父樣，嬉しいこと。
これ，海豚，お待ちよ，凝と見詰めてゐたいからさ。 8425

ネーロイス

もう行つてしまつた，圈をかくやうに
彈んだ動き方をして，行つてしまつた。
あれが，胸の中に何を感じた所で，仕樣がない。
ああ，せめて私を一所に連れて行つてくれたらなあ。
だが，ただの一目だけ見る嬉しさでも， 8430
全一年の間のうめ合はせにはなる。

タールス

榮あれ，榮あれ，何遍でも好い。
私は心が張り切れる位愉快になつて來た，
なんしろ，美と眞が骨髓に徹する‥‥
萬象は水から出て來たのだ。
萬象は水で保たれてゐるのだ。
大洋よ，我我の爲に永遠に活動してくれ。
若しもお前が雲を送つて，
無數の小川を流れさせて，
川をあちこちうねらせて，
大川を造り上げてくれなかつたら，
山山も，平野も，世界も，どうなつてゐるだらう。
お前こそ，一番清新な生命を支へてくれるものだ。

反響（登場者一同，圏になつて同音に）

お前こそ，一番清新な生命の出て來る源だ。

ネーロイス

ゆらりゆらりと遠くの方へ歸つて行く，
もう眼を見合はすことは出來ない。
鎖の圏を伸ばして，其中に
さも祝典らしい意を表はさうと，
數へ切れない程の群がうねつてゐる。
だが，ガラテーの貝の玉座だけは
はつきりと見える，や，まだはつきりと見える。
星かなんかのやうに，
あの群の中で光つてゐる。
あの可愛い姿は，大勢の中に照り渡つてゐるのだ，
あんなに遠くなつても，
明るく，清く輝いて，

いつまでも近く，眞らしいのだ。

ホムンクルス

惠みさはなる水の中に，
いかなる物を照らすとも，
美しからぬ物ぞなき。

プロートイス

生命のもとの水の中に，
始めてなれが明こそ，
好き響して照り渡れ。

ネーロイス

まあ，何と云ふ新しい秘密を，あの群の眞中で，
我我の眼に啓示してくれるのだらう。
貝の車の傍で，ガラテーの脚下で燃えるのは何だ。
勢好く燃上がつたり，可愛らしく，優しく光つたりする，
丁度，戀の脈の打つのが傳はつてでもゐるやうだ。

タールス

あれは，プロートイスに誘惑されたホムンクルスだ‥‥
高慢なあこがれの象徴と見て好い，
のた打廻る苦しみの呻き聲が思ひやられる。
光り輝くあの玉座に觸れて，碎け散るのだらう。
や，燃える，や，光る，もう溶けて流れる。

ジレーネ等

打寄せながら，光つて碎ける波を，
明るく照らすのは，まあ何と云ふ不思議な火でせう。
輝きながら，搖れながら，此方を照らして來ます，
あの物體は，夜の暗い波の上で燃えてゐて，
四邊は一面に火が流れてゐるのです。
凡ての事をお始めなされた，エーロスの神にお任せ致します。

聖き火にかこまれし
海よ，榮あれ。波よ，榮あれ。
水よ，榮あれ。火よ，榮あれ。
神のまれなる業よ，榮あれ。

皆皆一同

めぐみそよ吹く風よ，榮あれ。
ひめごと多き岩屋，榮あれ。
うつつ世にある物，皆祭らん，
地水火風，四つのすべてを。

第三幕

スパルタに於けるメネラスの宮殿の前

ヘーレナは捕はれたトローイアの女の群と共に登場。合唱群を率ゐる女パンタリス。

ヘーレナ

隨分褒められもし，譏られもしたヘーレナです，
私は今着いたばかりの海岸から來ました，
お粗末な高い背に載せて，フリューギエンの野から，
ポゼイドンの惠みとオイロス[1]の力で
私を故郷の入江へ送り込んだ，
あの大波の激しい動搖にまだ醉つてゐます。
あちらの下の方でメネラス王は武士の中の
勇しい人達と凱陣を祝つて居られます。
私を迎へておくれ，尊い御殿，これは
父君テュンダレオス[2]がパラスの岡から歸つて來られて，
阪の近くに建てられたもの，私がクリュテムネストラとは
姉妹のやうに，カストル，ポルクスとも戯れ遊んで
育つた頃には，スパルタぢゆうの
どの家にもまして美しく飾られてありました。
お前達鐵の扉，私の會釋を受けておくれ。
昔お前達が，客を迎へるやうに廣く開いた時，
大勢の女の中から選ばれた私の眼の前に，花婿

1 東風のこと。
2 レーダの合法的の夫。

メネラス様のお妻がかがやいて現はれたのです。
妻に相應しい務として，私が王様の急ぎのお使を
忠實に果たすやうに今また開いて通しておくれ。
私を中へ入れておくれ，不運にもここまで
圍りついて私を苦しめたものはみんな殘して置きませう。
何故と云ふに，ツュテーレ[1]の祠堂へ參詣すると云ふ
尊い役目を仰せ付かつた私が，何氣なく此門を出て
祠堂でフリューギエンの賊に捕はれてから
色色の事が身に降り懸つて，それが世間の噂に
上つたのだもの，自分の噂に尾鰭がついて
架空譚のやうになると，誰でも聞きたくはない。

合唱群

君が持たせる高き寶を
さげすみますな，妙なる妃。
たぐひも知らに美しといふ
高き幸こそ君にのみあれ。
傑れし人は名をひびかせて
誇らしやかに歩み行けども，
すべてに打勝つ美しさには
かたくな人も心を曲げん。

ヘーレナ

もう澤山，私は夫と一所の船で來たのだが，
夫の吩咐で一歩先に都へ送られたのだ，
どういふお考へなのか私には察しられない。
妻として，王妃として歸るのであらうか。
殿様の御心痛の爲の，また長く忍んだギリシア人の
不幸の爲の犧牲として歸るのであらうか。

1 戀の神アフロディーテ。

私は征服された，だが捕はれたかどうかは知らない。
ほんとに不死の神神が，美しい妻の人には危ない
道伴れともなるあの二心のある譽と運を
私に授けられたが，かれが御殿の入口で
陰氣な，威すやうな氣色をして私の傍についてゐる。
何故と云へば，うつろな船にゐる時から夫はろくに
私の顏を見もなさらず，嬉しい言葉もおかけにならず，
向き合つて坐つたまま胸に一物あるらしく見えた。
それで，オイロタス川の深い入江の岸邊で
前の船の舳が陸に觸れたか觸れないうちに，
神のお指圖でもお受けなされたやうにかう云はれた，
「わが軍勢は隊の順序を正してここで上陸せい，
海岸に整列した上で身共が檢閲する，
お前は先へ行つてくれ，神聖なオイロタス川の
豐饒な岸に沿うてどこ迄も進んで，
潤ひのある，毛氈のやうな牧場に馬を馳せて，
其昔ラケデーモンが，間近のきびしい
山山に圍まれたみのりの好い廣い畑を
耕した事のある，美しい平野へ出る迄行つてくれ。
それから高い塔のある王宮へはいつて，
わしが智慧のある年寄の取締女と一所に
殘して置いた婢女共の人數を檢べてくれ。
お前の父が遺してくれて，わしが又
治にゐても，亂にゐても絶えず增して積重ねた
夥しい寶の數數を取締女に出させて見るが好い。
すべて順序よく並べてあるだらう，
何故かと云へば，家へ歸つてみて，すべての物が
もとの通りになつてゐて，而も置いて出た時の

場所も變つてゐないのが王者の特權なのだ。
家來は何物も變へる權力がないのだ。」

合唱隊

絶えずふえ來し寶見まして，
眼をも胸をもなぐさめ給へ。
鎖のよそひ，冠のかざり，
做りたかぶるけはひありとも，
君，入りて促しまさば，
急ぎおほせをかしこむべきに。
黄金に寶珠，また寶石の
美とたたかふを見るぞたのしき。

ヘーレナ

それから續いて王樣のお言葉にかうあつた，
「何もかもきちんと整へてあるのを見たら，
神聖な祭儀を營む時犧牲の係の者が
手許に置く色色の器物や，お前が必要と
思ふ數だけの三脚の鼎を取出してくれ。
壺や鉢や，それに平たい圓い籠も要る，
神聖な泉から汲んだ清らかな水は
細長の瓶に入れてくれ，それから火の早く
燃えつく乾いた薪も用意するが好い，
好く研ぎ澄ました小刀がなくてはならぬ。
併し其外のことはお前の心遣ひに任せる。」
かう云つて，早く行けがしに私を追立てられた。
それだのに指圖をなさる王樣は，オリュムプの
神神に屠つて捧げる生物のことは何一つ
云はれなかつた。希見な事ではある，併し私は
此上心配などせず，何もかも御意に適ふやうに

なさる神神樣にお任せして置かう，
一度は死ぬる私達は，人間にとつて
苦い事でも悪い事でも忍んで行きます。
これ迄にも，どうかすると犧牲を捧げる人が，
地に倒された獸の頸の上に祈念を凝して，
重い鉞を振上げても殺せなかつた事がある，
近づく敵や，神樣のふとした思ひ附きに妨げられるので。

合唱隊

後のさだめは，え知り給はじ。
みこころ安く進み入りませ，
ささいの宮よ。
よろしき事も，あしき事も
思ひがけなく人には來る。
前徴ありとも信じがたかり。
トローイアは燃え，また眼の前に
辱しめの死，見たるならずや。
さはさりながら，我等此處にて
君のみそばにたのしく事へ，
幸ある我等も君をもめぐむ
天津御空のかがやける日と，
世にうるはしき町をこそ見れ。

ヘーレナ

どうなつても構はない。何が起りかけてゐようとも，
このまま王宮へはいつて行くのが私に相應しい，
永く見ずにゐて隨分あこがれて，ほとほと失ひかけた
此王宮が如何した譯やら又眼の前にあるのだもの。
とは云ふものの，私の足はこの高い階段を勇しく
登つては行けない，子供の時飛越えた階段を。（退場）

あはれにも捕はれ來つる　8610
友どちよ，いざ擲げ棄てよ，
ありとあるその悲しみを。
歸り路はおくれたれども，
固く踏む御足運びて，
生れましし家のかまどに　8615
樂しけく近づきたまふ
わが君の幸にあやかれ，
ヘーレナの幸にあやかれ。

まさきくも舊に復して
ふるさとに人をつけゆく　8620
神神のみいづたたへよ。
捕はれし人は甲斐なく
牢獄なる牆を仰ぎて
肘張りてあこがれ泣けど，
放たれし人は翼に　8625
打乘り，いとも烈しき
なやみをも飛越すものぞ。

をちかたにゐませる君を
捕へしはさる神にこそ。
過ぎし日の，若かりし日の　8630
言の葉につくしかねつる
よろこびも，はた嘆きをも
今更に思ひいでよと，
イーリオスの荒れし都ゆ

いにしへの先祖の家の　8635
新しく飾りし家に
わが君を還したまひぬ。

パンタリス（合唱詩を率ゐる女）

歡樂の取澆らした唱歌の道をすてて
門の扉の方へ目を注いでください。
何と云ふ事でせう，皆さん。お妃樣はあはただしい　8640
お足歩でこちらへお戻りになるではありませんか。
お妃樣，如何遊ばされました，御家來達の
お出迎へもなく，御殿の廊下でどんなひどい
目にお會ひなされました。お證しなされますな。
御不興の色がお顏に見えて居ります，　8645
驚きと戰ふ氣高いお腹立ちの御樣子が。

ヘーレナ

（扉を開いたままにして置く，感動して）

ツォイスの神の娘と生れた私に卑しい恐怖は相應はない。
ただ一時の輕い驚きの手も私には觸らない。
だが，此御殿の昔ながらの古い闇黑の中から出て，
火を噴く山の口から湧き出す爛れた靈のやうに　8650
色色の形となつて今でも立ちのぼる恐怖は，
英雄の胸をも震ひ慄かさずには置くまい。
氣味わるくも今日は冥府の眷屬共が
私のこの家にはいるのをかぎつけてゐた，
度度踏んだ，久しくあこがれてゐたこの閾を，　8655
送り出された客のやうに私は遠ざかつて行かうか。
いや，さうはならぬ，日の照る外へしざつては來たが，
もうこれからはどんな魔物にでも逐はれはせぬ。
神神に祈る工面をしよう，其上で清められた

竈の火は夫と同じく私を迎へてくれやう。

合唱群を率ゐる女

お妃様，恭しくあなたに事へまする婢女共に
何事のおありなされたか，お知らせ下さいまし。

ヘーレナ

私が見たものは，お前達もまのあたり見る筈だ，
もしあの古い闇黒が，闇に生れた妻をすぐ
自分の深い神祕の懷に呑込まなかつたら。
だが，お前達にも知らせるために云つて聞かせよう，
すぐ爲なければならぬ務の事を考へながら，
嚴かな王宮の内部へ恭しくはいつて
驚いたのはさびれた廊下の沈默であつた。
せはしなく歩く人達の歩音も耳に聞えず，
さつさと用事をすます急がしさも眼に見えない，
他所から來た人をいつも優しく迎へる
女中も，取締女も，だれ一人出ては來ない。
それだのに，竈のある場所へ近付いて行つて，
消えた灰の，なまぬるい殘んの火で見ると，
それはそれは大きな覆面をした女が床に坐つてゐる，
眠つてゐるのではなく，思案をしてゐるのだ。
用心なさる夫が，殘つてゐよとお吩咐に
なつたのかも知れない取締の女だらうと思つて，
主人らしい言葉で立つて働くやうに申付けてみた。
だけれど，身動きもせぬ女は襞に包まれて坐つてゐる。
私が威すと，到頭女は右の腕を動かして，
竈や家から私を逐出すやうな風態をした。
私は腹を立てて顏を女にそむけ，すぐに
階段の方へ急いだ，階段の上の方には夫婦の寢る

飾られた床が高く聳えて，隣に寶物の庫がある。
希見な女は急に床から起上がつて，大威張に
私の行手を遮つて，痩せた背の高い體を
見せたが，空洞な，血走つた鈍い眼付をして，
見る人の眼も心も狼狽させる奇怪な姿であつた。
だが，話をしても空事だ。言葉などは物の
形像を創造するやうに作り上げる事は出來ない。
あれを見るが好い，押强くも光の中へさへ出て來た。
此處では目上の王樣が歸られる迄私が主人である。
美の味方日の神フェーブスは，夜の生んだ氣味の惡い
化物を洞窟へ封じ込めるか，檢束けるかするであらう。

フォルキ．アス，門柱の間の闇の上に現はれる。

合唱隊

卷髮若やぎこめかみのへに
波は打てれど，憂き事しげし。
いくさのなやみ，怖ろしき事，
多くぞ見つる，都イーリオス
落ちたる夜半に。

はやる武士埃けたてて，
あたり小暗くひしめく中に，
聞く神の聲，聞く，たたかひの
くろがねの聲，野原を越えて
城にひびくを。

ああ，イーリオスの城の石壁，
なほ立てりしも，燃ゆる焰は
隣の方より隣へ移り，

おのが起こせる風に吹かれて，
こなた，かなたへ廣がり行きて，
夜の市街をばおほひ包みぬ。

逃げつつぞ見し熱と烟と，
ねぶる焰の燒え立つ中に，
物凄きまで怒りたまへる
神神達は互人めきて，
火に圍まれし烟つらぬき，
奇しき姿に歩みたまふを。

わが眼果してかくももつれし
姿を見しや，心，怖れに
囚はれしゆゑの幻なりや，
我は知らじな，いづれなるかを。
されど此處にて物裏きもの
見しはたしかに我等知るなり。
もしも恐れの我をとらへて，
危きものに遠ざけざらば，
手に取りて見ん事も得べきに。

やみの女のフォルキュアスの生める
娘の中の汝はいづれぞ。
いかにと云ふに，汝こそはげに
かの一族にぞいと似たりける。
やみの中より生れ出で來て，
一つの眼，一つの齒をば
かたみに使ふフォルキュアーデスの

娘の一人，汝や來にけん。

醜き汝は厚かましくも
美はしびとのかたへにありて，
フェーブス神の物識れる眼の
前に姿を見せんとするや。
さらば出で來よ，ただに出で來よ，
日の神醜の女を見まじ，
神の穿き眼はかつて
影てふものを見ざりし如く。

されど痛まし，つたなき運は，
死ぬる定めの我等を强ひて
とはに呪はれ忌まれし物が，
美を愛づる人に起しやるてふ
目の苦しみを受けしむるなり。

よし，さらば汝恥も知らなく
我等の前に出で來なば開け，
神の造りし幸ある人の
呪ふ口より出づる呪と
威し嘲ける聲聲を聞け。

フォルキュアス

美と羞恥とは一所に手に手を取つて，此世の
綠の道を歩くものでないと云ふ諺は
古いけれども，いつまでも高尙な眞實な意味がある。
この二つには昔ながらの憎みが深く根を下ろしてゐる，
犬猿同士は何處の道で出會はうとも

互ひに相手に背を向けて，それから
銘銘足を早めてどんどん進んで行く，
羞恥は悲しさうに，美はいけ洒洒としてゐる，
老が來て雙方を縛らなかつたら．
果ては地獄のうつろな夜に呑込まれるのだ。
見ればお前達恥知らずの女共は，高慢な顏をして
外國からやつて來たが，聲へて見れば，頭の上で
しやがれ聲を立てながら雲のやうに闊つて
喧渡る玄鶴の列のやうだ，喧しい鳴聲が地に聞えると，
靜かに道行く人は振仰いで見る氣になるが，
鳥は鳥の道，人は人の道をかなたへ
歩いて行くのだ，私達も其通りになるだらう。

王樣の尊い御殿をメーナーデのやうに荒荒しく
酔漢のやうに騒ぎ廻るとは，一體お前達は何者だ。
月に吠える犬の群かなんぞのやうに取締女の
私につべこべぬかすとは，一體お前達は何者だ。
お前達の素性を私が知らないとでも思うてゐるのか。
戰が生んで戰が育てた生若い女の，男好きの
お前達だ，男をたらし，男にたらされ，
軍人と市民の雙方の力を削り取る女共だ。
束になつたお前達を見ると，青青とした畑の
作物一面に飛んで來る蝗蟲の群のやうだ。
他人の勤勉を食ひ耗らす女共。
芽を出しかける國の富を嚙つて無にする女共。
征服されて市場に賣られた貿易の代物め。

ヘーレナ

夫人の眼の前で腰元を惡口するのは，

ぶしつけにも主人の家長權を侵す所業だ。
褒めるべきを褒め，罰すべきを罰するのは
主人たる私だけの爲し得る事だ。
それに，力も猛きイーリオスの都が圍まれて
落城の上滅びた時，此者共の盡してくれた
忠誠を私は滿足に思うてゐる。又放浪の
旅路で色色の憂き苦勞に出會うて，誰も我身の
上ばかり考へさうな時あれ等の親切を受けてゐる。
此土地でもあの喇れやかな者共の奉公を受けたい。
召使の何者なるやを主に問はないで，ただ勤め振を見る。
だからお前はもう默つて，あれ等に厭な顏をせぬが好い。
お前がこれまで私の代りによく王宮を
守つて來てくれたのは，其はお前の名譽になる。
だが，主人が來たからにはお前は引込んでくれ，
褒める代りに罰するやうな事の起らぬ爲に。

フォルキュアス

家來を威すのは，天佑のある王樣の
お妃が，長年御殿を巧に治めた報ゐとして
受けられた立派な權利であるには相違ないでせう。
所で，新たに奥方とお認めなされた貴方が，
王妃として，又女主人として昔の座にお着きなさるからには，
疾うから弛んでゐる手綱を引締めてお指圖をなさり，
寶物も我我一同をも御所有なさるが好からう。
何はともあれ，美しい白鳥のやうな貴方の傍では
翼の恰好も惡い，があがあ云ふ家鴨のやうな
此女共をきめつけて，年寄の私を助つて下さい。

合唱隊を率ゐる女

美しいお方の傍では，醜婦の醜さつたらありません。

フォルキュアス

怜悧な人の傍では，沒分曉漢の沒分曉さつたらどうだ。

（以下，合唱群から一人づつ出て應答する）

合唱群の女第一

父は冥府のエーレブス[1]で，母は夜だと云ふが好いわ。

フォルキュアス

親泣かせのスツュラが肉親の從姉だと云へ。

合唱群の女第二

お前さんの血筋には化物も隨分あるだらうね。

フォルキュアス

地獄へでも行つて親類を探して來い。

合唱群の女第三

地獄にゐる者でもお前さんの相手には若過ぎるわ。

フォルキュアス

ティレージアス[2]の盲老爺にでも濡れ掛つて行け。

合唱群の女第四

オリーオンの乳母がお前さんの玄孫だつたわね。

フォルキュアス

たしかハルピューエンが塵埃の中でお前を育てたらう。

合唱群の女第五

何を食べてそんなに痩せこけたの。

フォルキュアス

お前がひどくほしがる血なんぞ食ふものか。

合唱群の女第六

自分が死骸の癖に矢張り死骸を食べたがるのね。

フォルキュアス

---

1 暗黒の人格化，渾沌の子。

2 テーベンの傳說で知られた盲目の豫言者。

いけ圖圖しい其口に光るのは吸血鬼の齒だらう。

合唱群を率ゐる女

お前の素性を洗つてやると其口が塞がるのです。

フォルキュアス

では先に名のるが好い，謎もお互に消えやうさ。

ヘーレナ

腹は立てないが，悲しい氣持でお前達の間にはいつて，

荒荒しい其罵り合を私は取鎭めます。

實直な召使の間に人知れず釀される爭ひ程

主人に取つて損害となるものはないから。

さうなつたら，命令の反響も素早く爲された

事實となつて氣持好く戻つて來る事はない，

其反響は，途方に暮れながら甲斐なく罵る

主人を圍つて，我儘にもどよみ狂ふのだ。

それだけではない。たしなみを忘れたお前達の

腹立ちが緣起の惡い無氣味な異形の姿を呼起して

私の身に薄らせたので，私は故鄕の地にゐながら

地獄へでも引きずられたやうな氣持がする。

昔の追懷であらうか。襲ひ來る物狂であらうか。

都都を荒し廻る夢の怖ろしい姿が，一切我身で

あつたのか。今もあるのか。今後もさうであらうか。

腰元共は職務してゐるのに，年寄のお前は

平氣の樣子だ，譯の分るやうに話しておくれ。

フォルキュアス

誰でも長年のいろいろな幸福を振返つて見ると，

此上も無い神神の惠みも夢と思はれるのです。

故はづれ，度はづれの惠みをお享けなされた貴方が

長の年月いろいろお會ひになつた男は，

どんな大膽な冒險でもすぐする氣になる程
戀にのぼせた男達で，最初からヘーラクレスの
やうに強い美丈夫のテーゾイスが胸を焦しましたね——

ヘーレナ

十歳になつたばかりの細そりした小鹿の私を連れ出して，
アッティカのアフィドヌスの城に圍まつたのだもの。

フォルキュアス

間もなくカストル，ポルクス兄弟に救はれて，
選りに選つた勇士達の競爭の的におなりでした。

ヘーレナ

だが本當を云へば，ペリーデの似姿其儘の
パトロークルスさんに誰よりも心を寄せてゐた。

フォルキュアス

それだのに，父上のお考へで，大膽な航海者であり，又
民政家でもあるメネラス王に嫁いでお出でになつた。

ヘーレナ

娘をやつた上，領土の政權もおやりなされた。
夫婦の契から生れたのがヘルミーオネであつた。

フォルキュアス

それだのに，遺產のクレータ島を大膽に爭ふ
夫の留守に，美し過ぎる客人が來ましたね。

ヘーレナ

寡婦同然のあの頃の佗しさ，又降つて湧いた
怖ろしい禍の事など思ひ出させておくれでない。

フォルキュアス

あの遠征が，自由の身に生れた此クレータ人の
私を囚はれし人とし，長い間の奴隸としたのだ。

1 テーゾイスの伴侶。

ヘーレナ

此處ではお前はすぐ取締の役を仰せ付けられて，
城も戰利品も委ねられたではないか。

フォルキュアス

塔の竝び立つイーリオスの都と，盡きせぬ戀の歡樂に
心引かれて貴方が棄てて行かれた城をですね。

ヘーレナ

歡樂などとお云ひでない，限りもない數數の辛い
苦勞が此身の胸と頭に降り灌いだのだもの。

フォルキュアス

でも世間では，貴方が二重の妻になられて，
イーリオスにもエヂプトにも居られたとか申します。

ヘーレナ

亂れた心の狂ひを此上亂れさせて貰ふまい。
今でさへ，どれが自分やら分らないのだもの。

フォルキュアス

それだけではない，運命のあらゆる掟に逆つて，
早過ぎる戀を貴女にしかけたアヒレスが
うつろな影の國から浮び上がつて，貴女に焦れ寄つたとか。

ヘーレナ

幻の私が幻のあの方に會つただけの話。
あれは夢であつたと物の本にも書いてある。
ああ，此身は消えて其儘幻になりさうだ。

（合唱群の半分にたふれかかる）

合唱群

　默りてよ，默りてよ。
　眼も口もよこしま人よ。
　氣味惡き一つ齒の口，

怖ろしき禍の門，
よき事のなどて出づべき。

上べに情かざる惡者，
羊の毛皮裝ひし豺狼，
その怖ろしさ，三叉首の
犬の腭にまさりこそすれ。
ふるひつつ我等聞くなり，
深く隱れて人を狙へる
わるき陰謀の禍，何時か，
いかに，何處に現はるるやと。

やさしくも慰藉にみち，憂き世のふしを
忘れさす惠みの言葉それならで，
過ぎし世の善き事よりは
惡しき事多く語りて，
今の世の映ゆる光も
行末のほのに輝く
希望の光も
汝はくもらす。

默りてよ，默りてよ。
ささいの宮の身體より
藻拔け出づべき魂を
なほも抑へて，苦さす
日の照らしけん人の中の
いと美しき姿とどめん。

（ヘーレナ，卒倒より恢復して再び中央に立つ）

フォルキュアス

靄に蔽はれても人目を喜ばせ，今は故ゆい光明を放つて
主宰する此日の太陽よ，浮雲の中から出るが好い。
世界の有樣を其優しい眼で見て貰ひたい。
私を醜怪だと罵る者もあるが，美は私にも見分けがつく。

ヘーレナ

めまひの霧那に私を包んで寂しい處から蹌踉き出たので，
暫く休息したい程五體は疲れてゐるが，
どのやうな意外の珍事が不意に起らうとも，
男らしく氣を確かにするのが王妃の務，又人人の務であらう。

フォルキュアス

氣高くも，美しくも我我の前にお立ちなされた貴方の
お眼付は，何か御命令があるらしい，何の御命令か仰つしやい。

ヘーレナ

爭ひの爲に甲斐なくも怠つた埋合はせに用意をしておくれ，
王樣のお指圖通り急いで犧牲の手順をさせるが好い。

フォルキュアス

萬事御殿に用意してあります，鉢に，鼎に，鋭い斧に，
手を洗ふ水も，薫らす香もです。犧牲になるものを仰つしやい。

ヘーレナ

それは王樣が仰せにならなかつた。

フォルキュアス

仰せになりませんか。まあ，お氣の毒千萬な。

ヘーレナ

その樣に氣の毒がるのは。

フォルキュアス

お妃，貴女が犧牲なので。

ヘーレナ

さては我身か。

フォルキュアス

それに此女共と。

ヘーレナ

まあ，どうじませう。

フォルキュアス

鉞でお切られになるので。 8925

ヘーレナ

まあ無殘な。だが，不運な私は薄薄知つてはゐた。

フォルキュアス

避けがたい事と思はれます。

合唱群

まあひどい。そして私達はどう云ふ風に。

フォルキュアス

お妃は氣高い最後をお遂げになる。
だが，お前達は屋根の破風を支へる高い梁に，
綱に掛つた鵜のやうに，竝べて釣下げられるのだ。
（ヘーレナと合唱群は前以て考案された效果ある群像となり，
呆然として驚いて立つてゐる）

フォルキュアス

化物共。——自分の物でもない白日に別れるとて， 8930
驚き怖れて，しやちこばつた木偶のやうにつつ立つてゐる。
人間もお前達と同じ化物だから，壯烈な
日の光とは潔く別れたがらない。でも頸まれて
斷末魔から救うてやる者は一人もないのだ。
人間は皆それを知つてはゐるが，諦めのつくのは少い。 8935
何しろお前達は救はれない。では仕事に掛からうか。
（フォルキュアス，手を叩けば，假面を被つた侏儒共入口に現

はれ，フォルキュアスの下す命令を即刻，敏活に行ふ）
これ，陰氣なづんぐりむつくりとした化物，こちらへ
ころげて來い。あばれ放題あばれるのだ。
金の角のついた犧牲の臺を場所に据ゑて，
鉞は銀の緣の上にぎらぎらと横へて置け， 8940
黑ずんだ血で氣味惡く汚れた手を
洗ふ水を，水瓶になみなみと滿たして置け。
絨毯を此塵埃の上に美しく廣げるのだ，
いづれ首は直ぐ飛ぶであらうが，犧牲の王妃が
王妃らしく膝をお衝きになるやう，それから 8945
上品に括んで葬つてお貰ひなさる爲に。

合唱群を率ゐる女

女王樣は思案にくれて側面に立つてお出でになる，
腰元達は刈られた牧場の草のやうに萎れてゐる。
かうなると年增の私の大切な義務でせうから，
私からお前に物を云ひますよ，お婆さん。 8950
此仲間は無分別にもお前を見損つて厭味を云つたが，
お前は經驗もあり，智慧もあり，好意もお有りのやうだ。
もしや助かる手段を御存じなら云つておくれな。

フォルキュアス

云ふのは何でもないがね，御自分も，又附屬物の
お前達も助かるのはお妃の御一存によるのさ。 8955
御決心を，しかも手つ取り早く御決心をなさらなくては。

合唱群

女神パルツェンの中で一番貴いお方，一番賢いジビュレのあなた，
金の剪刀をすぼめて置いて救ひの日をお知らせ下さい。
踊つて樂しく跳ね飛んで，それから好いた人の
腕に抱かれて休息したい私共の手足が， 8960

もう宙に吊るされて氣味惡くぶらぶら動くやうですから。

ヘーレナ

此者達はこはがらせてお置き。私は悲しみはするが
怖れはしない。けれども助かる手段をお知りなら
喜んで採用しよう，達觀する賢者には，不可能の事も
隨分可能になるものだ。それを云つて貰はう。

合唱群

云つて下さい，早く云つて下さい，とんでもない頸飾となつて
私達の頸を絞めかかつてゐる怖ろしい醜い紐を，
どうしたら免かれるでせう。神樣の中で一番貴い
母神のレーア樣，あなたが私共を憐んで下さらぬと，
もう其紐に卷かれるのが窒息するやうに身に沁みます。

フォルキュアス

長くつながる話の條を，我慢して靜かに
聞いておくれか。いろいろの經緯があるのだよ。

合唱群

我慢しますとも。聞いてゐる間は命がありますもの。

フォルキュアス

家に引込んでゐて大切な寶を見守つたり，
御殿の石壁の割目を接ぎ合はしたり，
雨の吹込まぬやうに屋根を繕つたりしてゐる者は
長い一生の間仕合せな目に會ひませう。
ところが，我家の神聖な閾の直線を輕輕しくも
侮つて，浮ついた足取で越えて出て行く者は，
歸つて來た時元の場所を見ると，こはれて
ゐないにしても，何もかも變つてゐるものです。

1 レーア，キュベーレは大なる母神の譯だが，茲では誤つて暗黑の女に對つて呼掛けたのである。

ヘーレナ

なぜ又そんな知れ切つた御託をお並べだい。
話をするとお云ひでないか，厭な事を持出しては困る。

フォルキュアス

事實譚をするのです，惡口などは申しません。
メネラス王は海賊をしながら，入江から入江と，
岸邊や島のありたけを攻めて行かれます，
持つて歸られた分捕品はお邸の中に隱してある。
イーリオスの征伐には長い十年も費されたが，
お歸りの旅は何年掛かるやら私も知りません。
兎に角テュンダレオスの此偉い御殿の構内は
どんな有樣と思召す，周圍の領地はどんなです。

ヘーレナ

さてはお前は小言の癖が沁み込んで，
惡口雜言でなければ物が云へなくなつたのだね。

フォルキュアス

此谷谷を流れて闊闊と葦の岸邊を浸し，白鳥を
浮ばせてゐるオイロタス川が早瀨の小川となつて
流れ出すあの谷山は，スパルタの背後で
タユーゲトスの山を脊に控へ，北の方へだんだん
高まつて行くが，昔から無人の境であつたのに，
キムメーリア[1]の夜闇から押出した大膽な一族が，
谷間の奥深く人に知られずに移つて來て，
登れさうもない堅固な城砦を築き，
土地と人民を思ふ存分苦しめてゐるのです。

ヘーレナ

そんな事をしたのかね。出來さうにもないが。

1 北方的，陰鬱的。

フォルキュアス

時といふものがあります，二十年位になるかも知れない。

ヘーレナ

首頭があるかい。賊の一味は多いのかい。

フォルキュアス

賊なんかではありません，だが首領は一人ゐます。
私の所へも舞込んだが，悪く云ふ氣になれない。
何もかも取つて行けるのに，僅かな自由の贈物に
滿足して，賣物ではないと云ひました。

ヘーレナ

どんな風な男かい。

フォルキュアス

悪くありません，私には氣に入ります。
氣さくで，無遠慮で，教育があつて，ギリシア人などの
間には類のない，道理の分つた男です。
あの民族を野蠻人などと悪口するが，一人だつて
殘忍な事をしたとは思へない，イーリオス征伐の時は，
ギリシアの勇士も隨分人肉を食べましたからね。
私はあの男の偉大さを認めます，信賴したい位です。
それにあの城砦の立派さ，是非お目にかけたい。
あなた方の先祖が，片眼のツュクローペンの
業くれのやうに委細構はず，天然石の上に
すぐ天然石を倒しかけて積重ねた不細工の
石垣とは打つて變つて，あつちの方では
何處もかしこも垂直で水平で，規則正しくしてある。
まあ，外側から御覽になると好い，磨いた鋼のやうに
平で，接目正しく頑丈に天を睨いて聳えてゐる。
あれを攀ぢ登らうなんて——考へただけで滑り落ちる。

内部は大きな御殿の間取になつてゐて，あらゆる
種類の，どんな役にも立つ建物が取殘してある。
數多い大柱，小柱，大小さまざまの穹窿に，
張出し緣や出入りの廊下が見える，
それに紋がところどころ。

合唱隊

紋といふのは何でせう。

フォルキュアス

お前達も見たであらうが，
アーヤックスの楯にも，卷付いた蛇が彫つてあつた。
テーベンを攻めた七勇士も，おのおの楯の上を
意味深い彫刻で飾つてゐた。
夜更けの空に輝く月もあれば，星もあり，
女神に勇士に，梯子に刀，松明，其外
美しい町町を侵す爲の威し道具も色色あつた。
今話してゐる勇士の群も，先祖傳來の
さういふ紋を色彩美しくつけてゐる。
獅子に，鷲に，鳥の爪，鳥の嘴，それから
水牛の角，鳥の翼，ばらの花，孔雀の尾などもある，
金色，銀色，赤，青，黑の線條を引いたのもある。
さういふ紋のある楯が，世界のやうに限りもなく
大きい廣間廣間に，順に竝んで懸かつてゐるのだ。
お前達には踊場にもなる。

合唱隊

踊の相手の男はゐますか。

フォルキュアス

申分のないのがゐる，ちぢれた金髮の瑞瑞しい若者達だ，
いづれも青春の黨がする。お妃にあまり近付いた時，

パーリスだけあの黨がしたつけ。

ヘーレナ

話が横道へ

逸れたわ，結局の所を云つて貰はう。

フォルキュアス

それはあなたが仰つしやるのです，眞面目に明白

好いと仰つしやい。すぐ其城へ御案内します。

合唱群

どうぞ，一言好いと

仰つしやつて，御自分をも私共をもお助け下さるやうに。

ヘーレナ

どうしたものか，メネラス王が私をお殺しなさる程

殘忍なお振舞をなされやうとは思はれないが。

フォルキュアス

お忘れになりましたか，未亡人のあなたに

きつく言寄つて，到頭妾同樣にしたといふので，

奮戰して死んだパーリスの弟のあのデイーフォブスに

前代未聞の體刑を加へたのを。鼻と耳を殺いだ上に

色色切りさいなまれた。見てもぞつとする程であつた。

ヘーレナ

それは男に對して爲されたのだ，我身故ではあるが。

フォルキュアス

その男故同じ事をあなたにも爲さるのです。

美人は共有し難い。美人を獨占してゐた者は，

共有を呪ふ餘りに寧ろ女をあやめて仕舞ふ。

（遠く喇叭の音がする。合唱群はちぢみ上る）

あの喇叭の鋭い響が耳や腸を劈くと同じく，

一度手に入れて今は失つて二度と持つ事の

出來ぬ物を永く忘れ得ぬ男の胸には，

嫉妬が固く爪を打ちおろしてゐるものだ。

合唱群

あの角笛の聲が聞えないの。物の具の光が見えないの。

フォルキュアス

王樣，お出でなさりませ，萬事私が申上げます。

合唱群

だが，私達の身の上は。

フォルキュアス

知れ切つてゐる筈だ，お妃の最後は眼前にある，

お前達の死も含まれてゐる。いや，お前達は助からない。

（間）

ヘーレナ

思ひ切つてしなければならぬ目前の事を考へついた。

お前が陰險な惡靈だと云ふ事は感付いてゐる，

事によつたら善を轉じて惡にもし兼ねない。

だが，其城へだけはお前に隨いて行かうと思ふ。

その外の事は承知してゐる。王妃たる者が胸の

奥深く祕め隱してゐる事は，誰にも

知らせずに置きたい。さあ，先にお立ち，婆や。

合唱群

歩竝早くよろこびて

われ等は行くよ。

死をば後ろに，

近寄りがたく

そびゆる城の

壁をば前に。

城よ我等を護れかし，

かのイーリオスの城のごと。
果てはいやしき僞りの
陰謀(たくみ)の僞に落ちたれど。
（霧が廣がつて來て遠景を隱す，近景もよろしき樣に遮らる）
あな，あな，いぶかし。
友どちよ，振りかへり見よ。
御空は晴れてゐたりしを，
聖(きよ)き流のオイロタスより
帶の如くに霧はただよひ，
茂れる葦の綠こめたる
めでたき岸も見えずなりぬ，
いとやさしくも誇らしやかに，
いと暢(のび)やかに輕く滑りて，
睦み合ひつつ群れて泳ぎし
白鳥もはや見えずなりぬ。

されど，ああ，されど
白鳥の鳴く聲ぞ聞ゆる，
死を告げ渡る聲と云ふなる
かすれし聲ぞ遠く聞ゆる。
救ひの幸の盟はあれど，
白鳥に似て頸いと長く
白く美しき我等と共に
白鳥の胤の王妃(きさき)の宮も
必ず滅び行くべしてふ
豫告(しらせ)なりせば，ああ，いかにせん。
いたましや，いたましや。

物みなすべて
霧につつまれ，
我等の姿互ひに見えず。
如何にせし。我等歩むや。
小膀に急ぎ地の上を
ただに浮びて走るにや。
何も見えずや。先立ちたまふ
ヘルメス神[1]の黃金(こがね)の杖は，
夜も灰色に明けて物凄く，
手にとりがたき物の滿ちたる
とはにうつろの黃泉(よみ)の國へ
遂ひ戻さんと光りはせじや。

あら急に暗くなつてよ，濃い灰色の，壁の樣に茶色の霧が
光もなくすうつと消えて，目の前に石壁が立つて
ゐるのが見えるわ。中庭かしら，深いお濠か知ら。
どちみち氣味が惡いわ。私達，捕虜にされたのよ，皆さん，
今迄にないやうな捕虜によ。

城の內庭

中世時代の幻想的な豐麗な建物を取繞らしてある。

合唱群を率ゐる女

お先走りで，愚かな，これこそ本性その儘の婦女(をんな)達だ。
刹那の事に囚はれて，幸，不幸の天氣模樣に
弄ばれ，幸運も不運も，取亂さないで堪(こら)へて
行く事が出來ないのだね。內內(うちうち)同志でいつも

[1] ヘルメスは死んだ者を冥府へ送り込む神。

烈しく爭ひ合つたり，意地惡く邪魔をし合つたり，
嬉しい時，悲しい時だけ同じ調子で泣いたり笑つたりする。
さあお默り，王妃樣が尊い思召で，御自分の爲，
私達の爲，差當つてどうお決め遊ばすか聞くが好い。

ヘーレナ

ピュトニッサとやらいふ占女，お前は何處にお出でだ。 9135
暗い此城の奢の中から出て來ておくれ。
若しもお前が，あの不思議な城主に私の來たのを
告げて，歡迎の用意をさせに行きでもしたのなら
忝なく思ふ，早く城主の所へ案内しておくれ。
私は流浪に終を告げて休息をしてみたい。 9140

合唱群を率ゐる女

どちらを御覽遊ばしても無駄でございます，お妃樣。
あの醜い姿は消えました，私共は急ぎ足で
歩いたやうな氣も致しませんのに，何時の間にか
霧の中から出ましたが，その霧の中にでも隱れましたやら。
それとも又，威儀を正した歡迎の挨拶をさせようと 9145
城の主を尋ねながら，色色の建物を不思議にも一つに
まとめたやうな城の迷路に迷うてゐますやら。
おや，御覽遊ばせ，あの高い處に人が大勢動いて居ります，
廊下にも，窓にも，玄關にも家來達が
をさをさ怠りなく，機敏にあちこち歩いてゐませう。 9150
立派な歡迎を受ける豫徵かと存じます。

合唱群

塞いだ心も開いて行くわ，あら，向うを御覽なさいよ，
若い優しい男の人達がきちんと列を作つて，
行儀よく上品に，ゆるやかな歩調で
降りて來るでせう。まあ，誰の吩咐で 9155

あの若い人達の立派な群は，こんなに早くから
行列を正して出て來たのかしら。
私が一番感心するのは何だらう。可愛い歩竝か知ら，
それとも，輝くやうに額に波打つ卷髮か知ら，
それとも，あの桃のやうに紅くて，桃のやうに 9160
柔いうぶ毛の生えてゐる兩方の頰つぺたか知ら。
食ひつきたいやうだね，だけど私，怖くて出來ない，
いつぞやそんな事をした時，ああ，思ひ出しても
氣味が惡い，口ぢゆう灰になつたことがあるもの。
　でも一番美しい人が 9165
　こちらへ來ますわ。
　何を持つて來たのでせう。
　玉座の段と，
　お敷物にお褥，
　それから几帳と， 9170
　天蓋のやうな飾ですね。
　お妃樣は招かれて
　美しい庭にお着き遊ばしたから，
　あのお頭の上に
　雲の飾を織出して， 9175
　天蓋がゆれますのね。
　さあ，進み出るのですよ，
　一段ごとに
　眞面目に竝びなさいな。
　まあ，素敵，素敵，も一つお負けに素敵ね， 9180
　祝福したいわ，こんな歡迎なら。

（合唱群の言葉通り次第次第に行はれる。）

ファウスト，少年と青年が長い列を作つて降りた後，中世風の騎士

の宮廷服を一着して階段の上に現はれ，忽然と緩かに降りて來る。

合唱隊を率ゐる女　（注意してファウストを視る）

前例の無い事ではないが，神神樣があのお方に
天晴れと申上げても好い御體格，
お上品な物腰，愛嬌のあるお姿を，
ちよつと暫くの間お授けなされたのでないなら——
大丈夫同士の果し合ひにも，たをやめ相手の
小ぜりあひにも，する事爲す事成功なさるとは限りますまい。
同じく世に擧ばれてお出でになる方方に，隨分澤山
お目にかかりましたが，此お方は誰方よりも秀れてお出でになる。
緩かな，眞面目な，恭しくお運びになる步調で
殿樣がお出でなされます。お妃樣，そちらをお向き遊ばして。

ファウスト

（縛られし男を一人，側につれて進み出る）

かういふ場合に然るべき謹嚴な御挨拶，
恭しい歡迎を致す筈の處，己の職務を忘れ，
主人の義務をも懈らせました此下僕を，
鎖に固く繫いでお目通りへ連れて來ました。
これ，膝を衝いて，此貴い御婦人に，
其方の犯した罪を自白しろ。
さて奧方，一體此男は，類の無い程遠目が
利きますので，高い物見の上から方方を
見張らせて置いたのです，其處から天涯と云はず，
地角と云はず銳く見守つてゐて，
あちら，こちらに何事が起つたとか，又
取繞らした丘陵の上から堅固な城のある此谷間へ
何物が動いて來たとか，たとへ牧畜の群であつても，
進軍する軍隊であつても油斷はならぬのです。

牧畜なら保護し，軍隊なら立向ひます。それが今日
何といふ怠慢でせう。奧方のお出でを此男は報せない，
貴いお客樣を恭しく迎へる義務が果せません，
不埒を働いて一命は既に失うてゐるのです，
當然の死刑に處せられて，己が血の中に
横はつて好いのです。併しながら，奧方お一人だけの
御所存で，處罰なり，放免なりして戴きませう。

ヘーレナ

まあ，裁判をさせるの，命令をさせるのと
大さうな格式を私にお授けなさいますこと，
どうやら私をお試しなさるのだとも存ぜられますが——
それでは審判をする者の第一の務として
被告の申立を聞きませう。云つて御覽。

望樓守リュンコイス

跪かせて下さい，仰がせて下さい，
死なせて下さい，生かして下さい，
私はもう，神のお下しなされた
此御婦人に身を獻げたのですから。

朝景色の快さを待ちに待ちながら，
太陽の運行を窺はうと東の方を
見て居りますと，不思議にも太陽は
突然に南の方から昇つて來たのです。

天地の間に又と無いお姿を見ようと，
その方へばかり眼を配つて，
峽も見えず，山も見えず，天の遠きも
地の廣きも見えませんでした。

高い木の上にゐる大山猫のやうな
眼の光を授かつてゐた私ですが，
今は深い昏(くら)い夢を醒さうとでも
するやうに，骨を折らずに居れません。

我身の在處(ありか)が分らなくなりました。
城廓(ひめがき)なのか，塔なのか，閉(とざ)した門なのか。
霧がただよひ霧が消えると，
かういふ女神のお姿が現はれたのです。

眼と胸を女神の方へ向けて，
惠みに輝く光を吸ひました，
あたりまばゆいお美しさが
憐れな私の眼を眩ませたのです。

私は見張りの務を打忘れ，
吹くべき管の角笛も忘れ果てたのです。
どうぞ私を殺すと威して下さいまし，
どんな怒りでもお美しさが和らげませう。

ヘーレナ

私のもたらした罪を私が罰する譯には
參りません。ほんとに呪はしい我身です。何處へ
行つても男といふ男の胸を魅惑して，
その身をも，大事な役目をも等閑(なをざり)にさせるとは，
何といふひどい運命が私を追廻してゐるのでせう。
半神，英雄，神，悪魔までが私を奪つたり，
墮落させたり，互ひに爭つたりしてあちこち引廻し，

どことも當のない迷ひの旅に流涙(なみだ)はせたのです。
私が世を亂したのは一度ならず，二度ならず，
重なる禍は三度も四度も起こしたのですもの。
此罪の無い人をあちらへ遣つて放免なさいまし。
神にだまされた人が恥辱を受けては不可(いけ)ません。

ファウスト

王妃(おきさき)，私は射中てる事のお上手な方(かた)を見て，
同時に射中てられた者を見ますと驚きに堪へません。
弦から矢を放つた其弓は，確かに此男を傷けました。
次から次へと放たれる矢は，皆私に
中るのです。どちらを向いても，城や内廓の中を
羽根の生えた矢がひゆうひゆうと飛んでゐます。
私は如何なるでせう。あなたは突然，忠義一徹の
臣下を震かせ，城壁をも危くなされます。
杞憂ではなくもう私の軍隊は，勝つことを知つて，
お負けになることの無かつた貴方に服從するでせう。
かうなつては，私は心の亂れた家來を連れて，
我身もすべての物をも貴女に獻(たてま)つる外はない。
願くばおみ足の下に跪いて，自由に忠實に貴女を
主君と仰がせて下さい，此城におはいりになると
直(すぐ)にすべての物も玉座も獲得なされた貴女を。

リュンコイス

（箱を持つて登場，同じく箱を持つた男數名つづく）
またお目通りへ戻りました，お妃様。
富んだ人があなたの一目を强(た)つて願ひましても，
お姿を拜んだら，乞食の貧しさと王者の
富を同時に身に感ずるでせう。

前の私は何でしたらう。今の私は何でせう。
何を欲し，何をしたら好いのでせう。
鋭い眼の稻妻も何の役に立ちません。
御座所からはね返されて仕舞ひます。

私共は東からこちらへ來ましたが，
西の方では禍の種となりました。
長い幅の廣い民の行列で，
魁者(あきがけ)は後尾(しんがり)を知らぬ程でした。

初めの一人が倒れると二人目が踏みこたへます，
三人目の槍が繰出します。
誰もかれも元氣百倍してゐるから，
擊ち殺された千人など氣に懸けません。

犇き合つてどんどん突進しました，
場所から場所へと征服して來ました。
私が今日主人顏して命令する地方でも，
明日は他人が盜んで奪ふのです。

みんな見廻しました——慌忙(あはただ)しく見たのです。
美しい限りの女を生捕つたのもあり，
歩調(あしたみ)の確乎(しつかり)した牛を盜んだものもあります，
馬は一人も殘らず掠め取つたのです。

だが私の好みは，誰も見たことのない
極極珍しい品物を搜すことでした，
他人が手に入れたやうな品物は，

私に取つては枯草も同然なのです。

多くの寶を探しあてました，
鋭い眼の力にさへついて行けば
どんな囊の中までも見え，どんな
箪笥の中までも透き通つて見えるのです。

積んだ黄金を我物としましたが，
一番見事なのは寶石です，
中でも綠玉だけがお胸の上に
綠と輝く値打がありませう。

お耳とお口の間にゆらゆらさせるには，
海の底から出た滴の卵の眞珠に限ります。
紅寶玉なんかはおきらひになるでせう，
紅色(くれたゐ)のお蝋にけおされますから。

此上もない素晴しい寶をかうして
御座所の前へ持つて參ります。
數數の血腥い戰の獲物を
おみ足の前に獻(たてまつ)りたいのです。

これ程多くの箱を持つて來ましたが，
鐵の箱はこれよりも澤山ございます。
お跡をお慕ひ申すことが許されるなら，
寶のお藏を滿たしてお上げ申します。

と申すは，玉座にお着きなされるや否や，

分別も，富も，腕力も
唯一無二のお姿の前に
頭を垂れ，腰を曲げる程ですから。

これまで我物として固く護つて來た品品が，
今は手許を離れてあなたの物になります，
値打があつて高尚で純粹と思ひましたが，
今見ればなんでもない物になりました。

私の持つてゐました物が消え失せ，
刈られて凋んだ枯草となりました。
どうぞ一目晴れやかに御覽下されて，
すつかりもとの價に戻して下さいまし。

ファウスト

そちが大膽な働きで手に入れた其荷物を側へ
のけてくれ。お小言はなくても，お褒めにはなるまい。
もう此城の構内にある程の品物は殘らず汝お方の
所有だから，特別に差上げるのは無用な
沙汰である。あちらへ行つて寶の數數を整然と
積上げろ。見ようとて見られない豪奢の
圖抜けた姿を作り出せ。圓天井を
鮮やかな空のやうに照り輝かせて，
生なき生物の住む天國を打建てろ。
お歩きになつたら急いでお先に出て
花模樣のある絨毯を絨毯へと敷舒べて，おみ足が
柔かい床に觸るやうにしろ，此神神しいお方を
まぶしくない程の高い輝きがお眼に這入るやうにしろ。

リュンコイス

御主人のお指圖なされた事はなんでもない，
下僕がやつてのければ遊び半分だ，
人の血潮と財産を支配してゐるのは，
あの美しいお方の威光だからね。
全軍はもう懷柔されて，
打物はみんななまくらになつたぞ，
あの立派なお姿の前では
お天道樣さへ衰へて冷たくなる，
眼に訴へるものが豐かなので，
あらゆる物が空になり，無になるのだ。（退場）

ヘーレナ（ファウストに對ひ）

お話し致したいと存じますから，どうぞ此處へ
お出で下さいまし。空いた坐席が御主人を
お迎へ申したら，私の地位も安全になりませう。

ファウスト

先づ跪いて忠實に此身をお委ね申す私を
お許し下さい，奥方。私をお側へお召し下さる
此お手に接吻することをお許し下さい。
私が境も知れない御領地の共治者だと
仰つしやつて下さい，崇拜者と從僕と番人を
一身に兼ねる者と私を思召し下さい。

ヘーレナ

重なる不思議を見聞いたしまして驚く外
ございません，色色伺ひたい事もございます。
けれども，あの男の言葉が私には珍しく，又
懷かしく響く譯から先に承りたうございます。
昔と昔とが互ひに馴染むやうに見えて，
一つの言葉が耳にはいりますと，次の言葉が

來て前のをいつくしむのでございます。

ファウスト

召使共の話し方がお氣に召しますなら，
唱歌の方もきつとあなたをお歡ばせするでせう，
耳や心を眞底樂しませてくれる唱歌ですから。
けれども一番確かなのは，直ぐにお稽古なさる事です，　9375
掛合の白が誘うておびき出します。

ヘーレナ

どうしたらあんなに美しく話せるのでせう。

ファウスト

たやすい事です，心から出さへすれば好いのです。
それから，若し胸があこがれの情にあふれると，
振返り見て人は問ひます——

ヘーレナ

誰か樂を共にするやと。　9380

ファウスト

さて心は行末も過ぎ來し方も眼に入れず，
今の現在ばかりが——

ヘーレナ

人の世の幸。

ファウスト

さうです，寶です，所得，財產，手形です。
その裏書は誰がしませう。

ヘーレナ

わたくしの手で。

合唱群

お妃樣が城のあるじに　9385
優しいお顏をお見せなされても，

誰が怪しと思ひませう。
何故と申して，皆さん打明けた所，
あのイーリオスが不面目にも滅んで，
私達が怖れつつ暗の多い流浪の迷路に　9390
出掛けてから度度なつてゐた樣に，
今も殘らず捕虜の身ではありませんか。

男の戀になれ切つた女は，
選り好みなどはしないまでも，
男を味ひ分ける力があります。　9395
それで，渦卷く金髮の牧童にも，
不圖とすると黑い剛い毛のファウンにも，
時と場合の出來心から，
むつちり肥つた此手足を
自由に弄らせる事がありますわ。　9400

お二人はもう近寄りなされて，
互ひにもたれ掛かつてお出でになります，
軟かさうに詰物をした，お見事な
玉座の上で
お肩とお肩，お髮とお膝が觸れ合つてゐます，　9405
あれ，お手をからめて體を動つてお出でです。
上つ方は何のお厭ひもなく，
人に見せない樂でも
下下の眼の前で
あけすけになさいますのね。　9410

ヘーレナ

私は遠くにゐるやうな，近くにゐるやうな心地です，

其辯「此處にゐます，此處に」と申したいのですわ。

ファウスト

私は息が詰りさうで，身内がふるひ，言葉もつかへます，
夢のやうです，時も所も消えて仕舞つて。

ヘーレナ

私は姥櫻のやうにも，又處女のやうにも思はれます，
初めての貴方と縁の絲で固く結ばれましたから。

ファウスト

又と得難い遭逢をひねつてお考へなさらぬが好い。
存在は義務です，刹那限りであらうとも。

フォルキュアス（荒荒しく登場）

戀のいろはの綴を稽古なさるが好い，
いちやついて，ざれ戀の理窟を捏ねなさるが好い，
怠けながら理窟を捏ねて，ざれ戀をなさるが好い，
だがもうそんな暇などありやしない。
曇つた空合に氣がつかないのですか。
喇叭の音だけでもお聞きなさるが好い，
滅亡はもう遠くはない。
メネラス王が潮のやうに大軍を率ゐて
あなた方を襲うて來るのです。
激しい戰の用意をなさるが好い。
やがて勝利に勇む軍卒共に圍まれて，
あのデイーフォブスのやうにめつた切にされて，
女を勾引した報いを受けるだらう。
すべたの蓮つ葉共から先に吊るされて，
それから直ぐ祭壇の前で，
研ぎたての鉞がお妃を待受けるのだ。

ファウスト

大それた邪魔ではある。忌忌しくも押しかけたものだ。
危急の際でも無意味にあはてたくはない。
悪い報告は此上なく美しい使者をも醜くするものだが，
此上もなく醜い女のお前は悪い報告ばかりを持つて來る。
だが今度はお前も失敗つた。空つぽの息を
はづませて空氣を搖つてゐろ。今頃危險などあるものか。
あるとしてもつまらない威しに過ぎないのだ。
（合圖の喇叭，望樓の烽火，種種の吹奏樂器，軍樂，大軍の進行進軍）

ファウスト

いや，すぐに集めて御覽に入れます，
力を協はせた勇士の一團をです。
力の限りを盡して婦人を護る男だけが
婦人の眷遇を受ける權利がある。

（隊隊を離れて歩み來る司令官等に對ひ）

抑へに抑へて胸にたたんで來た怒りが
お前達に勝利を得させるのは必定だ，
お前達，北方の青春の花，
お前達，東方の華華しい勇者。

鐵に身をよろひ，鐵の間を馳驅つて，
國といふ國を破つて來た皆の者，
お前達が歩いて來れば大地も震へる，
お前達が歩いて行けば霹靂が殘る。

我我はピュロスで上陸したが，
老將ネストルはもう生きてゐなかつた。
そしてもろもろの小王國を，
拘束されない我軍が擊ち碎いた。

今は一刻も躊躇せず此城壁から
メネラス王を海へ撃ち退けよ。
海上でまごついて，待伏せしたり掠奪するが好い，
それが王の好みだ，宿命だ。

司令官達，お前達に會釋させてくれ，
スパルタのお妃が指揮をなさるのだ，
山や谷を占領してお妃の膝下に獻ずるが好い，
國内の收益はお前達のものとしよう。

槍に名を得たゲルマーネ族，お前は城壁に
據つてコリントゥスの入江を守れ。
それから百の峽のあるアハーイアは，
ゴーテ族の武夫(つはもの)，お前に防禦を命ずる。

フランケ族の遊撃軍はエーリス地方へ進め，
ザクセ族の拔刀隊にはメッセーネを任(まか)せる，
北方の强ノルマネ族は海上を撃ち攘うて，
アルゴリスの土地を盛に賑はせ。

さうしたら各其地に土着して，
外に向つて威力を展(の)べる事が出來よう。
但しスパルタはお前達の上に君臨させる，
久しくお妃の住まはれた居城だから。

一人も殘らず福利に缺けぬ土地で
榮を享けるのをお妃は御覽になる。

お前達は安じてお妃の膝下へ，
栽可や，權利や，名譽を願出るが好からう。
（ファウスト，座を降り，將軍等其周圍に圈を作り，命令や指揮を
詳細に聞く）

合唱隊

此上もなく美しい女をお望みなさる方は，
何より先に强きを尙んで，
拔目なく業打物を檢(あらた)めてお置きになるが好い。
此世で一番秀でたものをお愛想の力で
手にお入れなされたには違ひないが，
安心してお持ちになつてゐる事は出來ません。
忍び込んで狡猾にも誤ひ取る者もあり，
盜賊などは大膽にも奪ひ取つて行きます。
それを禦ぐ御用心をなされませ。

此殿樣を讃美いたします，
どの方方よりも優れたお方と存じます，
ちよつとした合圖をなさると，勇士の面面が
立所にお指圖を仰ぐほど，それ程
勇しく賢く臣下を統(まとめ)一てお出でなされます。
勇士の面面はお指圖通り忠實にお働きなさる，
其は御自分のお爲でもあり，
殿樣も御滿足なされてお賞めになりませう，
どちらにも大した御名譽となるのです。

何故と申して，こんなに御威勢のある
お方のお持物を誰が淡つて行きませう。
お妃は殿樣のもの，殿樣のものにしてお上げ申したい。

お妃と御一所に私共を，内は堅固な城壁で，
外は強大な軍隊でお護り下さるから，
私共は二重にさうしてお上げ申したいのです。

ファウスト

此者達に授けた褒美は——
銘銘が豐かな國を貰ふのだから——
大きな立派なものだ，もう進軍させよう。
我我二人は眞中にゐて固く守る。

此者達が我勝にと守つてくれるのは，
四方から波の打寄せる所で，
低い丘陵の帶で，ヨーロッパの名殘の
山脈に聯つてゐる半島のお前だ。

久しい前からお妃を仰ぎ見てゐた
此國は，今お妃の領地になつたが，
すべての國を照らす太陽の下で
どの民族にも福をもたらすが好い。

オイロタス川の葦の戰ぎにつれて
慧きながら卵の殼を破つて出て來た時，
貴い母君や兄弟姉妹の眼を
まばゆがらせたお妃だ。

此國はあなたの方にばかり身を
向けて，高い限りの榮を傳へます。
全世界があなたの物にならうとも，
組國をごひいきなさるが好い。

錐形をした山山の嶺が其背に
日の冷い光を忍んで受けてはゐるが，
岩はもう綠がかつた色を見せて，
山羊は美食さうに乏しい餌を漁つてゐる。

泉は湧き出し，小川は集つて早瀨となる，
もう峽や山腹や平地が綠に萌えて來た。
平野を斷ち切る百の丘陵の上をば
羊の群が散らばつて行くのを御覽なさい。

離れぼなれに，油斷なく歩取を測つて
角のある牛が巖崖へと歩いて行くが，
岩壁の穹窿が百も洞穴を作つてゐるから，
どんな獸も雨風を凌ぐことが出來る。

パーンの神がそれをあそこで護つてゐる，
生命の妖精が茂つた谷間の濕れて爽かな
所に住んでゐる，竝んで押合ふ木木は，
高空を蔽うて枝を上に延ばしてゐる。

古い林ではある。槲の木は強く突立つて，
我儘らしく枝と枝を刻み合はせてゐる。
甘い汁を含んだ溫柔しい楡は
純直に榮えて，木末の重荷を弄んでゐる。

靜かな木蔭では垂乳根の母のやうに
微溫い乳が湧いて，人や羊の子に飲ませる。

平地の人の食べる熟した果物も近くにある，
そして蜜は切つて凹めた幹から滴る。

此處は快樂の遺傳する所か，
頰も口も晴晴しくなる，
誰でも其場所にゐた儘不滅になる。
みんな滿足し切つて健かだ。

そして清淨な日に惠みある子が
育つて，父親となる力を得る。
我我は驚いてゐるばかりで，
神か人かの間はいつまでも殘る。

それでアポルの神も牧人の姿をしてゐて，
牧人の美しいのが神に似てゐる程であつた。
何故なれば，自然が純粹境を治める時は，
すべての世界が互ひに感動し合ふから。

（ヘーレナと並んで坐る）

さう云ふ風に私もあなたも成功しました，
過去なんかは後に棄てて置きませう。
最高の神から生れたのだと自覺なさい，
第一義の世界に屬するのはあなただけです。

堅固な城などがあなたを幽閉する筈もない。
スパルタの隣にあるアルカーディエンも
樂多く永らへさせようと，永遠の
若さで我等を圍んでゐるのでもない。

幸多き土地に住むべく誘はれて，
あなたは晴れやかな運命の中へと逃げられた。
玉座が變じてそのまま四阿屋になります，
我我もアルカーディエンらしい自在な幸を享けよう。

場面悉く一變する。いくつか並んだ岩窟に倚掛つて，いくつかの鎖された四阿屋がある。周圍を取卷く斷崖のあたりまで木蔭の多い林が續いてゐる。ファウストとヘーレナはまだ見えない。

合唱群はあちこち分れて眠つてゐる。

フォルキュアス

もうどの位女共が眠つたやら私は知らない。
私が此眼で歴然と見た事でも，夢に
見たやら，それも私に分らない。
起こしてやらう。尼つちよ共，びつくりするだらう。
信じられる奇蹟の解決を飽迄見て置かうと，
下の方に坐つて待つてゐる顔面のお前達もさうだらう。
さあ出て來い，出て來い。前髪をゆさぶつて，
ねぼけた眼をはつきりさせろ。きよろきよろしないで，まあ聞け。

合唱群

さあ聞かせて下さい，どんな不思議があつたか話して下さい，
本當と思へないやうな事が一番聞きたいわ，
だつて，こんな岩なんか見るのは退屈なんだもの。

フォルキュアス

寢起きの眼を擦るが早いか，もう退屈するのか。
ではお聞き，此洞窟，此岩屋，此四阿屋に
世を忍んでお出でになるのは，小唄に出て來る
戀人同士のやうな最樣と奥方なのだ。

合唱群

ええ，此中にですつて。

フォルキュアス

浮世を離れて，

私一人にこつそり奉公させて入らつしやる。

私はお側で重寶がられたが，信用される者の義理として，

成るべく外を出歩るいてゐた。あちこち廻つて

木の皮や，根や，若を採集する，藥の效能を知つてゐるからぬ。

其間二人はしんねこさ。

合唱隊

あの中に森や，牧場や，川や，湖があつて，別な

世界がありでもする樣にお話しだわ。たいへんな架空譚ね。

フォルキュアス

お前達は世間見ずだからさ。あそこは奥の知れない深い所だ，

色色な座敷もあれば庭もある，私は考へながら其を見廻つた。

所が突然に笑聲が空き部屋で反響してゐるではないか。

見ると男の子が一人，奥方の膝から殿樣の膝へ飛びついて，

今度は殿樣から奥方へ飛移るのだ。子供は甘へてふざける，

親馬鹿がからかふ，笑談に大聲立てる，喜んで叫び出す，

入れ替り立ち替りと來るので，私は氣が遠くなつた。

翼の無いゲーニウスのやうな裸の子で，ファウンに似てゐるが，

獸らしくない。固い地面に飛降りると，地面は跳ね返して

空中に投上げる。二度目，三度目と飛上がる中に，

高い圓天井に頭が觸れるぢやないか。

心配さうに奥方が云はれる，「跳ねるのは何遍でも御隨意だが，

飛ぶこと丈はおしでない，自由な飛行はまだ許しません。」

殿樣も意見して云はれる，「お前を高く跳上げる力は

大地にある，足尖が地面に觸れさへすれば，

地に生れた神のアンテーウスのやうにお前は強くなるのだ。」

そんな風に塊になつた此岩の上を，巖角から巖角へと

跳ね廻つて，まるで叩かれた毬のやうに彈むのさ。

すると突然に荒れ岩の罅隙へ落ちて見えなくなつた，

もう助かるまいと思つたよ。奥方は悲しむ，殿樣はそれをなだめる，

私は肩をゆすつて心配する。そこへ子供が又現はれたぢやないか。

岩の間に寶でも隱してあつたのか，花模樣のある衣裝を

立派に着込んで來たのさ。

兩袖から房が垂れて，胸のあたりにリボンがひらひらして，

手には金の琴を持つてゐる，宛然小さなフェーブス神の

やうに，大元氣で巖角や斷崖へ歩いて行く。驚いたよ。

兩親は有頂天になつて，替る替る抱きつく始末さ。

其筈だよ，其子の頭の上の輝きと云つたらないからね。其輝く物が

金の飾なのか，餘にも強い靈の力が焰となつたのか，一寸は云へな

い。

子供の癖にもう，未來はあらゆる美を創造して，永遠の

旋律が五體に鳴渡るといふ事を忍ばせて，其身振で

體を動かしてゐる。お前達も言葉を聞いたり，

仕草を見たら，一から十迄感心する外無いだらうよ。

合唱隊

それを不思議とお云ひなの，

クレータ生れのお方。

人の敎へになる歌の言葉に

一度も耳を傾けた事がおありでないの。

イオーニエンやヘラスに，

昔から澤山傳はつてゐる

神神樣や英雄達の物語なんかも，

つひぞ聞いた事がおありでないの。

今の世の出來事などは，
ほんに，どれもこれも，
先祖の居られた美しい昔の
懸しい名殘の響ですわ。
お前さんのお話なんか，
マーヤーの息子の事を歌つた，
眞實よりも本當らしい
あの可愛い嘘と比べられなくつてよ。

可愛らしい逞しげな子だけれど，
やつと生れたばかりの赤ちやんでせう，
それを清潔な毛織のおむつにくるんで，
飾のある立派な上衣を卷付けたのが，
むだぐちの好きな乳母さん達なの，
智慧の足りない考へですわね。
すると其腕白屋の赤ちやんが，もう横着にも，
軟かさうな，併し彈力のある足を，
可愛らしく逞しげに拔き出したの，
心配げに壓しつけてゐた
紫色の衣物を，平氣で其場で
藁拔けの殼と殘して置いてさ。
丁度あのぎこちない窮屈な蛹の中から，
羽を廣げながらさつさと飛出して，
日の光の行渡つてゐる空氣の中を，
大膽に，ひようきんに飛廻る，
育ち上がりの蝶蝶のやうでしたわ。

それで，此上もない機敏な赤ちやんは，
泥棒や，詐欺師や，其外なんでも
獣の皮の突張つた人間共には，
永遠に惠み深い神樣になりさうでしたわ，
それを又赤ちやんが間もなく，
大さう巧妙な早業で見せてくれましたわ。
海を支配なさる神樣からは，素早く
三尖の矛を盗んだり，軍神アーレスの
劍をさへ，づるく鞘から拔取るのです。
日の神フェーブスの弓の箭も，
鍛冶の神ヘフェーストスの火箸も取ります。
お父樣のツォイスの電光だつて，
あの火が恐くなければ取つたでせう。
それでも戀の神エーロスと角力を取つて，
とうとう足先の早業で勝ちました。
ツェプリエンの女神が愛撫してゐる時，
胸から帶を奪ひ取つたのです。

興趣の多い，旋律の純正な絃樂が洞の中から響いて來る。一同之に耳を傾け，やがて心より感動したやうに見える。この處から，次に「間」と記す處まで，絶えず，調子の整つた音樂がある。

フォルキュアス

まあ，あの可愛い聲をお聞き，
作り話なんか早速棄てておお仕舞ひ。
古い神樣なんかのお仲間は
放つて置くが好い，過ぎ去つたではないか。

誰もお前達を理解してやらうとしない，
私達はもつと高い税を要求するのだ，

人の心に働きかけるには，心の中から
出なければならんといふ秘を。

（岩の方へ戻る）

合唱群

こはいお方，あなたも
此媚びるやうな音樂が好きでせう，
私達は病氣がさつぱりと直つて，
涙脆くなつたやうに感じますの。

太陽の輝きなんかは消してください，
魂の中の夜が明けたのですから，
それから全世界が拒絶するものを，
自分達の心の中で見附け出すのですから。

ヘーレナ，ファウスト，上記の衣裳を着けたオイフォーリオン登場。

オイフォーリオン

子供の歌を歌ふのをお聞きなさると，
すぐそれが貴方がたのお樂しみになります。
拍子に合はせて私が飛上がるのを御覽になると，
貴方がたの心も親らしく躍るのです。

ヘーレナ

人間としての福を授けるには，
愛は氣高い二人を近附けます，
だが神のやうな歡びを與へるには，
樂しい三人の一團を作ります。

ファウスト

これで萬事眼鼻がついたのだ，
俺はお前のもの，お前は俺のものだ。
かうして結び附いてゐる我我は，

外にどうもならせたくはない。

合唱群

長年御親切なお心が，
坊つちやんの優しいお妻となつて，
御夫婦の上に集つたのです。
まあ，なんて心を打つでせう，此一組のお方は。

オイフォーリオン

さあ，私に飛ばせて下さい，
さあ，私に飛上がらせて下さい。
なんでも高い空の中へ
登つて行くのが，
私の熱望です，
其熱望がもう私を捕へました。

ファウスト

程好くしろ，程好くしろ。
無鐵砲なことはするな，
落ちたり，怪我したり，
そんな目にでも會つて，
大事な息子が
俺達を滅ぼすといけないから。

オイフォーリオン

私はもうこれ以上，
地べたにこびりついてゐたくない。
私の手を放してください，
髪の毛を放してください，
着物も放してください。
みんな私の物ですのに。

ヘーレナ

考へておくれ，考へておくれ，
お前が誰のものだと云ふ事をね。
やつとの思ひで美しく出來た
私の物，お前の物，あの方の物を
お前が破りでもしたら，
私達がどんなに歎くかと云ふ事もね。

合唱群

此三人組のお方は，間もなく
離ればなれにおなりぢやないかしら。

ヘーレナとファウスト

どうか制へてくれ。
兩親に免じて，
あまり活氣のある
激しい衝動を制へてくれ。
地味におとなしく，
森の中の此土地を飾つてくれ。

オイフォーリオン

では，あなた方の意思に免じて，
私はこらへてゐます。

（合唱群の少女達の間をうねりながら，舞踏に引入れる）

此快活な少女達を繞つて
飛びはねるのは，ずつと樂ですよ。
節廻しはこれで好いか知ら。
足の運びもこれで好いか知ら。

ヘーレナ

さうです，それは好い事をおしだ，
其別品達に
手の込んだ踊をさせるが好い。

ファウスト

かう云ふ事は早く濟めば好い，
かう云ふごまかしは，
俺はもう嬉しくない。

（オイフォーリオンと合唱群は踊りつつ，歌ひつつ，縺れ合つて動く）

合唱群

あなたが腕を
可愛げにお振りになつたり，
渦捲く髪を光らせながら
ゆさぶりなさつたり，
足でそんなに輕く
地の上をお歩きになつたり，
時時は又手足を
お伸ばしになつたりすると，
あなたはもう目的を遂げました，
可愛らしい坊つちやん。
私達の心は皆，
あなたに靡いてしまひます。

（間）

オイフォーリオン

お前達はどれもこれも，
足の輕い鹿だよ，
何か新しい遊戯をするから
近くへ寄つてお出で，
私が狩人で，
お前達が獸だよ。

合唱群

私達を捕へようとなさるなら，

お急ぎにならないで下さい，
私達はお仕舞になつたら，　9775
あなたを抱擁したいと，
みんな望んでゐますもの，
姿の美しい坊つちやん。

オイフォーリオン

なんでも林の中へ行くのだ。
切株や石のある所へ行くのだ。　9780
容易すく手に入るものは，
私はいやだ，
強ひて取つたものだけが，
可なり私を喜ばせる。

ヘーレナとファウスト

何と云ふ飄輕な事だ，何と云ふ騒がしさだ。　9785
程好くなんぞさせられさうもない。
角笛か何かを吹いてゐるやうに，
谷でも，森でも，響きどよもしてゐる。
何と云ふだらしなさだ，叫びやうだ。

合唱群　（一人づつ急いで登場）

私達の前を素通りなすつたわ。　9790
私達を輕蔑して，恥をかかせなすつたわ，
其くせ皆の中で一番
手剛（てごは）な娘を連れて入らしたわ。

オイフォーリオン

（一人の少女を抱いて來る）

此しぶとい，小さな娘を連出して，
強ひても享樂するのだ。　9795
私の歡樂のため，愉快のため，

强情な胸を抱きしめて，
獸がる口をキスして，
男の力と意思を知らせるのだ。

娘

放して下さい。私の此體の中だつて，　9800
精神の力と勇氣はありますよ，
あなたのと同じく，私の意思も
そんなにやすやすと奪はれません。
私が困り切つてゐるとでもお考へですか。
御自分の腕を大さう賴りになさいますこと。　9805
しつかり攫まへて入らつしやい，慰みに，
馬鹿のあなたに火傷をさせますよ。

（娘，焰となり，燃えて空中に上る）

私について，輕い，高い空へ入らつしやい，
私について，冷たい墓へ入らつしやい，
消えた目標をお攫みなさい。　9810

オイフォーリオン

（最後の焰を拂ひ退けつつ）

此處では，森の茂みの中に，
岩と岩が重なつてゐるだけだ，
こんな狹い處では仕樣がない，
だつて私は若くて元氣だからな。
風の聲がざわざわしてゐる，　9815
波の音がどうどう聞える，
風も波も遠く聞えるだけだが，
どうかして近くへ行きたい。

（益高く岩の上を飛び登る）

ヘーレナとファウスト，合唱群

お前は羚羊(かもしか)になりたい積りか。
落ちたらと思ふと體がぞくぞくする。

オイフォーリオン

だんだん高く登らなくてはならん，
だんだん遠く見渡さなくてはならん。
いよいよ私の居場所が分つた。
此處は島の中央で，
ペロプスの國の中央だ，
地にも水にも緣がある。

合唱群

山と森の間で，平和に
暮らしたくはありませんの。
そしたらすぐに私達は，
道ばたの葡萄の實や，
岡の隅にある葡萄の實や，
無果花や，金色の林檎を探して來ます。
どうぞ此しほらしい國に，
しほらしくして入らつしやいな。

オイフォーリオン

お前達は平和の日を夢みてゐるのか。
夢みたいなやつは夢みるが好い。
戰爭，合圖の言葉はこれだ。
勝利，後から響くのはこれだ。

合唱群

平和の時代にゐながら，
戰爭の昔に返りたがる人は，
希望といふ幸福に
別れを告げてゐるのです。

オイフォーリオン

危險から危險へと出入し，
自由に，限りなく勇敢に，
物惜みせず我血を流すやうにと，
此國が生み出した勇士達だ——
抑制する事の出來ない人には
神聖な考があるのだ——
すべて戰ふ人人には
僥倖が授けてあるのだ。

合唱群

上の方を御覽なさい，高くお登りなさつた事。
其くせ小さくはお見えになりません，
甲冑をつけて，勝利を得られるやうな，
鐵や鋼(はがね)そのままのやうなそぶりです。

オイフォーリオン

望櫓もない，城壁もない，
だれもかれも自信の力があるだけだ。
どこまでも堪へ忍ぶ堅固な城塞は，
鐵壁のやうな男兒の胸だ。
征服されずに永らへてゐたいなら，
手輕く武裝して戰場に赴け。
女は娘子軍になつて，
小兒はどれも勇士になれ。

合唱群

神聖な詩は
天まで昇るが好いわ，
一番美しい星は
遠く，ずつと遠く光るが好いわ，

どんな事があつても，あの詩は
私達の所へ屆くわ，どうしても聞えるわ，
喜んで聞きたがつてゐるもの。

オイフォーリオン

いや，いや，私は小兒となつて顯はれはしない，　9870
武裝して來た青年だ。
強い，自由な，大膽な人人の仲間となつて，
想像の上では一角の事をしてゐる。
さあ，進まう。
さあ，あそこに　9875
開いてゐるのが，名譽へ赴く道だ。

ヘーレナとファウスト

やつと人の世に生れたばかりで，
晴晴しい日にやつと當つたばかりで，
お前はめまひのする階段から，
悲痛に滿ちた國へとあこがれてゐる。　9880
私達の事なんか
お前にはなんでもないのか。
此やさしい歡樂は夢なのか。

オイフォーリオン

海の上の雷鳴が聞えますか。
谷から谷へとこだまを返してゐます，　9885
烟塵と波濤の中で軍と軍とが相會うて，
押合ひ，せり合ひして，苦しい鬪をするのです。
そして死が
命令なのです，
これは兎角さうなるのです。　9890

ヘーレナとファウスト，合唱群

何と云ふ怖ろしい事だ，戰慄すべき事だ。
死がお前には命令なのか。

オイオォーリオン

私に遠くから觀てゐろと云ふのですか。
いや，私は憂も艱も共にします。

前の人人

無暴だ，危險だ，　9895
死の鬪を引くのだ。

オイフォーリオン

どうしてもです——それに
兩の翼が廣がつて來ました。
あちらへ行かなくてはならない，行かなくては。
飛ぶ事を許して下さい。　9900

（空中に飛躍する。一瞬の間，衣裳が彼を支へてゐる，彼の頭から光を出し，體の後ろには光を尾と引いてゐる）

合唱群

イルカスだわ。イルカスだわ。
ほんとにおかはいさうです。

（美しい少年，兩親の脚下に落ちて來る。死該を見れば熟知した人の姿である。だが肉體の部分は直に消え，後光は彗星のやうに天に上つて仕舞ふ。着物とマントと七絃琴だけが殘つてゐる）

ヘーレナとファウスト

歡樂の後を追うて，すぐに
苦しい哀傷が來た。

オイフォーリオンの聲，地の下から

母上，こんな暗い國に，私を　9905
一人つぼちにしないで下さい。

（間）

合唱群（哀悼歌）

一人つぼちには致しません——何處へ入らしつても，
私達は貴方を存じてゐると思ひます，
現の世から貴方がお去りになつても，
誰の心も貴方を忘れません。
嘆くことさへ出來ないくらゐ，
羨しがつて貴方の運命を歌ふのですもの，
うれしい日にも，悲しい日にも，
貴方の歌と心意氣は，美しく大きかつたのです。

高い門閥とすぐれた能力で，
此世の幸福を得ようとお生れなさつたが，
惜しや早く其が失はれて，
若い盛りの花が散つて仕舞ひました。
世の中を觀る鋭い眼光があつて，
どんな心の動きにも同情なすつて，
秀でた女には戀の炎を燃やさして，
それから眞似の出來ない詩をお作りになりました。

だが貴方は止度なく，自由に，
しまりのない網の中に走り込みなすつて，
それで風俗や法律と
烈しく衝突なさいました。
しかし，後では，高潔なお考へから，
純正な勇氣に重きを置いて，
すばらしい物を得ようとなさいましたが，
それは成功しませんでした。

誰が成功しませう——これは，
此上もない不幸の限りの日に，
國民がすべて血に塗れて沈默する時，
運命が其に姿を隱す程悲しい問題です。
でも，新しい歌を蘇生らせて下さい，
あまり長く悲しみに首を屈めてはいけません。
大地はこれ迄にさういふ歌を生んだが，
これから先だつて又生みますから。

（悉く休憩。音樂終る）

ヘーレナ（ファウストに對ひ）

幸福と美とは末長く一緒になつてはゐないと云ふ
古い諺が，悲しや我身の上で證明をされました。
生命の紐，戀の絆も切れ果てました，二つとも
いたはしく思うて，私は苦しくもお別れを致します。
そしてもう一度，腕に抱いて下さいまし。
冥府の女王，さあ子供と私を連れて行つて下さい。

（ヘーレナがファウストを抱擁すると，其肉體は消え，着物と面紗だけファウストの手に殘る）

フォルキュアス（ファウストに對ひ）

殘つた物だけをしつかり持つていらつしやい。
其着物を放さないやうになさい。
惡靈共がもう裾を引きずつて，幽界へ
持つて行きたがります。しつかり
持つてゐらつしやい。女神は，貴方が亡くして
もうゐないが，併し神神しい。有難さの
測り知られぬ此惠みを善用して向上なさい。
生きてお出でになる限り，此物を綱りに，一切の
卑しい處を通り拔けて，大空へとお登りなさい。

では又お會ひしませう，遠い，大へん遠い所で。

（ヘーレナの衣裳は雲と散り，ファウストを包み，空中へ引揚ぐ，
雲はファウストと共に去り行く）

フォルキュアス

（オイフォーリオンの着物とマントと七絃琴を地上より取上げ，前
舞臺へ出て來て，遺物を高く捧げつつ話す）

これだけでも美事に見附け出しましたよ。
焰は云ふ迄もなく消えましたが，
何も世間の爲に口惜しくはありません。
これだけ殘れば十分で，詩人を眞打にしたり，
職人氣質の嫉妬心を起こさせます。
私は才能を授ける事が出來ないから，
せめて衣裳でも貸してやりませう。

（前舞臺で一本の柱の側に坐る）

パンタリス

さあ，みんな急ぐのですよ。魔法は離れたし，
古いテッサーリエンの妖婦の，荒んだ心の抑壓も取れました。
耳を迷はせ，もつと惡い事には心を迷はせる，
あのごたごたした音響の陶醉も醒めました。
幽界へ降るのですよ。お妃は几帳面な
歩き方で，急いでお降りなされましたからね。
其足跡を追うて行くのが，忠實な召使の習ひでせう。
私達は測り得ぬお方の玉座の傍でお妃に會ふのです。

合唱群

お妃樣なら無論——何處にでも喜んでお出でですわ。
幽界でも威張つて外のお妃達と一所になり，
そこの女王のペルゼーフォネとも親しくして，
御自分が上に立つて入らつしやる位ですわ。

だけど私達はアスフォーデロスの
低い草原の奥で，
ひよろ長い白楊の木や，
實を結ばない柳なんかと一所にされて，
何の慰みがあるでせう。
化物の樣に面白くもない囁きをすると，
蝙蝠がぴいぴ鳴くやうでせう。

パンタリス

誰でも名前を輝かした事もなく，高尚な事を
望みもしない者は，四大に還元するのです。
私はどうあつても，お妃樣と御一所にゐたい。
手柄ばかりでなく，忠誠も肝心です，人格には。（退場）

一　同

これで日のさす所へ戻りましたね，
それはもう人間でなくなつた事が，
感じで分りますが，
それで幽界へは決して歸りません。
永遠に生きてゐる自然が，
靈の私達を頼りにし切つてゐる樣に，
私達も自然を頼りにしませう。

合唱群の一部

私達は此無數の枝の囁き，振ひ，ざわめき，漂ふ中で，
ふざけ，くすぐつて，生命の泉を根から小枝へそつと
誘ひませう。どつさり葉を出し，花を咲かせて，
ふわふわしたあの髮を飾つて，輕く自由に榮えさせませう。
實が落ちると，のんきに暮らしてゐる人と家畜が來て，
取つたり，かぢつたりしようと，急いだり，押合つたりします。
そして第一等の神神樣を拜むやうに，私達の周圍で腰を屈めます。

他の一部

私達は此遠くまで光つて，鏡の樣に滑らかな岩壁へ
もたれて，靜かな波の樣に體を動かし，慰びてゐませう。
どんな物音でも，鳥の囀にせよ，蘆の笛にせよ，
牧羊神の怖ろしい聲でも聞いて居つて，すぐ返事をしませう。
ざわめく聲なら，ざわめきで答へませう。雷鳴ならば，
私達の雷を搖り動かす樣に，二倍，三倍，十倍にしてやりませう。

第三部

姉さん達。きさくな私達は小川と一所に急いで行きませう。
あの遠方にある，草木で飾られた岡が，そりや好いんですもの，
だんだん低く下流になつて，メーアンデルの樣に曲折して，
最初は草地，次に牧場，家のまはりの庭をも濡らしませう。
あれ，あそこに屋根のすらりとした頂が，陸や，岸や，
水を越えて，空に聳えてゐるのが目標ですよ。

第四部

お前さん達は好きな處へ巡禮に行くが好い，私達は
幹に葡萄の茂つたあの一面の葡萄山を圍んでさらさら流れます。
あそこでは，一日中，親切に世話をやく，熱心な
葡萄造りが，實りを氣づかつてゐるのが見えます。
鍬や鋤で耕したり，土を盛上げたり，切つたり，縛つたりして，
すべての神神樣，別して靈驗のある日の神樣に祈つてゐます。
ぐうたらの酒の神樣バッフスは，忠實な家來に目をかけず，
四阿屋にねたり，岩屋にもたれて，若いファウンと馬鹿談をします。
此神樣の夢みる樣な陶醉に必要なお酒は，
何十年の末の世かけて，涼しい酒藏の左右に置いてある
革袋や，瓶や，樽に貯へてあります。
だが，すべての神樣，別して日の神樣ヘーリオスが，
風を入れ，濕し，溫め，日を照し，寶角の樣な房を熟成ます。

すると靜な葡萄造りの働いてゐる所が，急に活氣を帶びて，
四阿屋の中でかさこそ音がして，棚から棚へ傳はります。
籠がきしみ，手桶ががらがら鳴り，搾桶がうめき，
みんな大桶へと，酒絞りの威勢の好い踊へと急ぐのです。
さうやつて，生れの淸い，露の多い，神聖な豐かな房も，
存際に踏まれて泡を立て，汚く潰されて，とばしりをはね合ひます。
すると銅羅や鈴鐘の騷音が耳を劈いて來ます，
ディオーニュゾスの神樣が，神祕の中から姿を現はしたからです。
山羊の脚の女神を振廻して，山羊の脚の男神と一所に來ます，
その間にジレーヌスを載せた驢馬が間抜けた聲で叫びます。
容赦はございません。割れた蹄でどの風俗も蹂躙します，
すべての官能は渦をなしてよろめき，恐るべき音に耳は聾します。
杯を捜してゐる醉漢の頭も，腹も，酒があふれます，
まだ一人二人氣をもんでゐるが，却て騷ぎをひどくします，
其筈です，新しい酒を盛らうと，古い革袋を早くあけるのです。

（幕下る）

前舞臺にゐるフォルキュアスは巨人の樣に立上がり，木履を脫ぎ，假面と紗を後に投げやり，メフィストーフェレスとして現はれ，必要あらば跋詞を述べて此曲を註釋してもよい。

第四幕

高山，屹然と聳えるぎざぎざのある岩の頂上。一抹の雲が進んで來て岩に倚り掛かり，突き出た臺の上に降りる。雲は分かれる

ファウスト（現はれる）

深い限りの寂寥を脚の下に見下ろしながら，
俺は慎重に此頂上の出端に足を下ろして，　10040
晴天の日に陸と海を越えて，靜かに
俺を運んだ雲の乘駕に暇を遣る。
雲は散りはだけず，悠然と俺から離れて行く。
雲の群が球狀の列になつて東へ向ふのを，
此眼は驚きもし，感心もして見送るのだ。　10045
彷徨ひながら，雲は分かれて，波となり，形が變る。
併し何か模型があるらしい。——さうだ，見誤りではない。——
日に輝く褥の上に美しく體を投出し，
巨人めいた所はあるが，俺に似た女の姿を
俺は見る。ユーノか，レーダか，ヘーレナか，　10050
尊くも可愛らしくも，此眼を打つて定まらない。
ああ，もう攪亂するのか。形も無く，積上げられて幅廣く，
遠い氷山のやうに，東の天に止まつて，
驅り行く日の大なる意味をまぶしく寫してゐる。

併し柔かな明るい霧が，まだ俺の胸や額に漂うて，　10055

涼しく，うれしく，好い氣持にしてくれる。
今度はそれが輕やかに，ためらひながら，だんだん
高く上つて一所に出會ふ。——錯覺でなからうか，
あの美しい姿は，疾に亡くした若い折の最高の財寶だ。
心の奥に藏つてある數數の寶が湧き上がる。　10060
アウローラ[1]の戀の輕くはずんだ昔を思はせる，
感じは早いが，殆ど理解し難い最初の一目だ，
其一目をしつかり捕へると，どんな寶よりも輝いてゐた。
いや，あのやさしい形は靈の美のやうに高まつて，
解けることなく，大氣の中へ登り，　10065
俺の心の内にある無上の物を引きさらつて行く。

片方の七里靴が不恰好に地を踏んで現はれる。メフィストーフェレス，降りて來る。靴は急いで歩き去る。

メフィストーフェレス

此分なら，矢つ張捗取つたと云ふものです。
時に貴方，何を思ひついて，
こんな氣味の惡い中央で，岩石が
物凄くも口を開いてゐる所へ降りたのです。　10070
かう云ふ所は，私も知つてはゐるが，此處ではない，
もともと地獄の底で見たのですからね。

ファウトス

君は愚かしい作り話に事を缺かないね，
此處でそれをぶちまけるのだらう。

メフィストーフェレス（眞面目に）

天地の主宰たる神樣が——實は其譯も知つてゐます——　10075
中央が灼熱して，周圍が一面に
永遠な火で烈しく燃えてゐるどん底へ，

1 初戀のマルガレーテの姿。

空中から私共を墮して破門された時，
私共は，餘り明晃晃と明るかつたので，
非常に押合つて，窮屈な恰好をしてゐたんです。
悪魔の連中，すつかり暖を始めて仕舞つて，
上からも下からもこんこんやる始末です。
何しろ地獄は硫黄の臭ひと硫酸で一ぱいでせう，
其又瓦斯と來たら。到頭えらい事になつて，
國國の平な地盤が，厚い事は厚いが，
間もなく轟然たる響を立てて破裂したのです。
それで私共は拔目なくやりましたが，
以前谷底であつた所が，今度は頂上になりました。
そこで悪魔の連中が，到行逆施と云ふ
尤もらしい學說を基礎づけたのです。
何故と云ふに，私共は奴隷向きの熱い穴を出て，
自由な空氣が思ふ存分支配する所へ來たのです。
これは公然の祕密で，大切に藏つて置いて，
後になつてから人間に公表する積りです。

（以弗所書第六章第十二節）

ファウスト

山は俺の爲には，上品に沈默してゐる，
どうして，なぜ出來たかは，俺は問題にしない。
自然が自分の中に自分を基礎づけた時，
此地球を汚れなく圓めて置いたのだ，
山の頂上も，谷底も，それぞれ樂しがつて，
岩と岩，山と山を配列したのだ。
それから丘陵は巧に傾斜させて，
幻想もゆるく谷へ下るやうにしたのだ。
綠の芽を吹いて草木が成長する，自分が樂しむ爲に

狂暴な渦卷沙汰なんぞは要りはしない。

メフィストーフェレス

貴方はさう云ふ事を仰つしやる。貴方には日を見るやうに
明白でせうが，其場に居合はせた者は，別な事を知つてゐます。
あの下の方で，地のどん底が煮えくり返るやうに
膨れ上がつて，流れながら焰を吐いてゐた時，
私は其處にゐたのです，モーロホの槌が岩と岩を鍛へて，
山の破片を遠くへ投飛ばしてゐました。
今尙ほ陸には，外の土地から來た何百貫の重い物が
凝然（ぢつ）としてゐます。誰が此投げる力を說明しますか。
哲學者には解釋が出來ない，
何しろ岩があれば，其儘横はらせる外仕樣がない，
もう打ちこはしになる位，私共も考へたのです。——
忠實な下層民だけが知つてゐて，
自分の考へを亂すやうな事はありません。
智慧といふ者が疾うから圓熟してゐるのです，
つまり奇蹟ですね，悪魔の名譽になります。
迂路は信仰の檀木杖に手縋つて，
魔の岩，魔の橋なぞへ出掛けます。

ファウスト

悪魔が自然をどういふ風に觀るか，それを聞いて
注意するのも，つまらぬ事ではなからう。

メフィストーフェレス

私に何の關係があらう。自然は有るが儘に有れば好い。
いや，全く本當の事です。——悪魔が居合はせたのです。
私共はどえらい事をやつてのける手合です。
騒動も，暴力も，無理もやる。證據は此邊にあります。——
併し，これからいよいよ分り易い話になりますが，

地球の表面では，何一つお氣に入りませんかな。
貴方は世界の國國と其榮華を，
限りもない廣さに亙つて御覽になつた。

（馬太傳第四章）

併し，滿足する事の出來ない貴方ですから，
流涎三尺といふ程の物は無かつたでせうね。

ファウスト

いや，有るよ，大規模の物が心を惹いたのだ。
當てて見るが好い。

メフィストーフェレス

其はたやすい事ですね。
私はまあこんな樣な都會を選びますね，
中心には市民の食物屋の混亂，
曲つた狹い町，先の尖つた破風，
窮屈な市場，甘藍，蕪菁，葱があります。
脂味の多い肉を御馳走にならうと，
蒼鷺の寄つてたかる肉賣臺もあります。
いつ何時（なんどき）お出でになつて見ても，
臭いのと，忙しいのはたしかです。
それから生意氣らしく，高尙に見せかける，
廣い辻や，大きな通りもあります。
それから仕舞に，城門が區切りをつけると，
限りもなくのびて行く場末があります。
私はまあ馬車の車輪がごろごろと
喧しく，あつちへ，こつちへ騷けめぐり，
撒き散らした鑛がうようよした群になつて，
永遠にあつちこつち走るのが樂しみです。
所で，私が馬車か騎馬で出かけると，

いつもみんなの中心となつて，
何王何子と云ふ人間に尊敬される譯です。

ファウスト

そんな事は俺を滿足させはしない。
世人は，人口が繁殖して，めいめいの行（や）り方で
樂しく我身を養つて，おまけに
教育を受けたり，學問するのを喜ぶが——
あれはたゞ謀叛人を養成してゐるのだ。

メフィストーフェレス

それから私は，自分の知つてゐる限り莊麗な
城を，娛樂の爲に遊苑地へ建てますね。
森や，岡や，平地や，牧場や，畑などを
改築して，立派な庭園にしませう。
綠の壁とも云ふべき垣の前には，天鵞絨を敷く牧場や，
絲の如く眞直な道や，人巧を盡した四阿屋や，
岩と岩とを組合はして作つた瀧があります。
それに噴水は種種（いろいろ）のがあつて，
一方では上品に噴き出すが，脇の方からは，
ぶうぶうしゆうしゆうと，千百に小さく分れる。
それで私は第一等の美人共を園ふ爲，
氣苦勞のない，住みよい別莊を建てませう。
いつまでと云ふ事もない長い月日を，
隨分しほらしい，水入らずの寂しさで暮らすのです。
私は美人共と云つたが，いつでも私は，
美人と云ふ者を複數に考へるのです。

ファウスト

下等で現代的だ。ザルダナパールだ。

メフィストーフェレス

さう聞くと御志望も推察されさうです。
それはなんでも飛切り大膽な事でせう。
貴方はもう月の近くに漂つてゐますが，
恐らく天上にあこがれて，氣が引かれたのですね。 10180

ファウスト

遠つてゐる。此地球では，まだ
偉大な事業をする餘地がある。
驚嘆に値する事を成就しなければならない，
俺は大膽な骨折をする力を感じてゐる。

メフィストーフェレス

それでは名譽を博したいと云ふのでせう。 10185
爭はれませんよ，今迄女の英雄の所にお出でなされた事が。

ファウスト

主權を獲得するのだ，所有だ。
事業がすべてだ，名譽は無だ。

メフィストーフェレス

それでも詩人と云ふやつが來て，
後世に貴方の華華しさを傳へて，
馬鹿な言葉で馬鹿な事を宣傳するでせう。 10190

ファウスト

何と云つても，君の儲けには少しもならない。
人間の熱望するものが，君などに分るもんか。
皮肉な，鋭い，厭な君の本性に，
人間の要求するものが分つて溜るもんか。 10195

メフィストーフェレス

兎に角，貴方の意志の通りにしませう。
貴方の出來心の範圍を打明けて下さい。

ファウスト

俺の眼が海の沖の方に引付けられてゐた。
水が盛り上がらうとして膨れて來る，
罷んだと思ふと波を飛散させて，
廣廣とした平な岸を襲うて來るのだ。 10200
癪に觸るではないか。不遜の心が，
すべての權利を重んずる自由な精神を，
激情に刺激された血潮の餘りに，
感情の惑亂に置き換へるやうなものだ。 10205
偶然だらうと思うて眼を鋭くしてゐると，
波は止まつて又卷返して行く，
得意になつて成就した目的から離れる。
時が來れば，又遊戯を繰返すのだ。

メフィストーフェレス（見物に對ひ）

これでは，新しい事は一つも聞かれやしません， 10210
こんな事なら，十萬年も前から知つてゐます。

ファウスト（感激して續ける）

自分が不生産的な波は，不生産的な性質を
四方八方へ及ぼす積りで忍び寄つて來る。
膨れる，生長する，轉がる，そして
荒れた地域の廣な範圍を覆ふのだ。 10215
波また波は力に熱中して支配するが，
寄せて返した跡には，俺を絶望させる程——
怖ろしい事は何も仕上げてゐないのだ。
だらしの無い四大の無目的な力に過ぎない。
そこで俺の精神は，敢て自己以上に飛躍する。 10220
俺は波と戰つて，波に勝ちたいのだ。

而も其は出來る事だ。——波は汎濫するが，

どの岡でも避けて，曲つて通る。
波はたとへ不遜に振舞ふとも，
僅かな高まりも敢然と之に抵抗し，
僅かな窪みも力强く流れこませる。
そこで俺は胸の中で計畫に計畫を立てる，
あの横暴な海を岸から遠ざけ，
水にぬれる地域の限界を狹め，
波を遙か遠くの海へ逐ひやつたら，
貴い樂が得られるだらう。
此計畫を一歩一歩俺は吟味した。
之が俺の熱望だ，之を捗取らせよう。
（太鼓の音や軍樂が，見物の後ろ，遠く，右手から聞える）

メフィストーフェレス

たやすい事です。遠くの太鼓の音が聞えますか。

ファウスト

又戰爭か。怜悧な人は聞く事を好まない。

メフィストーフェレス

戰爭にしろ，平和にしろ，自己の利益となる樣に
利用しようと努力するのが，怜悧なのです。
あらゆる都合の好い瞬間を注意して待つのです。
機會は來ました，ファウスト先生，攫まへなさい。

ファウスト

そんな謎の出し數なんぞよしてくれ。
一言で云へばどうするのだ。說明するが好い。

メフィストーフェレス

實は歩き廻つてゐる時耳にしたのですが，
あの人の好い皇帝に大きな心配事があるのです。
御承知の方です。私共があの方を喜ばせて，

僞りの富を手に入れてやつた時，
あの方には全世界も喜く買へたのです。
何しろ，年若く玉座に卽かれたのだから，
政治と同時に享樂が
旨く一所に出來て，しかも
其が願つてもない事で，美しい事だと，
間違つた決論を下し勝ちでした。

ファウスト

大きな間違ひだ。命令すべき人は，
命令其物の中に祝福を感じなければならない。
其人の胸には高尙な意思が滿ちてゐて，
何を欲するかは，誰も窺ひ知る事は出來ない。
最も忠實な家來の耳に耳語くと，
それが實行される，全世界が驚嘆する。
さう云ふ具合に最高の地位，最大の威望が
絶えず保たれる——享樂は卑しうするものだ。

メフィストーフェレス

さう云ふ柄ではない，あの方は。享樂したのです，
どんなにしたでせう。其中に國は無政府のやうになり，
貴賤上下入り交つて爭ひ，
兄弟互に放逐し合ひ，殺し合ひ，
城と城の間に，市と市との間に，
職人組合と貴族の間にも確執が生じ，
僧正と本山僧侶や教區の間でも，
互ひに見合ひさへすれば皆敵になつた。
寺院の中で人殺しがある，城門の前では
旅人も商人も掠奪される。
それで，すべての人が少からず大膽になりました。

自己防禦で生きたのです——それでも行きますよ。

ファウスト

それは行く，跛を引く，倒れる，又起上がる，
それから跳(はね)廻つて，東になつて轉がる。

メフィストーフェレス

さう云ふ狀態を誰も悪口する事は許されない，
銘銘が偉がらうとしたり，又偉がりもします。 10275
極めて小人物の癖に，たしかな男と云はれる。
仕舞には一番好い人達も馬鹿らしく思ふ。
そこで有爲な手合が協力して叛き出し，
宣言して云ふには，「安寧を與へるのが君主だ。
今の皇帝は其力もなく，其意思もない—— 10280
新しい皇帝を選んで，新しく國に生命を吹込まう，
さうすれば，どの樣な民でも安全に保護して，
新たに造られた其社會では，
平和と正義が結婚するだらう。」

ファウスト

ひどく坊主臭い言ひ草だ。

メフィストーフェレス

坊主が云ひましたよ， 10285
坊主共は肥つちよのお腹を安心させたのです。
あいつらは誰よりも多く立入つてゐますから，
一揆が廣がりもし，神聖にもされるのです。
そこで私共が喜ばして上げたあの皇帝は，
恐らく最後の決戰に此處へ繰出すのです。 10290

ファウスト

氣の毒な事だ，親切で公明な人だのに。

メフィストーフェレス

お出でなさい，見物するのです，生きてゐる者は望みがある。
私共で此狹い谷から救ひ出してやりませう。
一度助けてやれば，千度助けた事になります。
雲がどう投げられるか，まだ知れやしない。 10295
御運が好ければ，家來の諸侯もあるのです。

二人は山腹を越えて進み出で，谷にある軍隊の配置を展望する。

太鼓と軍樂は下より響く。

メフィストーフェレス

見れば陣地はよく取つてあります。
これで私共が加はると，勝利は完全なものになる。

ファウスト

此處で君から期待する事は一體何だ。
ごまかし，魔法手品，空虛な見せかけ位だらう。 10300

メフィストーフェレス

戰爭に勝つための軍略です。
貴方も將來の目的を熟考して，
大きな企をする樣にきめて下さい。
私共が皇帝の玉座と國土を支へて上げれば，
貴方は閣下に平伏して，際限もない 10305
海岸を領地としてお受けなさるのです。

ファウスト

此迄も君はいろいろやつてのけたが，
では，今度は戰爭に勝つて見せるが好い。

メフィストーフェレス

いえ，貴方が勝つのです。今度こそは
貴方が元帥です。 10310

ファウスト

其は此俺に適當な地位といふものだ，

何の心得もない所で命令するなんて。

メフィストーフェレス

參謀部に世話を焼かせなさい，
さうすれば元帥は安全なものです。
軍事の苦悶は疾うから感じてゐますが，
軍事の顯問は，豫め原始的山岳地方の
原始的人間で組織して置きました。
あいつ等を集めた者は幸ひなるかなです。

ファウスト

あそこに見える，あの武器を携へてゐるのは何か。
君は山岳地方の人民を煽動したのか。

メフィストーフェレス

いえ，ペーテル・スクェンツさんの役者のやうに，
穀つぶしばかりの中から選つたのです。

三人の力强き者登場。（撒母耳後書第二十三章第八節）

メフィストーフェレス

やあ，あそこに私の手下共が來ました。
御覽ででせうが，年格好もいろいろで，
着物や武器もまちまちになつてゐます，
お使ひになつて損のないやつです。

（見物に對ひ）

けふ日はどんな子供でも，
鎧や騎士の襟などが好きです。
此やくざ者は寓意にすぎないが，
其丈却てお氣に召しませう。

暴れ者

（若くて，輕く武裝して，はでな着物を着てゐる）

誰でもおれの眼を見入るやつは，

すぐ拳骨を咽喉元へ押込んでやる，
臆病者で逃出す樣だつたら，
後ろ髮を引つ攫んでやる。

すぐとり

（男らしく，よく武裝して，贅澤な着物を着てゐる）

そんな空つぽの喧嘩は，
茶番も同樣，暇が潰れる丈だ。
取る事にかけては倦むことなく，
外の事はすべて其後にしろ。

遺りや

（年老ひて，嚴重に武裝し，着物を着ない）

さうやつた所で餘り得にはならん，
大きい財產でもすぐ溶けて，
人生の流に落ちるのだ。
成程取るのもよいが，握つてゐるのが一層よい。
まあ，此薄汚い下郎にやらせるが好い，
さうしたら，貴方は人に物を取られない。

（皆皆一所に低い方へ下る）

前山の上

太鼓の音と軍樂は下から聞える。皇帝の天幕が張られてある。

皇帝。元帥。護衛兵等。

元　帥

此適當な谷谷へ
全軍をひきまとめて背進させたのは，
矢つ張熟考を重ねた計略でした。
決戰で我軍の勝つ見込は大丈夫です。

皇　帝

どうなり行くか今に分るだらう。
だが，あの半ば敗走しかけた背進が氣に食はない。

元　帥

こちらの方の，我軍の右翼を御覽下さい。
ああした地形は戰術上から望むもので，
丘陵が險し過ぎもせず，登り易くもない。
我軍に有利で，敵には有害です。
あの波狀形の平地に我兵を半ば隱して置けば，
敵の騎兵は敢て近づきません。

皇　帝

さうと聞けば，褒めるより外はない。
此處で我兵の伎倆と士氣が驗(ため)される。

元　帥

こちらの方の，牧場のまん中の平地で
我方陣が氣負うて戰ふのを御覽下さい。
槍の穂先が朝霧の中で日光に照らされ，
空中でぴかぴか閃めいてゐる。
あの强大な方陣が暗憺として波打つてゐませう。
幾千の兵卒が偉大な功を立てようと熱中してゐます。
多數の力といふ事は，あれでお分りになりませう，
あれなら敵の兵力を分かつ事が出來ます。

皇　帝

此程美しい眺めは始てだ。
我軍勢は倍數の戰鬪力を持つてゐる。

元　帥

我軍の左翼に就いては，報告するに及びません，
險峻な岩の山を，殊勝な勇士が衞つてゐます。

唯今，武器がぴかぴか光るあの石の絶壁が，
此狹い峽谷の，大切な隘路を防禦するのです。
もう豫感で知れます，敵の兵力が思ひもよらず，
血腥い戰爭に挫折するのが。

皇　帝

あちらから僞に滿ちた親類共が來る，
身共を叔父だの，從兄弟だの，兄弟だのと呼んで，
一日毎にだんだん增長して來て，
笏から權威を，玉座からは尊敬を奪ひ，
それから仲間割れをして國中を荒らしたが，
いよいよぐるになつて身共に反抗して來たのだ。
多數の者は精神があいまいで，ぐらついてゐて，
流す方へ流されて行かうといふのだ。

元　帥

忠實な一人の兵士を間諜に出して置いたが，
今急いで岩を降りて來る。旨く行けば好いが。

間諜第一

あちこち潛つて歩かうと云ふ，
狡猾で氣の强いこちらの策は，
見事に成功しました。
其辯舌ばしい事はさつぱり御座いません。
心からの恭順をお上に誓つて，
忠實な群の樣なのは多う御座いますが，
懷手をする言譯ばかりして，
國內が反亂するの，人民が危險だのと申します。

皇　帝

自己一身の安全と云ふのが利己主義の教へで，
謝恩も，好意も，義務も，名譽もないのだ。

お前達の天罰が滿ちて來ると，隣の家の
火災で一身を灰にする事を考へないのか。

元　帥

二番目のが來ます，ゆつくりと降りて來る，
疲れたあの兵は手足を震はせてゐます，

間諜第二

始めは面白さうに，亂暴狼藉が
覺束なく進むのを見てゐました。
すると思ひがけなく，待てしばしもなく，
新しい皇帝が現はれました。
狹通りの道を歩いて，草原の中を
大衆がやつて來るのです。
廣げられた僞帝の旗風に
みんな靡くのです。——羊根性の奴原が。

皇　帝

僞帝の出來た事は身共の利益となる，
身共が皇帝だと云ふ事は，今にして切實に感ずる。
身共はただ軍人として鎧を着けたが，
今となつては，高尚な目的の爲に着けたのだ。
隨分きらびやかな祝祭にも會うて，
何でも缺ける物のない身共に危險が缺けてゐた。
お前達の癖として，身共に演武を勸めると，
身共は爲合(しむひ)の空氣を吸うて，胸が高鳴りをした。
お前達が戰爭に反對しなかつたら，
身共は疾うに晴れやかな大功で名を塗はしたらう。
いつぞやの夜，一面の火が此身を映して，
其火が怖ろしく此身に逼つて來た時，
身共は胸に獨立自主の刻印を感じたのだ。

あれは幻影に過ぎないが，幻影としては大きかつた。
身共は勝利と名譽を茫然と夢みて來たが，
勿體なくもおろそかにした事を今取返すのだ。

僞帝に挑戰のため使者を派遣する。ファウストは鎧を着け，半分鎖した冑を冠つてゐる。三人の力の强い男は，以前の通り，武裝して着物を着てゐる。

ファウスト

參上致しましたが，お小言は無からうと存じます。
危險はないにせよ，御用心は肝要で御座います。
御存じの通り，山中の民は考へたり，思案したりして，
自然の文字，岩文字などを調べて居ります。
靈共は疾うに平地から逃去つて，
平生よりも多く岩山に好意を寄せてゐます。
鑛氣(かなけ)の豐富な靄の貴い瓦斯の中で，
蜘蛛手なす谷谷に隱れて，靈共は靜かに働くのです。
絶えず分解したり，試驗したり，綜合するのが，
新しい物を發見したいといふ唯一の欲望なのです。
靈の力のこもる靜かな指で以て，
透明な形のものを澤山建て竝べて，
それから結晶物と，其永遠な沈默の中に，
靈共は上の世界の事件を垣間見るのです。

皇　帝

其は身共も聞いた，お前の言葉を信じよう，
併し，此場合それが何になるのか。

ファウスト

ザビーネル人で，ノルチア[1]に住む魔術師が，
貴君の忠實な，正直な下部(しもべ)になつてゐます。

1 ノルチアはウムブリエンのモンテイ・シビリニの麓にある。

昔はあの男に何といふ怖ろしい運命が迫つたでせう，
焚附の柴がぱちぱち燃える，焰の舌が嘗め廻す。
周圍に積重ねた，乾いた丸太には，
土瀝青や，硫黄の棒が混ぜてありました，
人も，神も，悪魔も助ける事が出來なかつた時に，
貴方の御威德のみが，燃える鎖を絶ち切りました。
それはローマの事でしたが，それを非常に有難く思つて，
絶えず心を配つて，貴方の行手を見守つてゐます。
其時以來，あの男は一身を打忘れて，
ひたすら貴方の髯に星に尋ね，神祕を窺つてゐます。
貴方をお助けする大至急の仕事を，私達に
托したのもあの男です。山の力は偉大でせう。
自然はあそこで絶大の力を自由に發揮するのを，
坊主共の魯鈍な頭で，魔法などと申してゐます。

皇　帝

祝祭の日に晴やかに樂まうと，晴やかに
來る客を出迎へて會釋する時，
一人一人，廣間を狹くする程押しあひへし合ふ
どんな客でも，我我を歡ばせてくれる。
然るに，力强くも我等を助けてくれる實際の人が，
其日の朝の中に來たなら，最大の歡迎をせずには居れぬ，
何となれば，運命の秤がどう動くか，
談に心の苛立つ朝の事だから。
併し乍ら，此大切な瞬間には，喜んで握られる
刀から强い手を引放して貰ひたい，
幾千人が現はれて，敵となり味方となつて，
鎬を削る此瞬間は，尊重して貰ひたい。
獨立自主が男兒だ。玉座や王冠を望む者は，

身體から其だけの價値がなければなるまい。
身共に叛いて起つて，皇帝とか，
此國の君主とか，兵馬の總帥とか，
貴族の宗家とか名乘つてゐるあの怪物は，
此拳を揮うて，死の國へ突落としてやりたい。

ファウスト

さうではありますが，苟も大事を成さるには，
頭を賭して掛かる事は宜しくございません。
冑は鷄冠や前立で飾られてありませう。
あれは我我の勇氣を鼓舞する頭を保護するのです。
頭がなかつたら，手足に何が出來ませう。
頭が眠れば，手足も體も力が竭きます，
頭が怪我をすれば，胴體もすぐに傷がつきます，
頭が直れば，體も元氣になるのです。
腕は忽ち自分の强い權利を利用して，
頭顱を防ぐ爲に盾を上げます，
刀は直ぐに自分の本務を認めて，
力强く受流して，又擊つて掛かります。
强健な足も，仲間の武運にあやからうと，
切られた者の項(うなじ)を蹈みつけます。

皇　帝

身共の怒は正にそれだ，敵をそんな風に取扱つて，
あの威張つた頸を踏臺にしてやりたい。

使者等（歸つて來る）

私共はあまり歡迎もされず，
あまり重きも置かれませんでした，
力の籠つた，上品なこちらの言分を，
黴臭い酒落だと笑つて，かう云ひます，

「お前達の皇帝は杳として消息がない，
そこいらの狭い谷に反響が聞える。
あれを思ひ出して見ろと云ふなら，
お伽噺にあるだらう——昔昔あつたとさ。」

ファウスト

堅固に忠實に，お側を離れない，
我我忠臣共の願ひ通りになりました。
あそこに敵が來ます，味方は負けじと待つてゐます，
攻撃を命じて下さい，好機會です。

皇　帝

此處で身共は指揮をせぬ。

（元帥に對ひ）

公爵，責任はお前の手にあるとしよう。

元　帥

それでは右翼，前へ進め。
丁度今石路を登りかけた敵の左翼を，
最後の一歩といふ所で，驗された
忠義の，若い氣力に讓らせてやる。

ファウスト

どうぞ，此勇氣溢れる男を，
すぐあなたの列に入れて，
隊伍の者と打つて一丸とし，
さうやつて勇猛な活動をさせて下さい。

（右の方を指す）

暴れ者（出て來る）

おれに顔を見せる奴は，上顎と下顎を
打碎かなければ，外つ方向く事は出來ない。
おれに背中を見せる奴は，忽ち頭と，顎と，後髮が，

ぐらぐら，ぐにやりと項に垂れ下る。
其上，おれが暴れる通りに，
味方の兵卒が刀や鐵棒を振廻した日には，
流石の敵も一人一人，
自分の血の中に溺れるだらう。（去る）

元　帥

我中央の密集方陣は靜かに動いて，
全力を竭して，巧妙に敵と渡り會つてくれ。
あそこの少し右手の方では，敵の奮鬪に逢うて，
我攻撃部隊の計畫が動搖してゐる。

ファウスト（中央の力强き男を指す）

此男も御命令に從はせる事に致したい。
敏活な上に，みんなを突進させる男です。

すぐとり（出て來る）

官軍は英雄的の勇氣はあるが，
分捕の欲も添はなければならない。
みんなの目當にさせたい物は，
僞皇帝の派手な天幕だ。
あいつも，もう長く褥の上で威張れない，
おれは其方陣の先頭について行かう。

酒保の女商人はやつかみ

（すぐとりにもたれる）

私，此人のお上さんにはならないが，
此人が私の一番可愛い男なの。
私達の爲には出來秋が來たのだわね。
つかむ時は，女は怖ろしいもので，
奪ひ取る時は，何の遠慮もしないのよ。
勝軍なら先へ附くわ，なんでも出來るもの。

（兩人去る）

元　帥

豫想の通り，敵の右翼は
我左翼を猛然と襲うて來た。あの岩道の
隘路を占領しようと，死に物狂ひに
進む敵兵に，味方は一人一人抵抗するだらう。

ファウスト（左の方に合圖する）

どうぞ，此男にもお眼を留めて頂きたい，
強きを強めるのは何の害もない事です。

握りや（出て來る）

左翼の御心配は御無用です。
私がゐさへすれば持物は安全です。
昔の人が眞實を證明してゐるが，
雷火が落ちても握つた物は放しません。（去る）

メフィストーフェレス（上から降りて來る）

時に御覽なさい，うしろの方で，
ぎざぎざのある岩穴と云ふ岩穴から，
武器を取つた兵士が込み合つて出て來て，
狹い組路をますます狹くして，
兜に，鎧に，刀と盾で，
我軍の背後に石壁を築いて，
相圖を待つて擊ちかからうとしてゐます。

（事情を知る人人に對ひ小聲で）

何處から來たなぞと問うてはいけません。
云ふ迄もなく，私は躊躇せずに，
ゐまはりの武器庫を開けたのです。
あれには騎馬武者も，御徒歩もあつて，
まだ此世の主人顏して立つてゐました。

昔は騎士や，王や，帝などであつたが，
今は空虛な蝸牛の殼に過ぎない。
色色な化物が其中へ潛つて化註をすると，
中世をさながらに生かして見せるのです。
正味はどんな惡魔の小伜にせよ，
今度の所は，拍手喝采を得るのです。

（聲高く）

お聞きなさい，擊ち合ひの前から怒り出して，
金物をがちやがちや響かせてゐます。
旗のつもりのぼろ布も，新鮮な
風にあたりたいとじれつたがつてゐます。
考へても御覽なさい，昔の軍人が，今の世の
戰爭に參加したがつて，用意してゐるのですから。

（恐ろしい金笛が上の方より響いて，敵軍に著しい動搖が起る）

ファウスト

地平線は薄暗くなつて來た，
怪しい，赤い火影が，何かの
前兆らしく，あちこち閃くだけだ。
劍，太刀はもう血の色に光つてゐる，
岩も，森も，雰圍氣も，
蒼天までもが，味方に加はるのだ。

メフィストーフェレス

右翼は力强く支へてゐます。
だが，あの中で拔んでて見えるのは，
暴れ者ハンスといふ敏捷な大男が，
一流の遣り方で働いてゐるのです。

皇　帝

初め腕を一本だけ上げたやうだが，

今はもう十二本で荒れ廻つてゐる，
自然の儘ではあり得ないのだ。

ファウスト

ジヴィーリエンの海岸に立迷ふ
霧の事をお聞きになりませんか。
あそこでは，日に照らされて，清くゆらめきながら，
中空高く上つて行くと，
不思議な靄に映つて，
稀有な幻影が見えるのです，
市街が聳見出沒したり，
庭園が上下に浮沈します，
光景が一つ一つ空氣を破つて出て來るのは之と同じい。

皇　帝

だが，どうも不審だ。長槍の尖端は，
どれもこれも電のやうに光つてゐる。
我方陣隊の槍に至つては，穂先の上で
小さな火花が忙しさうに踊つてゐる。
餘り化物じみてゐると思ふ。

ファウスト

失禮ですが，お上，あれは亡びた
靈的存在物の名殘です，
あらゆる航海者が祈念を凝らす，
ディオスクーレンの神達の火です。
此處に今最後の靈驗を見せるでせう。

皇　帝

だが聞かせてくれ，我我を目がけて，
自然が最も稀有な事を仕出來すのは，
一體誰のお蔭に由るのか。

メフィストーフェレス

お上の運勢を胸にたたんでおく，
あの氣高い先生でなくて誰でせう。
敵の手濁い迫害を見て，
深くも先生は憤つてゐられる。
たとへ我身は滅びても，
謝恩の心でお上を助けようといふのです。

皇　帝

いつか人民が歡呼して，仰仰しく身共を引廻した事がある。
其時身共は偉さを驗してやらうと思つて，
深くも考へず，これ幸ひと，
あの白鬚に涼しい風を送つたのだ。
すると坊主共は，折角の樂しみをつぶされたので，
無論身共に好意を示さなかつた。
それが，幾年も經つた今となつて，
嬉しがつて爲た行ひの報いに出逢ふのだな。

ファウスト

眞心でした善行には，立派な利得があります。
どうぞお眼を上の方にお向け下さい。
先生が何かの前徴を送ると見えます。
御注意を願ひます，すぐに現はれますから。

皇　帝

鷲が一羽空高く舞うてゐる，
それをグライフ鳥が烈しい勢で追ひかける。

ファウスト

御注意を。至極の吉兆と思はれます。
グライフなど云ふのは，架空譚に出て來る鳥ですが，
其が身の程も打忘れて，

本物の鷲と力を比べられませうか。

皇　帝

今の中は廣い圈をかいて，雙方で　10:30
遠巻きをしてゐる。——おやと云ふ間に，
お互ひに飛びかかつて，
胸や頸を引裂かうとする。

ファウスト

御覽なさい，呪はしいグライフ鳥は，
毛を拔かれ，引裂かれ，傷だらけになつて，　10:35
獅子の尾をだらりと垂れたまま，
頂上の森へ逃げて，姿を消しました。

皇　帝

お前の判斷通りになつたらしい。
不思議とは思ふが，納得は出來る。

メフィストーフェレス（右手を向いて）

烈しい突擊を繰返したので，　10:40
敵はとうとう退却を餘儀なくされます，
まだ怪し氣な戰鬪を續けながら，
右の方へなだれかかつて行くが，
其結果，主力の左翼が
戰爭中に混亂を起こしてゐます。　10:45
我密集方陣の堅固な先頭は，
右に向きを變へて，電光の如く，
敵陣の弱點に食ひ入ります。——
そこで敵味方，いづれ劣らぬ軍勢が，
嵐に競ひ立つ大波のやうに，　10:50
日頃に倍して，火花を散らして狂ひ廻ります。
これより壯んな戰は考へられません，

此戰爭は味方の勝利ですよ。

皇　帝（左側でファウストに對ひ）

あれを見るが好い。あそこが身共には心配だ，
我軍の持場が危險のやうだ。　10:55
石の飛ぶのも眼には見えない，
敵は低い岩に登つて來て，
味方は上の岩を棄てて仕舞つた。
そら今だ。——敵は密集隊となつて，
だんだん近く押寄せる，　10:60
事によつたら，あの隘路を取つたかも知れない，
神聖でない努力の結果はこれだ。
お前達の奇術は無駄であるぞ。

（間）

メフィストーフェレス

やあ，私の二羽の鴉が來ましたよ，
どんな知らせを持つて來たのだらう。　10:65
惡い使ではないか知らん。

皇　帝

あの呪はしい鳥が何をする積りか。
岩山の上の烈しい戰の中から，
黑い帆がこちらを指して來る。

メフィストーフェレス（鴉共に對ひ）

私の耳の近くへ來て止まつてくれ。　10:70
お前達に保護される者は滅びはしない，
お前達の忠告は合理的だから。

ファウスト（皇帝に對ひ）

鳩の事をお聞きになつたでせう，
遠い國から出て來て，

餌や鑓のゐる巣へ歸へるといふ事でをす。
此處が重大な差別のある所で，
鳩の使が平和に奉仕すれば，
戰爭は鴉の使に命令するのです。

メフィストーフェレス

これは容易ならん否運を知らせて來ました，
御覽なさい，あの岩の端で
我勇士達が苦しんでゐます。
近くにある高地は，もう敵が登りました，
若し敵があの隘路を占領でもすると，
我軍の立場は由由しい事になります。

皇　帝

とうとう身共は騙されたな。
お前達は，身共を網の中へ引入れたのだ，
絲が絡みつくので氣味が惡い。

メフィストーフェレス

勇氣をお出しなさい。まだ敗れてはゐません。
忍耐と頓智は，最後の難關まで必要です。
終局に近づくと激しくなるのが常です。
私は確かな使者を持つてゐますから，
私が命令してもよいと御命令なさい。

元　帥（其間に歩いて來る）

此人達と事を共にせられたのが，
私は今の今迄苦に病んでゐたのです，
まやかしではしつかりした幸福が得られないから。
此戰爭は，もう狀況を一變する事は出來ません，
事を始めた者が跡の仕末をつけるでせう，
私はもう指揮杖を返納致します。

皇　帝

我我に好運をさづける日があるかも知れないから，
其時まで指揮杖を手許に置くが好い。
あの呪はしい報告や，鴉相手など，
瀉氣味が惡い。

（メフィストーフェレスに對ひ）

指揮杖はお前に授ける譯に行かない，
どうもお前は適任者でないらしい，
命令ならしても好いから，どうにか救うてくれ。
成るやうにしか成らないだらうが。

（元帥と共に天幕へ入る）

メフィストーフェレス

あの鈍い棒切れで體を護らせるが好からうさ。
私達にはあまり役にも立つまいて，
なんとなく十字架臭いからな。

ファウスト

どう爲するのだ。

メフィストーフェレス

なに，もう爲てあります。——
これ，黑い從弟共，急な用事がある，
山の大きな湖へ行くのだ。私からウンディーネ達に
宜しくと云つて，水の幻影を頼んでくれ。
容易には知り難い女一流の手品で，
あれらは實體と幻影を分ける事を知つてゐる，
其癖誰でも幻影を實體と思ひ込むのだ。

（間）

ファウスト

鴉のやつ共，心の底から，みづの少女達に

お世辭を云つたに違ひない，
あそこへもう水がさらさらと流れ始める。
水氣も草木もないあちこちの岩の上に，
水量の豐かな泉が湧いて奔り出す，
敵の奴原，勝利がふいになつた。

メフィストーフェレス

不思議な挨拶を貰つた譯ですから，
大膽極まる岩登りも，手の出し樣がないでせう。

ファウスト

唯一本の小川が何本かになつて，烈しく流れ落ちて，
峽の中から水量を倍にして出て來る，
一本の流は瀧となつて，弓の形に落ちる，
忽ち幅の廣い平な岩の上を這うて，
四方八方へ飛沫を飛ばしながら流れて，
段段の形になつて，谷の方へ落ちて行く。
勇士らしく，抵抗しても仕方があるまい。
大波はみんな押流す勢だからな。
これ程ひどい激流になると，俺でさへ身の毛がよだつ。

メフィストーフェレス

私には水のまやかしなど少しも見えません，
人間の眼だけがだまされてゐるのです，
どうも此不思議の一件は，たまらなく面白い。
敵は密集して逃出したぞ，
馬鹿な奴もあるもので，溺死すると思つてゐる，
安穩な陸にゐながら息苦しさうにして，
泳ぎの身振でかけて行くから滑稽だ。
もう混亂はすべてに及んで來た。

鴉が再び來る。

お前達の事は，あの氣高い先生の所で褒めよう。
所で，今お前達が先生になつて力を驗したいなら，
急いで，火を燃やしてゐる鍛冶屋へ行つてくれ，
あそこは，侏儒のやつ共が疲れる事なしに，
鑛や石を打つて，火花を散らしてゐる。
隨分廻りくどい話で烟に卷いて，
俗物共が偉らさうに消さずに置く，
光つて，輝いて，はじける火をねだつて來い。
遙か遠方に見える稻妻や，
瞬くひまに落ちる高い空の星などは，
夏の夜なら毎晩出會はす事も出來よう。
併し，八重葺になつた木立の中での稻妻や，
濕つた土にあたつてしゆつと云ふ星などは，
造作もなく見られるものでない。
それでお前達，ひどく厄介がらないでも好いが，
始めは賴んで見て，あとでは命令するのだ。

（鴉，去る。指圖の通り事が運ぶ）

メフィストーフェレス

敵はお先きまつ暗だ。
一歩毎に覺束ない。
どちら向いても鬼火が見える，
突然眼を眩ます物が輝く，
それはみんな素敵に好い，
だが，此上何か無氣味な響が要るかな。

ファウスト

あの庫の穴から出て來た空つぽの甲冑が，
外氣にあたつて強くなつた樣に感じたのか，
あの高い處で，疾うから，ばたん，かたんと

奇怪な音を出してゐる。

メフィストーフェレス

其通りです。もう制(と)める事は出來ません，
ありがたい，昔の時代になつたやうに，
騎士打をする音が響いて來るのです。　10770
腕當も，脛當も，
ゲエルフェン黨になり，ギベリーン黨になつて，
永遠の爭ひを新たにするのです。
遺傳せられた習慣を堅く守つて，
宥和しがたい態度を取つてゐます，　10775
もう騷ぎが四方に聞えます。
惡魔の催す祝祭の常ですが，最後は，
黨派の憎みが一番效き目があつて，
これが，斷末魔に至る迄續くのです。
時には又，いやな氣持で，恐慌を起こす樣に，　10780
惡魔らしく，鋭く，烈しく脅威的に，
谷へと物音を響かす事もあります。

（管絃樂は戰爭の喧騷を奏してゐたが，後には快活な軍樂の曲節を奏する）

僞帝の天幕

玉座，豐麗な周圍の飾。
すぐとり。はやつかみ。

はやつかみ

矢つ張わたし達が一番早かつたわ。

すぐとり

鴉だつてこんなに早く飛べやしない。

はやつかみ

あらまあ，見事な物がどつさりあるのね。　10785
何處から取り始めて，何處を後にしようか知ら。

すぐとり

いやどうも幕の中一杯といふのだな。
何處から手を着けて好いか，私も知らない。

はやつかみ

此數物が丁度好ささうだわ，
私の寢床は時時ひど過ぎるんだもの。　10790

すぐとり

鋼で作つた明の明星が此處に懸かつてゐる，
私は前からかういふのが欲しかつた。

はやつかみ

裾に金絲を縫つた眞紅なマントがあるわ，
わたし，こんなのがどんなに欲しかつたらう。

すぐとり　（武器をとりつつ）

こついがあればしめたもんだ，　10795
人をぶち殺して，先へ進むからな。
お前はもう可なり澤山くすねたが，
其癖目ぼしい物は一つも取込んでない。
そんな屑物なんかそこに置いて，
此箱を一つ持出すのだ。　10800
これは軍隊にわたす給料で，
中には金貨ばかり這入つてゐる。

はやつかみ

まあ，なんて重いんだらう，
持上げる事も，かつぐ事も出來やしない。

すぐとり

早く屈んでくれ。しやがんでくれ。
逞しげな背中へしよはせてやるから。

はやつかみ

痛い，痛い。私にはだめだわ。
腰骨がくだけさうな荷物だもの。

（箱はすべり落ちて蓋があく）

ずぐとり

そら金貨が山のやうだ，
早く拾ふのだよ。

はやつかみ（しやがむ）

さあ，早く此前掛に入れておくれ。
これだけあれば十分だわ。

ずぐとり

それで十分だ，急ぐのだよ。

（女は立上がる）

仕樣がないな，前掛に穴があるぢやないか。
歩いて行く所でも，立つてゐる所でも，
金貨を種蒔きするとは勿體ない。

護衛兵等（我我の皇帝の）

此神聖な場所で何をしてゐる。
御内帑金を探して何をする氣だ。

すぐとり

我我の四肢五體はこれでも賣物だぜ，
だから分捕の割前を手に入れるのさ。
敵の天幕でなら，これは習慣だ，
我我もこれで軍人だからな。

護衛兵等

そんな事は我我の連中にふさはしくない，

軍人と泥棒を一身に兼ねるなんて。
我我の皇帝にお味方する者は，
正直な軍人たるべしだ。

すぐとり

正直か，其は先刻御承知だ，
つまり微發と來るやつさ。
君達だつて同じ關係だらう，
よこせと云ふのが職業上の挨拶だ。

（はやつかみに對ひ）

行くのだ，持物は引きずつて行け，
此處で我我は歡迎されるお客ぢやない。（去る）

護衛兵第一

あの生意氣な野郎の頬つぺたを，
なぜすぐ張り飛ばしてやらんのか。

護衛兵第二

どうしたのかおれは氣拔けがしたよ，
いやに化物じみてゐたからな。

護衛兵第三

おれは眼の前がへんてこになつて，
ちらちらして，よく見えなかつた。

護衛兵第四

何とも云つて見やうがないよ，
一日中暑くて，何だか不安になつて，
息苦しい程蒸暑かつた，
立つてゐるやつもあり，倒れるやつもある，
手探りをしながら切込んで行けば，
相手は一太刀毎に倒れる，
眼の前には靄のやうな物が棚引いて，

耳の中でもんもん，ざわざわ，しうしうと鳴つてゐる。
絶えずそんな風で，果ては此處迄來たが，
何事があつたのか，自分達は知らない。

皇帝と四人の諸侯登場。

（護衛兵等去る）

皇　帝

何がどうなつたにせよ，戰には勝つたのだ，
逃げ散る敵は野末に落ち延びる。
此處には空いた玉座が殘り，裏切りの寶物は
敷物に包まれて，周圍の場所を狹めてゐる。
身共はおごそかに味方の護衛兵に衞られ，
四方の民が發した使者を，王者として待受ける。
あらゆる方面から喜ばしい便りが來て，
國土は鎭り，民は恭順したと傳へる。
たとへ，今度の戰爭には妖術が編込まれたとはいへ，
結局，身共が躬を以て戰つたのだ。
偶然の事情が軍人を利益した事はいくらもある，
空から石が落ちる，敵には血の雨が降る，
味方の士氣を勵まし，敵の士氣を挫く
不思議な物の音が，岩の洞窟から響いた事もある。
敗れた者は倒れて，常に繰返される侮辱を受け，
勝つた者は榮えて，神の好意をたたへる。
國民和合して，命令の必要なく，
幾百萬人が衆口一致して「神よ，爾をたたへん」と叫ぶ。
さりながら身共は，敬虔な一瞥を此胸に拂ひ，
今迄は怠つてゐたが，此處に最高の價値を見附ける。
若い，機嫌の好い君主は，其日を空にも送らうが，
年が重なつては，瞬間毎の意味を學ぶ。

かるが故に，身共は遲滯なく，お前達四人の大官と，
內廷，外廷及び國家の爲に圖るのだ。

（第一の臣下に對ひ）

軍隊の配置を巧妙にしたのは，公爵，お前の功だ，
次に，適當な機會に，勇士的の處置をしたのもお前だ。
今後は平和の時代が要求する働きをしてくれ，
卽ちお前を式部卿に任じて，此刀を授けよう。

式部卿

平生國內にいそしんでゐる軍隊が，
お上と玉座を安ずる爲に，國境を守るからには，
祝祭の日に，御先祖以來の廣いお城の廣間で，
召上がる物を準備致すお許しを願ひます。
淸潔にして差上げ，淸潔にしてかしづき，
御稜威輝く君側を永く離れません。

皇　帝（第二の臣下に對ひ）

勇士でありながら，溫良な，悠雅な
お前を侍從長にしよう。此委托は輕輕しくはない。
お前は宮中の役員全體の長官だ，內部が
もめては，身共が惡い役員を持つ事になる。
今後お前は，主君にも，宮廷の誰にも氣に入る樣に，
身を以て役員全體の模範となつてくれ。

侍從長

我君の遠大なお志に適つて寵遇を得まするには，
善人に助けを與へ，惡人をも害する事なく，
公明で權謀を弄せず，沈毅で詐謀を用ひない事でございます。
私は只心底を看破つて頂けば，それで滿足致します。
祝祭の日へと空想を馳せても宜しいでせうか。
お上が食卓へお出でになれば，私は金の盃に

ついてゐる環を持つてゐまして，宴の最中
お手をお洗ひになる時，喜んで玉顔を拜します。

皇　帝

身共は今價面目に感じてゐるから，祝祭の事は考へない，
併し其も宜しからう。愉快に仕事が出來るから。

（第三の臣下に對ひ）

お前を大膳頭に任ずる。それで今後は，
狩獵，鳥小屋，菜園に關する事を司るのだ。
其月月に出來る食料の中で，好物を選ぶのは，
いつも身共に任せて置いて，料理を鄭重にしてくれ。

大膳頭

獻上した美味を喜んで召上がる迄
斷食いたすのが，私の愉快な義務で御座います。
國の職員が私と力を協せ，心を一にして，
遠方の物を取寄せたり，季節（しゅん）を早めたりしませう。
食卓の見榮（みえ）に過ぎない走りの物や，遠方の物はお喜びなさらず，
質素で滋養のある御料をお望みとは存じますが。

皇　帝（第四の臣下に對ひ）

祝祭の話は，ここでは遺ける事が出來ないから，
それで若年の勇士のお前を國掌長にしてやる。
此役目を仰せ付かる以上は，いつも地下室には
結構な酒が豐富に貯へてあるやうに致せ。
だがお前自身は酒を節して，機會（はづみ）などに
誘惑されて，羽目をはづしては相成らん。

國掌長

若い者でも，お上の御信任を受けますと，
割目する間に一人前の男に就（た）つてゐます。
私もあの大祝祭の中へ身を置き代へませう。

宮殿の食卓は，金銀の燦然たる盃で，
此上なく立派に飾り立てますが，
一番見事な高脚杯は，お上の爲に選んで置きます，
エネーディヒ製の光る硝子です，中には樂しみが待伏せて，
酒の味を強くするが，決して醉はせません。
斯のやうな寶物に依賴するは，世間に有り勝の事で，
お上の節制の美德こそ，更に身を護るので御座います。

皇　帝

此重大な時に，お前達に聞かせようと思つた事は，
信ずべき口から，信用を以て聞いてくれたらう。
帝王の言葉は重くて，授けた物に間違ひはない，
併し其を證明するには，大切な書類が必要だ，
署名が必要だ。方式に適まるやうにするには，
いや，丁度好い時に，丁度好い人が見えた。

大僧正兼大宰相登場。[1]

皇　帝

圓天井の重きを以てして要石に恃む所あれば，
永遠に崩壞する事はない。
そこにゐる四人の諸侯を見るが好い。差迫つて，
內廷，外廷の永續に必要な事を今話してゐた。
國家全體の保護に關しては，
お前達五人の者に，強（つよ）く，重く申しつけて置く。
お前達の領分は，他の領分より美事にして置きたい，
それだから今すぐに，身共に叛いた者の地所を
取上げ，お前達の所領の境界を廣めてやる。
お前達忠義の面面には，結構な土地を可なり授けるが，
同時に又讓受，買入，交換の機會ある毎に

1　マインツの大僧正は，同時に帝國の大宰相である。

其を廣めて行く大權をも與へる。
それから，領主としてのお前達に屬する諸諸の特權は，
澁滯なく行使する事を明白（かつぱり）と許して置く。
裁判官としては最終審判を下しても好い，
控訴をさせる事は，お前達の最高の地位にあて嵌らない。
それから，賦金，利子，獻上物，借地料，護送料，關稅から，
鑛山，鹽，貨幣鑄造の特權までも皆授ける。
何故と云ふに，心ゆくまで身共の謝恩を驗（ため）さうと，
帝位のすぐ次にまで，お前達を引上げたのだから。

大僧正

五人を代表して，深厚なるお禮を申します，
私共を強く固くなさると，御威光まで強まります。

皇　帝

一層重大な要務を，お前達五人の者に初みたい。
身共は今國の爲に生きてゐる，今後も生きてゐたい。
併し，累代祖先の鎖は，此思慮深き眼を，
滿腹の野心から畏れても畏るべきものへ呼戻す。
いづれ身共も親しい人人と別れるであらうが，
其時，身共の後嗣を選ぶのがお前達の義務だ。
王冠を載かせて，神聖な祭壇に上らせ，
騷騷しかつた今の世を平和にまとめてくれ。

大宰相

胸の奥には誇りを抱き，顏色には謙遜を示して，
地上最高の臣下なる諸侯が平伏してゐます。
忠義の熱血が張り切つた脈に流れてゐる限り，
私共は，お上の意思が動かす一の體でございます。

皇　帝

終に臨んで云ふが，それでは，今迄致した事は，

後日の爲，文書にして署名してやらう。
お前達は所有物を自由にするは好いが，
併し不可分と云ふ條件があるのだ。
そして身共の授けたものをいか程ふやさうとも，
そつくりお前達の長男に傳へるが然るべきだ。

大宰相

國家の福祉，又私共の福祉の爲，重要な條令を，
欣然として，早速羊皮紙に記錄致しませう。
淨書乃至封印の事は官房に致させます，
お上，御親署をどうぞお願ひします。

皇　帝

それでは，今日の重大な日を銘銘篤と
熟考するやう，一同に暇を取らせる。

（世俗的の諸侯去る）

大僧正

（居殘つて，重重しげに語る）

大宰相は去りましたが，大僧正は殘りました，
お上のお耳に諫（いさめ）を致したい至情に驅られたのです。
父のやうな心が，氣遣ひの爲に不安なのでございます。

皇　帝

歡ばしい此日に，何の心懸かりがあるのか。語れ。

大僧正

神聖なお上のお頭（つむり）が，かういふ日に，惡魔と
御一味なさつてゐるのが，何とも苦痛に堪へません。
打見た所，無論帝位は安全なやうでありますが，
悲しいかな，主たる神，父たる法王を嘲つたものです。
若し法王が聞かれたら，神聖な威光で，速に
此罪障ある國を罰して，滅ぼしなされませう。

法王はまだお忘れになりません，お上が戴冠式の日に，
危い瀕戸際の魔術師をお助けになつた事を。
大赦の最初の光が寶冠から出ると，呪はれ人の
頭に落ちたが，これがクリスト教世界を害しました。
胸とも談合とやら，願くば不義の幸福の
程好き一分を，速に法王へお返し下さいまし。
あの廣い丘陵は，お上の天幕が張つてあつて，
悪靈共がお味方をいたした時，お上が
僞大名の言葉に耳を傾けられた處ですが，
あれを敬虔な心で，罪滅ぼしのため，御寄附なさいまし。
山や，茂つた森も，其廣がつてゐる限り，
綠に肥えた牧場の高地も，
魚の多い，清らかな湖も，うねりながら急いで，
谷に流れ込む無數の小川も，
あの廣い平地や，牧場や，野原や，谷底もです，
後悔のお心が現はれて，お赦しを得られませう。

皇　帝

身共の重大な過失で，深く恐縮してゐる，
寄附する土地の境界は，お前の一存できめてくれ。

大僧正

先づ第一に，あの罪惡が行はれた呪の場所を，
速に，神への勤行の地にすると，布告して下さい。
もう心に浮びます，厚い石壁が速に聳え，
朝日の光が合唱班の席をてらし，
建てそへられる建物は十字架の形に廣がり，
本堂は延びて高まつて，信者達の歡びとなり，
其熱心な信者達は嚴かな門から流れ入り，
天に聳える鐘樓から響き渡る

第一の鐘の聲は，山や谷になりどよもして，
懺悔の人が再生の利益を慕うて寄り集ります。
盛んな獻堂式には，成るべく早く逢ひたいが，
車駕の親臨が最上の光榮となりませう。

皇　帝

いかにもそんな大工事をしたら，神を稱へ，罪を滅ぼす
敬虔な精神を告げ知らせる事が出來よう。
もう澤山。身共の心の高まるのが感ぜられる。

大僧正

宰相として，御決裁と公文書をお願ひ致します。

皇　帝

寺院に寄附する旨の法式に適つた文書を，
お前から出して貰はう，身共が喜んで署名する。

大僧正

（暇請して立去つたが，入口の所でふり返る）
それから，いよいよ出來上がります寺院には，
すべての租税，例へば十分一税，利子，獻納金などの御免除を
永遠に願ひます。品位を保つ樣に維持するにも，
周到なる用意で經營するにも，莫大な費用が掛ります。
あのやうな荒蕪地へ急いで工事をするには，
分捕の寶の中から，いくらかお渡し下さいまし。
それに，此も申上げずには置かれませんが，
遠方にある材木，石灰，石板なども使用致します。
運ぶ事は，說教致せば人民が負擔します。
奉仕の爲に運ぶ者を，寺院は祝福しますので。（退場）

皇　帝

身共の負うた罪はなかなか重大だ，
あの獸な魔術師めが身共にひどい損害を與へた。

大僧正

（再び歸つて來て丁寧に敬禮しながら）

御免下さいまし。あの評判の惡い男に，國中の　11030
海岸をお授けになりましたが，海岸でも矢張り，
十分一稅，利子，獻納金，割賦などを後悔の徵に
寺院へ御寄附なさらないと，あの男に罰が當ります。

皇帝（腹立たしげに）

いや，あれは土地があるのではない，まだ海の底だ。

大僧正

權利と忍耐を持つて居りますと，時といふものが參ります。　11040
お上のお言葉は，效力のあるものと致して置きませう。（退場）

皇帝（ただ一人）

此分では，國全體を棒に振らねばなるまいて。

第五幕

廣豁な土地

旅人

さうだ，あれだ，あの老いて
力のある，こんもりした菩提樹だ。
こんなに長い旅路のあとで，　11045
又あの木を見るのだなあ。
嵐に狂うた波が，
私をあの沙丘へ打上げた時，
私を泊めてくれたのはあの小舍だ，
ほんとに昔ながらの場所なのだ。　11050
あの主人は，私は祝福してやりたい，
人を助ける事の好きな，殊勝な夫婦だつた，
あの時も可なり年寄であつたから，
今日めぐり會ふ事は出來ないだらう。
ほんとに，信仰の篤い人達だつた。　11055
戸を叩かうか，呼んでみようか。——もしもし，
今も矢つ張客好きで，善行の餘德を
享けてお出でなら，私の挨拶を受けて下さい。

老婦人バウツィス[1]

（非常に老いてゐる）

あのお客樣。どうぞお靜かに願ひます。
お爺さんを休ませて置いて下さい。　11060

1 バウツイス及びフイレーモンと云ふ名は，オーヰツドの變形論から採用したもの。

長く眠ると，年寄は，一寸覺めてゐる間に，
さつさと仕事が出來ますから。

旅　人

お婆さん，あなたですか，
お禮はまだ申上げなかつたが，
いつか，お連れ合と一所に，　11068
青年の命を助けていただいたのは。
半分死んでゐた私の口に，甲斐甲斐しく
物を食べさせて下さつたバウツィスさんは貴方ですか。

老人登場。

力を盡して，私の財寶を波の間から
取出して下さつたフィレーモンさんは貴方ですか。　11070
さつさと燃え出した焚火の光と，
銀のやうに鳴る鐘の音に，
あの恐ろしかつた災難の
解決が委ねられてあつたのです。

それで，もう一度私に，外へ出て行つて，　11075
限りも知らぬ海を眺めさせて下さい。
跪かせて下さい，祈らせて下さい，
私の胸は壓しつけられるやうに一杯です。

（沙丘の上へ進んで行く）

老人フィレーモン（バウツィスに對ひ）

樂しげに花の咲いてゐる庭の方で，
食卓の用意を急いでおくれ。　11080
客人は走るまま，驚くままにして置かう，
眼で見る物が信ぜられないのだから。

（旅人と並んで立ちながら）

寄返す波がひどく飛沫（しぶき）を立てて，
貴方を怖ろしい目に逢はせた海が，
花園のやうになつてゐるのを御覽でせう，　11085
天國のやうな姿になつてゐるのを御覽でせう，
私も寄る年波で，昔のやうに，おいと云つたら，
すぐ人を助けることは出來ませんが，
私の氣力が弱るにつれて，
波ももう遠くの方へ引いて行きました。　11090
賢いお大名の大贈な家來達が，
溝を掘つたり，堤防を築いたりして，
海の權力を縮めて，
代りの主人公にならうとしてゐられます。
綠に連なる牧場と牧場や，農場や，　11095
花園や，村や，森などを御覽なさい。——
それはさうと，あちらで何か召上がつて下さい，
まもなく日が入つて仕舞ひますから。——
あそこの，ずつと遠方に帆が動いてゐませう。
夜の安全な港を搜してゐるのです。　11100
鳥でも巣は知つてゐると云ひますから，
今あそこに出來た港があるのも其爲でせう。
それで，あの遙かな處に，やつと
海の青い縁が見えるのでございます，
右も左も，此邊一帶が，　11105
賑やかに人の住む場所となりました。

（庭で三人食卓に就く）

バウツィス

貴方は默つてお出でですね，それにお腹（たか）が
減つたでせうのに，一口も召上がりませんか。

フィレーモン

此方(かた)は例の不思議な一件を知りたいと仰つしやる，
お前は話が好きだ，話してお上げ。 11110

バウツィス

本當ですよ，不思議には違ひないのです。
今でも私，落ちついて居れません。
だつて，一部始終が，そつくり，
ろくな事でございませんもの。

フィレーモン

海岸をお授けなされた皇帝が， 11115
どうして罪を犯されやう。
其事なら，先觸れの一人が鳴物を鳴らして，
通りながらふれて歩いたではないか。
此沙丘から遠くない所で，一番先に
工事に着手したのでございます， 11120
天幕や小舍がありましたが，——やがて
綠の木の葉隱れに，御殿が建てられました。

バウツィス

日中は御家來達が，鍬や鍬だとがやがや
無益に騷いで居られますが，
夜になつて火が澤山燃えますと， 11125
翌日そこには，ちやんと堤防が出來てゐました。
犧牲になつた人間が血を流したと見えまして，
夜になると，泣き苦しむ聲が聞えます，
燃える火が海の方へ流れますと，
朝はもう海になつてゐました。 11130
神をも忘れた御主人で，私共の小舍も，
林も，欲しくて仕樣がないのです。

お隣で威張つてばかり居られますが，
私達はへいへい致す外はございません。

フィレーモン

だが，其代り，新開地の方で，立派な土地を 11135
やらうと仰つしやつたのだよ。

バウツィス

あんな海の跡など，あてにしてはいけません，
此高みの土地をしつかり持つてゐませうよ。

フィレーモン

さあ，みんなで禮拜堂へ行つて，
夕日の最後の色を見ませう。 11140
そして鐘を鳴らして，跪いて，お祈を捧げて，
昔ながらの神樣にお賴(よた)り申しませう。

宮　殿

廣い遊園。大きな眞直な運河。

非常に高齡のファウスト，歩みつつ沈思する。

望樓守リュンコイス（傳話筒を用ゐる）

日は沈みかける，後になつた船が，
いそいそと港の中に這入つて行く。
大きな平底船が一隻， 11145
こちらの運河へ來かけてゐる。
色取取の船旗が氣持よく風に吹かれて，
丈夫な帆檣はいつでも用意を整へて立つてゐる，
お前に乘つてゐる船頭はありがたがつてゐるだらう，
幸福がお前を迎へる，大切な時だから。 11150

（沙丘で鐘の音がする）

ファウスト（驚く）

呪つても足りない鐘の音だ。出し抜けに射る
矢のやうに，不面目にも俺を傷つける。
眼前には，限りもなく俺の領土があるのに，
背後(うしろ)の方では，憂愁が俺をからかふのだ，
嫉妬の聲が俺に思ひ出させる事がある，　11155
「俺の堂堂たる領地は清淨ではない，
あの菩提樹の林，あの褐色の家，
あの朽ちかけた禮拜堂は，俺のものではない。」
鬱を晴らしにあそこへ行かうと思へば，
何とも見知らない影に俺はぞつとする，　11160
眼の中の刺，足のうらの刺だ，
ああ，こんな所を遠く離れて居れまい事か。

望樓守（以前と同じく）

あの彩色した船が，清い夕風に
帆を上げて，なんと樂しげに近づくではないか。
船足も早く，大箱，小箱，囊なんどを，　11165
なんと堆く積んで持つて來るではないか。

外國の物產を豐富に色美しく積んだ派手やかな船。

メフィストーフェレス。三人の力强き者。

合唱群

さあ，上陸だ，
さあ，もう着いた。
幸(さち)は我主に，
我保護者に。　11170

（船を下りて，貨物を陸に運ぶ）

メフィストーフェレス

これでいよいよ實力も試驗ずみだ，

保護者が褒めれば，滿足しよう。
たつた二隻の船で出掛けて，
二十隻にして港へついた。
えらい仕事をした事は，　11175
積んだ荷物を見れば分る。
自由な海は精神を解放する，
考へ事なぞ，誰がするもんか。
なんでも手早く攫むが好い，
魚も捕れば，船も捕る，　11180
船三隻の主人にもなれば，
四隻目は鈎で引寄せる。
五隻目も運の盡きだ，
暴力がある所に正義がある。
「如何に」を問うて，「何を」は問はない。　11185
海軍と，貿易と，海賊は，
不可分の三位一體でないなら，
私(わし)は航海業のうぶなのだ。

三人の力强き者

禮もなければ，會釋もない。
會釋もなければ，禮もない。　11190
主人に臭い物を
持つて來たやうだ。
主人は不快な
顏をする。　11195
王樣達の寶でも
主人の氣に入るまい。

メフィストーフェレス

此上褒美は

あてにするなよ，
お前達の分け前は，
もう取つたぢやないか。 11200

力強き者

あれはただ，ちよいと
退屈凌ぎのまぢなひだ，
分け前の事なら，
平等にして頂きたい。

メフィストーフェレス

何より先に，上の 11205
廣間廣間へ，
寶の數數を
並べてくれ。
主人がお出でになつて，
豐富な品物を， 11210
一々精しく
檢分なさるが，
くすねるなんぞは，
決しておさせにならない，
それから船員達に， 11215
次から次へと宴會がある。
色の綺麗な鳥は明日來る，
其を世話するのは私の手際だ。

（積荷を運ぶ）

メフィストーフェレス（ファウストに對ひ）

苦苦しい顏して，陰氣な眼付をして，
貴方は大へんな幸福の話を聞いてお出でですね， 11224
高遠な智慮が完成して，

岸と海との和睦が出來ました。
岸から出る船を海は進んで
受取ると，船脚も早くなります。
ここの此宮殿から，貴方の手で 11225
全世界を抱いてゐると仰つしやつても好いのです。
此場所から工事は出發したので，
ここに初めての小屋を掛けたのです。
土を掘つて罐にした所は，
今は橈がせつせと水を切つてゐます。 11230
貴方の高尚な智見と，家來達の勤勉が，
水と土の利益を獲得したのです。
此處から始めて——

ファウスト

その此處が呪はれてゐるのだ。
それがたまらなく俺を苦しめる。
如才の無いお前に云つて置くが， 11235
俺の胸をちくりちくりと刺して，
もう堪へる事が出來なくなつた。
口に出すのは，どうも恥しい次第だ。
あの高みにゐる老人夫婦を立退かせて，
菩提樹を俺の棲家としたいのだ。 11240
俺の物でないあの二三本の木が，
世界を手に入れてゐる俺を惱ますのだ。
あそこで俺は，廣く周圍を見渡す爲に，
枝から枝へと足場を作らせたい，
視線を遠くまで放てるやうにして， 11245
俺のした事をすべて見渡し，
統治を賢明にして，人民共に

住み好い場所と安心させながら，
人間精神の生み出した此大業を，
一目で眺め渡したいのだ。 11250

富んでゐながら缺乏を感ずるのは，
これ以上のつらい苦は無い。
あの鐘の響，菩提樹の匂は，
寺か墓の中へ俺を連れて行くやうだ。
強い意思の選擇力も， 11255
あの沙の所で破れてしまふ。
どうしたら平氣で居られようか。
鐘が鳴ると俺は狂ひさうだ。

メフィストーフェレス

御尤もです，其程大きな心配があれば，
人生が苦苦(にがにが)しくなるのは當り前です。 11260
誰が打消しませう。どんな上品な耳にも，
あの鐘の破れ聲はいやに聞えるのです。
呪つても足りないビム，バウム，ビムメルが，
折角晴れた夕空を曇らせながら，
洗禮を受ける時からお葬式(とむらひ)までの， 11265
あらゆる出來事に交つて來ます，
人生といふものが，ビムとバウムの間の，
消え果てた夢か何ぞのやうにです。

ファウスト

兎角，反抗心と頑冥(かたくな)といふものが，
素晴らしい限りの成功もいぢけさせる， 11270
餘りに深刻な，怖ろしい苦痛の中にゐると，
正義を以て任ずる心も疲れずには居れない。

メフィストーフェレス

此處では何の遠慮がいりませう，
疾くに新開地へ移して好かつたのです。

ファウスト

では，お前行つて，あれを脇へ移してくれ。—— 11275
お前も知つてゐる通り，あの結構な土地は，
俺が老人の爲に選んで置いたのだ。

メフィストーフェレス

一寸擔いで行つて下に置きさへすれば，
振り向くひまに起き上がつてゐるもんです。
暴力を受けた後でも， 11280
結構な住ひを貰つて腹は立てませんよ。

（耳を劈くやうに口笛を吹く）

三人の者登場。

メフィストーフェレス

やつて來い。御主人の言ひ付けがある，
そして明日は船員の宴會がある。

三人の者

老公は隨分手薄にもてなされました，
御馳走を振舞ふ位當り前です。 11285

（退場）

メフィストーフェレス（見物に對ひ）

ここでも，前にあつた事が又あるのですね，
ナーボットの葡萄畑といふのが昔ありましたよ。

（列王紀上第二十一章）

深い夜

望樓守リュンコイス

（城の物見の上で歌ふ）

物見にと生れ來し我，
物を見よと仰せつかりて，
塔に身を誓ひてあれば，　11300
げに面白き世界かな。
我，遠を望み，
我，近に見る，
月影と星を，
さをしかと森を。　11305
よろづの物の中に
永遠の飾をぞ見る，
よろづ皆，我の氣に入る如く。
我もまた我の氣に入る。
なんぢ，幸ある我眼よ，　11310
なんぢがかつて見たるもの，
そはたとへ何物なりとも，
げに美しからぬはなし。

（間）

併し，私は自分の樂しみの爲にばかり，
こんな高い所へ置かれたのではない。　11315
何といふ氣味の惡い恐怖が，
あの眞暗な世界から私を襲ふのだ。
二倍も暗い菩提樹の奥から，
火の子が迸り出るのが見える，
吹く風にあふられて，　11320
火焔は段段強くなつて來る。
あつ，あの若の蒸した，濕濕してゐた，

林の中の小舍が燃え上がる，
早く助けなくてはなるまいが，
どんな救助もやつて來ない。　11325
ああ，あの親切な老人夫婦は，
日頃火の元を用心してゐたが，
みすみす烟の餌食になつてしまふ。
なんと云ふ怖ろしい禍だらう。
焔が燃え上がると，黑い苔の屋根が　11330
火の中に眞赤に立つてゐる。
あの烈しく燃える地獄の中から，
親切者の老人が助かればよいが。
木の葉の間にも，枝の間にも，
明るい火が舌のやうに立騰る。　11335
乾からびた枝がぱちぱち燃え出すと，
すぐに燒けて落ちてしまふ。
此眼にあれを見定めろと云ふのか。
私は遠目が利かなければならないのか。
木枝が落ちると，其重さで，　11340
禮拜堂も壓し潰される。
尖つた焔が，蛇のやうに，
木の梢に卷附いてゐる。
うつろになつた幹の根元まで，
眞赤に燒けただれてゐる。——　11345

（長い間を置く。歌）

常日頃，眼を慰めし，
いくももとせの老い樹亡びぬ。

ファウスト（樓閣の上で，沙丘に對ひ）

上の方から，何と云ふ悲泣の歌が聞えるのだ。

此處で何か云つても，もう間に合はない。
望樓守は悲しんでゐるが，俺も内心，　11340
短氣な仕草に惱んでゐるのだ。
併し，此上は菩提樹の株を伐つて，
半ば炭になつた幹は可愛さうでも，
無際限に廣く見渡す事の出來る
物見の塔をすぐに建てよう。　11345
俺の寛大ないたはりを恩に着て，
嬉しく晩年を送る
老人夫婦の營む
新しい住居も，もう見えるやうだ。

メフィストーフェレスと三人の者（下の方で）

全速力でやつて來ました。　11350
失禮ですが，穏和には行きませんでした。
戸を叩いても，押しても，
どうしても開けません。
ゆさぶる程叩き續けたら，
朽ちてゐた戸が倒れたのです。　11355
大聲で呼び立て，烈しく威しても，
どうしても聽き容れてくれません。
さう云ふ場合にはよくある事で，
人の云ふ事を聞きません，聞かうともしません。
併し，私達はぐづぐづせずに，　11360
素早く老人共を追拂ひました。
老人夫婦は格別苦しみもせず，
驚いて倒れると，もう息がないのです。
他國者が一人隱れてゐて，
双向はうとするから，やつつけました。　11365

僅かの間，烈しく爭つてゐると，
炭火があたり一面に撒き散らされて，
藁に燃え移りました。威勢よく燃え上つて，
三人が其儘火刑にされたのです。

ファウスト

俺の言葉が，お前達の耳に聞えなかつたのか。　11370
交換とは云つたが，略奪とは云はなかつたのだ。
思慮の無い亂暴な行動を
俺は呪ふ，責任はお前達分擔しろ。

合唱隊

古い言葉が響いて來る，
暴力にはおとなしく從へ。　11375
お前の氣が強くて，抵抗するなら，
家も屋敷も——お前の身も賭けろ。

（退場）

ファウスト（樓椽で）

星は光も姿も隱した，
火も衰へて小さく燃えてゐる。
薄氣味の悪いそよ風が吹いて來て，　11380
烟を俺の方へ吹きつける。
吩咐も早まつたが，行ひも早まつた。——
何だらう，影のやうに漂つて來るのは。

眞夜中

四人の灰色の女登場。

第一の女

私の名は不足といふの。

第二の女

私の名は罪惡といふの。

第三の女

私の名は憂愁といふの。

第四の女

私の名は困難といふの。 11385

三人一所に

戸がしまつてゐて，這入れないのね，
中に金持が住んでゐるから，這入りたくないわ。

不　足

それぢや私，影になつてよ。

罪　惡

それぢや私，なんでもなくなつてよ。

困　難

世間の人は，奢に慣れた顔を，私にそむけるわ。

憂　愁

皆さんは這入れないし，這入つてもいけませんわ。 11390
私だけ，鍵の穴から忍び込むのよ。

（憂愁，見えなくなる）

不　足

灰色の姉さん達，ここから逃げませう。

罪　惡

私，あなたの脇にくつ附いて行くわ。

困　難

私，あなたの踵にお伴して行くわ。

三人一所に

雲が通つて，星が見えなくなつたわ。 11395
あちらの奥の方の，遠い，遠い處から，

兄弟が來ますわ，あそこに，兄弟の——————死が。

（退場）

ファウスト（宮殿の中で）

四人來て，三人歸つたやうだ，
話の意味はよく分らなかつた。
後韵（あとひびき）したのは，なんでも——困難と云ふ言葉だが， 11400
其跡で陰氣な韵の——死といふのが聞えた。
うつろな，化物臭い，鈍い音調であつた。
俺はまだ清淨な天地へ出てゐないのだからな。
どうかして俺の徑（みち）から魔法を遠ざけ，
咒文をすつかり忘れ得まいものか， 11405
男一人となつて自然の前に立つたら，
それこそ，人間としての生き甲斐があるだらう。

俺も暗中模索して，生意氣な言葉で，
身も世も呪うた時までは，男一人であつた。
それが今では，妖氣が空中に滿ちて， 11410
どうして避けたら好いか分らない位だ。
晝日中（ひるひなか）は，淸く賢く笑つてくれても，
夜になると，俺を夢の織物に織込んでしまふ。
樂しい氣持で，新綠の野から歸つて來れば，
鳥が啼く。何と云うて啼く。不吉と啼くのだ。 11415
明けても，暮れても，俺は迷信の絲にまつはられる。
妙な物が見える，妙な事を告げる，用心をさせる。
それで俺はひるんでしまつて，孤立するのだ。
門がかたんと云うたが，誰も這入つて來ない。

（身の毛をよだてて）

誰か來たのか。

憂　愁

その間なら，はいと申します。　11420

ファウスト

そしてお前は誰だ。

憂　愁

ここに來てゐる者です。

ファウスト

引下がれ。

憂　愁

私はここに處を得てゐます。

ファウスト

（始めは怒つたが，後，自分を宥めて）

兎に角氣を附けてくれ，咒文は唱へてくれるな。

憂　愁

耳に私が聞えなくとも，

胸にはしつかり應(こた)へませう。　11425

私，いろいろ姿を變へて，

こはい威力を揮ひます。

小徑の上でも，波の上でも，

いつも心配な道連れです，

探さなくともすぐ見附かつて，　11430

お世辭も云はれ，呪はれもします。

貴方，まだ憂愁を御存じにならなかつたの。

ファウスト

俺は一圖に世の中を驅け拔けて來た。

どんな歡樂でも逃がさないやうにして，

心を滿足させないものは棄ててしまひ，　11435

取り損(そこな)つたものは，去るに任せて置いた。

熱望しては，ひたすら熱望を遂げ，

遂げると又熱望して，さう云ふ風に威勢よく，

俺は生涯を押通した。始めは盛大にやつたが，

今では賢明に，思慮深くやつてゐる。　11440

此地球上の事は十分知り盡した，

それを越えて彼岸へ拔ける目當はない。

誰でも，眼をしよぼしよぼさせて，天上を向いて，

雲の上に自分のやうな者がゐると思ふのは馬鹿だ。

立脚の地を固めて，己(おのれ)の周圍を見るが好い。　11445

爲すある人に，世界は沈默をしない。

永遠に亙つてさまよふ必要は有りやしない。

自分の認識した事は，手に取れるではないか。

さうやつて此世の日を送れば好いのだ，

妖怪が出て來ても，おのれの道を行けば好い，　11450

其道を進むには，苦痛もあり，幸福もある，

どんな瞬間でも滿足しない男にはだ。

憂　愁

誰でも私の持物になると，

其人には世界はなんにもならない。

永劫の暗が下りて來て，　11455

日が昇りもせず，沈みもしない，

外面の官能は完全でも，

內部に闇黑が住むで來る，

そしてあらゆる寶の中で，

何一つ手に入れる事が出來ない。　11460

禍福は其日の出來心になつて，

豐かに富みながら，餓ゑてゐる。

樂であらうが，苦であらうが，

明くる日へと押して行く，
たとへ未來が見えてゐても，　11465
物を仕上げる事は決してない。

ファウスト

やめろ，俺はそんな事でびくともしない。
そんな無意味な事は聞きたくない。
下がれ，筋の悪いそんな譫言には，
此上なしの賢い男もだまされさうだ。　11470

憂　愁

行つたが好いか，來たが好いか，
其人には決斷が出來ない。
道は拓(ひら)かれてゐるのに，其眞中を，
足で探つて，小股でよろける。
段段自分の居所(ゐどこ)が分らなくなつて，　11475
どんな物でも，藪にばかり睨んで，
自分にも，人にも厄介をかけて，
溜息をつくが，息がつまりさうだ。
息はつまらないが，生氣もない，
絶望はしないが，運命に服從もしない。　11480
さう云ふ小止みなき車の廻轉，
苦しさうによしたり，いやでもしたり，
解放されたり，抑壓されたり，
眠が半分で，氣分が悪い爲に，
其場で動きが取れなくなつて，　11485
地獄へ行く支度をさせられる。

ファウスト

呪はれた靈共，お前達はそんな風に
人類を百千回となく扱ふのだ。

何事もない日でも，お前達は，網に掛つた
苦惱の，たまらない混亂にするのだ。　11490
俺も知つてゐるが，惡靈は身から離れ難く，
靈の交りは嚴しくて，引放す事は出來ない。
併し乍ら，これ憂愁，お前の忍びやかな
大きな力も，俺は承認してやらない。

憂　愁

私が呪をかけて，素早く貴方に
背を向ける時，私の力を驗しなさい。　11495
人間と云ふ者は，一生盲のものですが，
それではファウストさん，貴方も盲におなりなさい。

（息を吹掛ける。退場）

ファウスト（失明して）

夜が段段深くなつて來たらしい，
併し，心の中では明るい火が輝いてゐる。　11500
俺の考へた事は，急いで完成させよう。
主人の言葉ほど重いものはない。
これ家來達，みんな寢床から起き上がれ。
俺が大膽に發明した事を美事に見せてくれ。
道具を手に取れ，ショベルと鍬を動かせ。　11505
割りあてられた仕事は，直ぐしなければならぬ。
規則をしつかり守つて，急いで精を出せば，
此上ない立派な褒美がある。
此大事業を完成するには，
千本の手に對する一つの靈で澤山だ。　11510

宮殿の大きな前庭

松明。

メフィストーフェレス（監督になつて前に立つ）

こつちへ來い。這入つて來い。
ひよろひよろした死靈共，
紐と筋と骨で編んだ
出來損ひめ。

死靈レムール等（合唱して）

早速御用を致しませう，　11515
ちらと小耳に挾んだ所では，
なんでも廣い土地があつて，
私共が手に入れるのださうで。

先の尖つた杙も，測量用の
長い鎖もここにあります。　11520
私共がなぜ呼ばれたのか，
もう忘れましたやうなわけで。

メフィストーフェレス

技術家めいた骨折なんか，ここではいらない。
自分の體で尺を取れば好いのだ。
一番のつぼの奴が長長と横になれ，　11525
外の奴等は周圍の芝を刈れ。
俺達の爺共を埋めた時のやうに，
長方形に掘下げろ。
宮殿から出て，狹い家へ這入る，
兎角仕舞には，こんな馬鹿を見るのだ。　11530

レムール等

（道化た身振で土を掘りながら）

俺も若い時は色戀をしたが，

乙な味だと思はせる。
面白ろおかしい歌聲聞けば，
足はひとりで出て踊つた。

やんがてずるい老が來て，　11535
撞木杖をばくれよつた。
蔦の戸口に躓いてころんだが，
なぜに戸口があいてゐたやら。

ファウスト

（宮殿から出て，戸口の柱を手で探りながら）

あの鋤のさくさく云ふ音は樂しみなものだ。
あれは俺の勞役に服する者の群だ，　11540
土をば崩れぬやうに盛り上げ，
波をば溢れぬやうに界をして，
海の周圍に嚴重な繩を張るのだ。

メフィストーフェレス（獨白）

お前は潟を作つたり，土手を築いたりして，
結局こちとらの爲に骨を折つてゐる。　11545
なぜかと云へば，お前は水の惡魔の
ネプトゥーン達に，大盤振舞をするからだ。
どんな事をしても，お前はもう駄目だ。——
地水火風はこちとらと結托してゐる，
そしてしまひには，何でも滅却するのだ。　11550

ファウスト

監督。

メフィストーフェレス

ここに居ります。

ファウスト

出來るだけの事をして，
勞働者を集められるだけ集めてくれ，
寫殿宜しきを得て元氣を出せ，
金も拂ひ，誘惑もし，いぢめもするが好い。
そして毎日俺に知らせてくれ，　11555
計畫した溝掘がどれだけ延びたかと。

メフィストーフェレス　（中擊で）

おれが受取つた知らせでは，
溝掘の話はないが，墓掘の話ならある。

ファウスト

あの山に沿うた處に沼があつて，
これまで開墾した所に毒瓦斯をかける。　11560
あの腐れ水の流れ口をつけるのが，
最後の仕事であり，最高の仕事でもある。
すれば，俺は幾百萬人に土地を開く事になる，
安全ではないが，働けば自由に暮らせる，
野面は綠して，土地が肥えてゐる，　11565
大膽で勤勉な民が盛り上げた，
あのどつしりした岡に沿うて植民する
人畜は，すぐ新開地に住み馴れる。
外では海水が岸の端まで荒れ狂うても——
内方（なか）の此處は，樂園のやうな土地なのだ。　11570
海水が無理に岸を取入れようと沙を喰んでも，
協同の精神は急いで其穴を塡める。
さうだ　俺の歸依してゐる意趣は，
知識の最後の歸結で，其はかうだ，
「自由と生活と　日日之を獲得する者にして，　11575
始めて之を味ふ權利あり。」

さういふ譯で，此處では危險に取卷かれて，
子供も，成人も，老人も，健かに年を送るのだ。
さういふ群を眼の前にしながら，
俺は自由な民と共に，自由な土地に住みたいのだ。　11580
俺は刹那に對つてかう云ふだらう，
「止まれ，お前は餘りに美しいから」と。
此世に於ける俺の功業の跡は，
千萬劫を經ても滅ぶものでない。——
かう云ふ大きな幸福を豫感しながら，　11585
俺は今最高の刹那を樂しむ。

（ファウスト，倒れる。死靈等之を抱へ，地上に置く）

メフィストーフェレス

どんな樂にも飽く事なく，どんな幸福にも滿足せず，
交交（こもごも）變る姿に媚びて，跡を追うて來た男だ。
そして最後の不景氣な，空虛な刹那を
引留めようと，此憐れな男は望んだのだ。　11590
おれにはあれ程手强く反抗しよつたが，
時は物を云ふ，老爺（おひぼれ）の奴，此處の沙の上に倒れてゐる。
時計は止まつた——

合唱群

止まつた。眞夜中のやうな沈默だ。
時針（はり）が落ちた。

メフィストーフェレス

落ちた，仕事は濟んだ。

合唱群

過ぎ去つた。

メフィストーフェレス

過ぎたと。馬鹿な言葉もあるもんだ。　11595

なぜ過ぎ去つてゐるのだ。
過ぎたのと，綺麗に何もないのとは，全然同じだ。
永遠に物を造るのは何のためだ。
又，造つた物を虚無に落とすのは何のためだ。
「今過ぎ去つた。」これに何の意味があらう。
云はば，始めから無かつたのと同じではないか，
其癖，何物か有るやうにぐるぐる廻つてゐる。
そんな事より，おれは永遠の虚無が好きだ。

埋　葬

レムール（独白）

こんなに悪く，誰が家を建てた，
ショベルを使ひ，鍬を使ひ。

レムール等（合唱）

麻の着物の，陰氣なお前には，
これでも随分出來過ぎた。

レムール（獨唱）

こんなにまづく，誰が廣間を飾つた，
椅子と卓子は何處にある。

レムール等（合唱）

あれはしばらく借りたのだ。
借金取のさても多いこと。

メフィストーフェレス

身體は倒れて，靈は逃げようとしてゐる，
例の血で書いた證文を早く見せてやらう。——
どうも困つた事だが，此頃は悪魔の手から
靈をもぎ取る手段が多くなつて來た。

古い方法では埒が明かず，
新しい方法は，未だのみこんでゐない。
昔はおれひとりでやつたものだが，
今では助手を呼ばなければならない。

何事につけても，我我は具合が悪くなつた。
あり來りの習慣でも，昔からの權利でも，
何一つたよりにする事が出來ない。
以前は最後の息と一所に靈が飛出すと，
おれが氣を附けてゐて，素早い鼠のやうに，
ちよいと握りしめた手に攫んだものだ。
今では靈がもぢもぢして，陰氣な場所だのに，
あのたまらない死骸の，胸の悪い家を出たがらない。
しまひには，互ひに憎み合うてゐる元素に
逐ひ出されるのだから，好い面の皮だ。
それでおれは，朝でも，晩でも苦勞してゐるが，
いつ，どこから，どうして出るか，こいつ面倒な問題だ。
昔の死が素早い力を失うたので，
死んだか如何かと云ふ事からして，長い間疑はしい。
おれは時時，硬直した體に色眼を使つたが，
其は只の上べで，動き出した事がある。

（幻想的ではあるが，兵卒に擧動を示す伍長の如く，呪詛の身振をする）

さつさと來い，足並を倍にして來い，
これ，角の眞直な大將と，角の曲つた大將，
どれも由緒の正しい悪魔の家柄だ，
來る時，地獄の吭を持つて來てくれ。
無論地獄には色色の澤山の吭があるからな。

それが身分や勲爵に應じて呑み込むのだ。
でも，未來へと逐ひやる此最後の活劇では，
なにもさうこまかく分けるに及ばない。

（左の方に氣味の惡い地獄の吭が開かれる）

絲切歯が開いたぞ。咽喉の圓天井には，
狂ふやうな勢で，火焔の勢が湧いて出る，
其背後にある，湧き立つ熱氣の中に，
永遠に焦熱した焔の市が見える。
紅い大浪は歯の所まで寄せて來て，
呪はれたやつ共が，救ひを求めて，泳いで來る。
それをヒュエーネの牙が猛烈に嚙むと，
やつ共はおづおづと熱い旅路を繰返す。
あの隅の所には，まだ色色の物が見附かる，
狹い處だが，澤山の恐怖があるものだ。
お前達は罪人をこはがらせるが好からう，
僞だ，まやかしだ，夢だと思うてゐるのだからな。

（短い眞直な角のある，肥大した惡魔等に對ひ）

これ，火の樣な頰をした，肥つたごろつき共。
地獄の硫黄で脂ぎつて，好く燃えてゐる。
丸太ん棒の樣に短い，動けない頸ぢやないか。
蹲のやうな物が光つて出るから，下の所で待つてゐろ。
それは靈なのだ，翼のあるプシューケなのだ，
それをむしつて見ろ，たまらない蛆蟲になる。
おれがスタムプを打つてやるから，其時，
それを持つて，火焔の渦卷く嵐の中を逃げてくれ。

體の下の部分に氣をつけてゐてくれ，
太つちよめ，それがお前達の務と云ふものだ。

靈がそこいらに住んでゐるか，ゐないか，
くはしい事は分りやしない。
皆には隨分喜んで住むのだ——
あそこを飛出すから，氣をつけゐてくれ。

（長い曲つた角のある，痩せた惡魔等に對ひ）

これ，たわけ共，伍長の恰好をした巨人共，
貴樣は拳をつかんでゐろ，休んではいけないぞ。
腕をぐつと延ばして，鋭い爪を出して，
ふらふらと逃げるやつを攫むのだぞ。
靈は古い家の中が確かに厭なのだ
おまけに天才と來てゐる，こいつすぐ上から出るのだ。

右の方から光明がさして來る。

天上の人の聲

遣はされたる者よ，
天なる親族よ，
罪ある人をゆるし，
塵をも活かさんため，
安らかに翔り來よ。
いざよふ列の
漂ひのひまにも，
なべての物に，
うれしき眞をこそ。

メフィストーフェレス

厭な聲が聞える，胸の惡い響だな，
うれしくもない天明と一所に天から來るのだ。
男か女か判然しない下手な歌だ，
信者ぶる趣味の奴には氣に入るだらう。
我我が殘忍な氣になつて，

人間の全滅を考へ出した事は，お前も知つてゐる。 11690
我我の考案した一等ひどい罪が，
祈つてやるに丁度好いと，奴等は思つてゐる。

箆棒め，僞善者のやうにやつて來る。
かうやつて今迄，幾人も横取りをしたのだ，
我我の武器で以て，我我に刄向つて來る。 11695
つまり，やつ等も惡魔だ，ただ假面を被つてゐる。
ここで負けたら，永遠の恥といふものだ。
墓のそばへ來て，絲を固く守つてくれ。

天使の合唱隊（ばらの花を撒きつゝ）

紅もゆる，
好き薫送るばらの花よ。 11700
ひるがへり，漂ひて，
ひそかに活かすものよ，
小枝の翼もちて，
蕾の開かれしものは，
急ぎて花咲け。 11705

春よ，芽ぐめよ，
紅に，また綠に。
眠れる人に
樂園をもたらせ。

メフィストーフェレス（惡魔等に對ひ）

なぜしやがんだり，びくついたりする。地獄の習慣なのか。 11710
勝手に撒かせて置いて，ふみこたへてゐろ。
野郎共めいめいが其場を守るのだ。
やつ等は，こんな花を雪と降らして，

熱い惡魔を埋める氣らしい。
息をすれば，溶けてちぢんで仕舞ふ。 11715
そら，ふうと吹けよ，頰ばれめ。——もう好い，好い。
お前達の息で，飛んで來るものは色がさめる。——
そんなに力を入れるな，口と鼻を閉ぢるのだ。
どうも餘り强く吹き過ぎたぞ。
程合ひといふものを知らないからな。 11720
ちぢれる丈ちやない，茶色に乾いて燃え出すぞ。
もう毒のある紅い火と一所に飛んで來る，
みんな固まつて頑張つてくれ。
おや，勢が拔けたぞ，勇氣は何處へ行つた。
惡魔共がおかしな，媚のある熱を感じ出したのか。 11725

天　使（合唱）

聖なる花の
うれしき焰は，
心の望むままに，
愛を世に弘め，
歡びを造り出づ， 11730
眞(まこと)の言葉は
清き顔氣(かうき)なれや，
天使の群に，
到る處，日の光となる。

メフィストーフェレス

こら，拔作共，呪つても足りない，恥の上塗をしろ。 11735
惡魔の癖に逆立をしたり，
不恰好な體でとんぼ返りをしたり，
屁つぴり腰で地獄へ墮ちて行くとは何事だ。
自ら求めた熱湯をありがたく心得ろ。

おれは此持場で頑張つてやる。——

（漂つて來るばらの花を打拂ひつつ）

鬼火め，失せないか。どんなに輝いてゐても，
つかめば，胸の悪い膠と乳酪になる。
なぜふらふらするのだ。きりきり失せてしまへ。——
土瀝青か硫黄のやうに，頸にべたつくわい。

天　使（合唱）

いましらに屬せざる物は，
いましらけ避けざるべからず，
いましらの心を亂す物は，
いましら敢て好まんや。
力も強く侵し來らば，
我等奮ひ立たざるべからず。
愛する人を導き入るるは，
只愛のみぞ。

メフィストーフェレス

やれやれ，頭が燃える。胸も，肝も燃える，
超惡魔級の火だ。
地獄の火よりずつと痛い。——
お前達，不幸な戀人が，肘鐵砲を食ふと，
首をねぢ曲げて，戀人の方を見て，
一通ならず若しむのは，こんな火の爲だな。

いや，おれも妙だぞ。いやに頭があつちへ向きたがる。
あれとは不倶戴天の爭をしてゐるではないか。
いつもは，あれを見ると，ひどく敵視したものだ。
へんな物が體ぢゆう染み渡つたのかな。
どうもあの可愛らしい小僧共が見たくてたまらない。

ここで呪つてはいけないと云ふ法は無からう。——
おれがもし誑かされでもした日にや，
後から馬鹿者と云はれるのは誰だ。
おれが憎んでゐる不良少年共だが，
どうも素的に愛らしく見えるて。

これ，美しい小僧共，おれに聞かせてくれ，
お前達も矢張ルーツィフェルの一族ではないか。
隨分綺麗だなあ，ほんとにキスをしたい位だ，
お前達は丁度好い所へ來たやうだ。
こつそりと猫のやうに物を欲しがるそぶりが，
もう千度も見た事があるやうで，
おれは何とも云へない好い氣持がする。
見れば見る程，美しさが一段と美しくなる。
もつと近く寄つて，おれを一眼見てくれ。

天　使

行きますよ，なぜ後すざりなさるの。
今近寄りますよ，出來たらそこにお出でなさい。

（天使等躊躇として來り，場所一面を塡める）

メフィストーフェレス

（前舞臺へ押出される）

お前達は，我我を，呪はれた靈だと惡口するが，
其癖，お前達が本當の魔法使だぞ。
何故と云へば，お前達は男も女も迷はすからだ。——
さてさて忌忌しい冒險に逢ふ事だ。
此火が戀の元素といふやつなのか。
おれの體はどこでも火になつてゐるから，
頸に燃えつくのが感じない位だ。——

お前達，あちこちふはふはするが，ここへ降りて來い，
其やさしい手足を，一寸人間並に動かしたら如何だ。
ほんとに生眞面目な顏が似合だなあ。
でも，一度だけ笑つて見せてくれないか。
それは，おれには永遠の歡喜といふものだ。
あの惚れ合つた同志がする目附をしてくれ，
口を一寸引釣らせたら，其で好いのだ。
これ，背の高い小僧，おれは一番お前が好きだ，
其坊主めいたそぶりは似合ひやしない，
少しは色目を使つておれを見てくれ。
それから，も少し肌が見える樣に歩けさうなものだ，
そんな長い，襞のついた襦袢は上品すぎる——
向きを變へたな——後から見ても——
腦白小僧，なかなか旨さうだわい。

天使の合唱群

愛の焰よ，
淸き方へ向け。
自ら呪ふ者を
救へよ，眞。
うれしくも
惡より逃れ，
萬法と共に
救はれよ。

メフィストーフェレス（氣を取直して）

へんな氣がする。——ヒーオブの樣に
體一面火ぶくれになつて，薄氣味が惡い，
同時に，自分の奧底を見極めて，
自分と自分の種族に信頼すれば，凱歌も奏せる。

惡魔の持つてゐる氣高い部分が救はれて，
戀のお化が皮膚の上に出たのだ。
もうあの仕樣のない火は燃え盡した，
當り前の事だが，お前達全體をおれは呪ふ。

天使の合唱群

聖なる火よ。
其火に包まれん人は，
世に長らへて，善き人と共に，
神神しさを覺えよ。
いましらすべて，
共に起てよ，稱へよ，
空は淸められぬ，
靈よ，息せよ。

（ファウストの不滅の靈を携へて天使等昇天する）

メフィストーフェレス（見廻しつつ）

おや，どうしたのだ。——どこへ行つたのだらう。
まだ成人にならないやつ共が，出し拔けに來て，
分捕物を持つて，天へ飛んで行つたのだな。
それだからこそ，此墓の脇で摘み食ひをしてゐたのだ。
たつた一つの大きな寶を，おれは横取りされた，
高貴な靈は，おれが貿に取つて置いたのに，
それを，ずるくも，かつぱらつて行つたのだ。

おれは誰に不平を云つたら好いのだ。
誰がおれの旣得權を擁護してくれるのだ。
貴樣，老年になつて騙されたぞ，
自業自得といふものだ，怖ろしく不景氣だな。
おれは飛んだ下手をやつてしまつた，

大きな派手仕事が，人聞きの悪い，駄目になつた，
劣情や，馬鹿らしい愛慾が，
ふじみの悪魔を襲つたからな。
こんな子供らしい，たわけた事に，　11840
世慣れたおれが引懸つたのだから，
後になつて見ると，
おれの馬鹿さは並大抵の事ぢやない。

山中の谷間，森，岩，寂しい所

神聖な隱者達が，山の上や，岩の穴の間に分かれてゐる。

合唱と反響

林はゆらぎ寄り，
岩は其傍に重なり，　11845
木の根は固くまつはり，
幹と幹とは並び立つ。
小川の波は波を逐うて迸り，
いと深き洞窟（ほらあな）は物を隱す。
やさしくも，獅子は聲なく，　11850
我等をめぐりて歩み，
神神しき場所を，
聖なる愛の庫と敬ふ。

法悦の教父[1]（上下に漂ひつつ）

とはなるや，法悦の火，
燃え立つや，愛の契，　11855
沸き立つや，胸の痛み，
泡立つや，神の樂しみ。

1 法悦の教父，沈思の教父と云ふ名は類型的の名稱に過ぎない。

征箭よ，我を射拔け，
槍よ，我を刺し通せ，
棒よ，我を削ぎ碎け，　11860
雷電よ，我を燒き盡せ。
ありて甲斐なきものを，
すべて，飛び散らしめ，
久遠の愛の核心なる，
永劫の星を輝かしめん爲。　11865

沈思の教父（低い處で）

岩の斷崖（きりぎし）が，私の脚の下で，
深い谷底の上に重く坐つてゐるやうに，
千本の小川が光つて流れて，
怖ろしい早瀨となつて，しぶきを上げるやうに，
自分自らの強い衝動の力で，　11870
木の幹が眞直に天へ聳えるやうに，
一切のものを形成し，一切のものをはぐくむ，
威力ある愛も此通りである。

此身の周圍に怒號する水音が聞えて，
森も岩底も波立つかと思はせるけれど，　11875
早瀨ではあるが，せせらぎの音も優しく，
靄かな水量が瀧壺へと落ちるのは，
早く平地を潤さんが爲である。
霧と霧を胸に抱いてゐる
下界の大氣を廓清せん爲，　11880
雷電は燃えつつ落ちて來る。

すべてが愛の使者である，此使者は，

永遠に創造しつつ我我を取圍む力を告げ知らせる。
願くば此力は，鈍い官能の檻に囚はれ，
緊しく鎖に繋がれて苦しみ，　11885
紛糾して，冷かにも，靈が惱んでゐる
私の胸の中にも，火を點じてほしい。
ああ，神よ。願くば私の思考を默せしめ，
私の貧しい心を照らして下さい。

天使のやうな敎父[1]（中間の處で）

あの樅の林のゆらぐ髮の毛の間を通つて，　11890
曉の雲がゆらめいて來る。
雲の中に生きてゐるものを中てようか。
あれは衆兒の靈の群だ。

昇天童子の合唱群

お父樣，私達は何處をめぐつてゐますか，
親切な方，私達は何者ですか，聞かせて下さい。　11895
私達は幸福です，みんなに，みんなに，
此世が隨分穩やかですもの。

天使のやうな敎父

子供達。眞夜中に生れて，
心も，感覺も，半ばめざめた者達，
二親にとつては，すぐ亡き數に這入つたが，　11900
天使達にとつては，儲け物となつたお前達。
愛してやるものが，一人此處にゐる事は，
お前達も知つてゐる，こちらへ來るが好い。
世の中の道の險しい事は，仕合せな
お前達は，少しも知らないのだ。　11905
此世にゐて役に立つ道具である，

1 通常アシジの聖フランチスタスに與へられた名。

私の眼の中へ下りて來るが好い，
そして此眼を自分の物として使つて，
この四邊の模樣を觀るが好い。

（童子等を眼の中に受取る）

これが木立だ，これが岩だ，　11910
あれが水の流で，落ちて行くと，
けたたましい早瀨となつて，
險しい道を縮めるのだ。

昇天童子等（眼の中から）

壯んな觀物ですことね，
だが，此場所は餘り陰鬱です，　11915
怖ろしくて，無氣味で慄へます，
氣高い親切なお方，あちらへ導つて下さい。

天使のやうな敎父

では高い國へ昇つて行くが好い，
いつもの淸淨なやり方で，
神樣の御前で力がつくやうに，　11920
いつとはなしに成長するが好い。
何故と云へば，其が自由な大氣の中にある
靈達の養分であるのだ，
末は天福と舒び廣がるべき
永遠な愛の啓示であるのだ。　11925

昇天童子の合唱群

（山の高い嶺をめぐりつつ）

手をば，うれしく，
輪につなぎ，
動きて，うたへ，
聖なる心。

神の道さとされて，　11930
頼るすべ知らん，
いましらが敬ふ神を，
仰ぎ見るを得ん。

天使等

（やや高い空中に漂ひながら，ファウストの不滅の靈を抱く）

靈界の氣高い一人が，
惡の手から救はれたのです，　11935
「誰にもあれ，たえず努力する者は，
我等これを救ふことを得。」
そして此方には，上の方からも
愛が加はつて來ました，
天福を享けた人人の群が，　11940
眞心こめて，此方を歡迎するでせう。

未熟の天使等

愛し給ふ神聖な贖罪の女達の
手から戴いたあのばらの花が，
私達の助けとなつて，勝たせたのでございます，
此靈の寶を取上げる　11945
高遠な事業を完成させたのでございます。
私達がばらを撒くと，惡人は退けました，
私達が其を命中ると，惡魔は逃げました。
日頃慣れてゐる刑罰の代りに，
惡靈共は愛の惱みを感じたのです。　11950
あの年を取つた惡魔の親方でさへ，
痛い苦しみを，ひしひしと身に感じました。
歡呼の聲をあげませう，成功したのですから。

成熟の天使等

私達には，下界の殘物を
擔ぎ持つてゐるのが，苦しいのです，　11955
たとへ其が石綿で出來てゐても，
淨らかではないのです。
強い靈の力が，
多くの元素を
手許に引寄せてゐると，　11960
どんな天使でも，
靈と物の內面的な二つが
統一して出來た兩面體を離す事が出來ません，
永遠な愛のみが
分ける事が出來るのです。　11965

未熟の天使等

岩の絕頂を周つて，霧のやうにゆらいで，
近く動いてゐる
靈達のけはひを，
私は今すぐ感じます。
細雲は澄んで，　11970
昇天童子達の
賑やかな群が見えます，
下界の壓迫から離れて，
集つて圈をかいて，
天上界の　11975
新しい春の飾を
吸うて息附く子供達です。
此方も初めの中は，
天の陽の大きうなるやうに，
此子供達と一所にゐるが好いでせう。　11980

私共は喜んで，蜉のやうな
此方を迎へます。
さうしますと私達は，
天使の質(しち)を持つ事になります。
此方を包んでゐる
綿の層を取つてやつて下さい。　11985
これでもう神聖な生活の爲に，
美しくも大きくおなりになります。

マリーア崇拜の博士

（一番高い，一番清らかな石室で）

此處は見晴らしが自由で，
精神も高尚になる。
あそこを，上の方へ漂ひながら，　11990
女の人達が通り過ぎる。
其間中に立派なお方が，
星形(ほしがた)の飾をしてお出でになる，
あれは天の女王だ，
光明で知れる。　11995

（法悦にひたり）

世界最高の女王よ。
青く張廻らした
天津御空の幕の中で，
貴方の神祕を仰がせて下さい。　12000
男子の胸をば
眞面目に，又優しく動かし，
神聖な愛の樂しみを以て，
貴方に捧げ向ふ物を認めて下さい。

貴方が嚴かに御命令なさると，　12005
私達の勇氣はやぶれがたくなります，
貴方が私達に滿足をお與へなさると，
熱ある心も速に軟かくなります。
一番美しい意味での清淨な少女(おとめ)，
崇敬に値する神母，　12010
私達の爲に選ばれた女王，
神神と生れを同じうする女神。

神母を巡(めぐ)つて
輕く動く雲は，
贖罪の女達です，　12015
貴方のお膝のまわりに
靈氣を吸うて，
お惠みを待つてゐる
しほらしい人達です。

觸れる事の出來ない貴方にも，　12020
たやすく誘惑される人人が，
貴方を手賴にお縋り申すことは，
とめてありません。

あの人人は弱味へ引込まれると，
助けてやるにもむつかしいのです。　12025
自らの力で慾望の鎖を
斷つ事は，誰がしませう。
斜に，滑らかな床の上を，

足はどんなに早く滑り落ちるでせう。
眼指(まなざし)，會釋，媚びるやうな息に，
だまされない人は誰でせう。

光明聖母，漂ひ來る。

贖罪の女の合唱詩

永劫の國なる空へ，
御身は漂ひたまふ，
われ等の願ひを聞きたまへ，
たとふる物なき御身よ，
惠みも多き御身よ。

大なる女罪人（路加傳第七章第三十六節）

ファリゼーエル人(びと)の嘲を受けつつも，
神と淨められたまうた御子(みこ)の御足(おんあし)に，
香油のやうに涙を流しました，
其愛にかけて願ひ奉ります。
あれ程多くの香料を滴した
髮にかけて願ひ奉ります，
神聖な御手足を軟かに拭うた
捲髮(まきげ)にかけて願ひ奉ります。

ザマリーアの女（約翰傳第四章）

昔かつてアーブラムが家畜に飲ませた
泉水にかけて願ひ奉ります，
救世主の唇に觸れて冷した
釣瓶にかけて願ひ奉ります。
あちらから注いで來て，
いつも澄んで溢れて，
全世界をも周(あま)ねく流れる，
清らかな，豐かな泉にかけて願ひ奉ります。

エヂプトのマリーア（聖者行狀錄）

主の君に腰を下ろさせ申した
神聖な場所にかけて願ひ奉ります，
私を叱つて，入口から押出した
腕にかけて願ひ奉ります。
沙漠で私が忠實に守つて來た，
四十年の贖罪にかけて願ひ奉ります，
私が沙に書き下した，
うれしい別れの言葉にかけて願ひ奉ります——

三人して

大罪ある女共にも，
お側にゐる事を禁じなさらず，
懺悔の功德を
永久に殖(ふや)して下さる貴方樣は，
只一度自分を忘れた丈で，
自らの過ちにも氣附かなかつた，
此善い靈に
ふさはしくも，お免しを願ひ奉ります。

贖罪の女の一人，前にグレーチンと呼ばる

（神母に縋りつきながら）

譬へん物もない貴方樣，
光明の輝き渡る貴方樣，
惠み深くもお顏をお向けなされて，
私の仕合せを御覽下さいますやうに。
昔，戀ひ慕はれたお方，
今は濁りのないお方が
歸つてお出でになりました。

昇天童子等

（圓の形に動いて近づく）

此方は，もう私達より大きくおなりです，
手や足がこんなに強く伸びました。
忠實にお世話を致した報いを，
どつさりして下さるでせう。
私達は人の世の騒しさから，　12080
早く遠ざけられましたが，
此お方は學問をなさつたから，
私達にも教へて下さるでせう。

一人の贖罪の女，前にグレーチヘンと呼ばる

尊い靈の群に取圍まれて，
あの新參の方は，御自分がお分りになりません。　12085
新しい生活には，まだお氣が附かないのです，
ですけれど，神聖な方方にもう似てお出でです。
御覽遊ばせ。地上の羈絆を悉く切つて，
古い肌から拔け出ておしまひなされて，
靈氣の衣裳から　12090
始めての若若しい力が現はれてゐます。
あの方に教へることを許して下さいまし，
新しい日の光が，まだあの方に目映いのです。

光明神母

お出で。もつと高い空へ昇るが好からう，
お前に氣が附けば，其人も附いて行きます。　12095

マリーア崇拜の博士

（頭を低れて祈念しつつ）

悔ゆる心のやさしき者等よ，
祝福ある運命に，
ありがたくも身を置き換へん爲，

救ひの御眼指を仰ぎ奉れ。
いかなる善き心も，　12100
汝がために用を務めよ。
少女よ，神母よ，女王よ，
女神よ，惠みを垂れ給へ。

神祕合唱隊

すべてのはかなきものは，
ただ形像なるのみ。　12105
足らざりし所のものは，
ここには既に事件となれり。
名狀すべからざるものは，
ここには既に成されたり。
久遠の女性は　12110
我等を曳き行く。

大　尾

後　記

この飜譯は大正十三年五月に着手、七月に第一部を完了、九月に第二部に入つて引き續き進行中、大正十四年一月に第三幕の途中の9661行まで來た時、譯者が腦溢血で倒れて一時中止となつたが、幸に病氣の恢復が順調に捗どつた爲、五月に再び着手、七月に完成、九月に大村書店版ゲーテ全集第三卷として刊行された。その後、大東出版社に受け繼がれ、同社版ゲーテ全集第三卷・第四卷として昭和十七年二月及び十二月に刊行された。

譯者は出版された後に改訂を志し、昭和二年頃2003行まで進んだが、身邊多事の爲に續行出來ず、昭和八年九月に逝去した。

本書は昭和九年十二月に、第八高等學校同窓會會員諸賢の援助を得て大村書店より刊行され、この度、大東出版社より再刊の運びに至つたものである。組にしたのは、譯者が豫て「この飜譯は、學生が原文を傍に置いて讀むのを目當にしたものだ」と云つてゐたので、その意

に副はんが爲に外ならない。

校訂に際して、上記の譯者自身の手による改訂と誤植訂正とは總て之に從ひ、その他の自分の氣附いた誤植・組み誤りは出來るだけ之を正した。解題と註とには手を觸れなかつた。本文の組方に就いては、譯者の使用した臺本の外に

Goethes Faust. Kritisch durchgesehen, eingeleitet und erläutert von Robert Petsch (Meyers Klassiker)

をも參照した。

昭和十八年六月

櫻井國隆

(出版警察第 ㊀-120511)

檢印

昭和十八年十月五日印刷
昭和十八年十月十日發行

定價 五圓五十錢
特別行爲稅相當額 十五錢
合計 金五圓六十五錢

譯者 櫻井政隆
東京都芝區芝公園七號地十番

發行者 岩野眞雄
東京都芝區濱松町二丁目一三

印刷者 大河内健二
東京都神田區淡路町二丁目九

配給元 日本出版配給株式會社

發行所 大東出版社
東京都芝區芝公園七號地一〇番
電話芝(43)三九四四
振替東京一九四七一
會員番號一一六五三六

フアウスト

全廿卷ゲーテ全集目錄・大東出版社刊

1	詩集	元海軍大學教授 三浦吉兵衛譯	11	マイステルの遍歷時代	前大阪高校々長 石倉小三郎譯
2	西東詩篇 他一篇	東北帝大助教授 奥津彦重譯	12	わが生涯から（上）	京大教授 文博 雪山俊夫譯
3	ファウスト（上）	元八高教授 櫻井政隆譯	13	わが生涯から（下）	京大教授 文博 雪山俊夫譯
4	ファウスト（下）	元八高教授 櫻井政隆譯	14	伊太利紀行 他一篇	商大教授 文博 吹田順助譯
5	ゲッツ 他三篇	法大教授 關口存男譯	15	第二次羅馬滯在 他二篇	商大教授 文博 吹田順助譯
6	戀人のむら氣 他五篇	中大教授 橋本忠夫譯	16	藝術論集	法大教授 谷川徹三譯
7	エルテルの惱み 他四篇	八高教授 鼓常良譯	17	自然科學論集	理博 石原純・島田成雄譯
8	親和力	元法大教授 益田國基譯	18	年代記錄	東北帝大助教授 奥津彦重譯
9	マイステルの徒弟時代（上）	元法大教授 益田國基譯	19	書簡集	早大教授 舟木重信譯
10	マイステルの徒弟時代（下）	元法大教授 益田國基譯	20	ゲーテ評傳	早大教授 文博 山岸光宣著

B6判9ポイント組・クロース表紙・上製本
各冊平均六百五十頁
定價各冊參圓八拾錢（送料十八錢）

942
G56b1
942-G56bイウ
1200500760104

賣價(税込)¥5.65

終